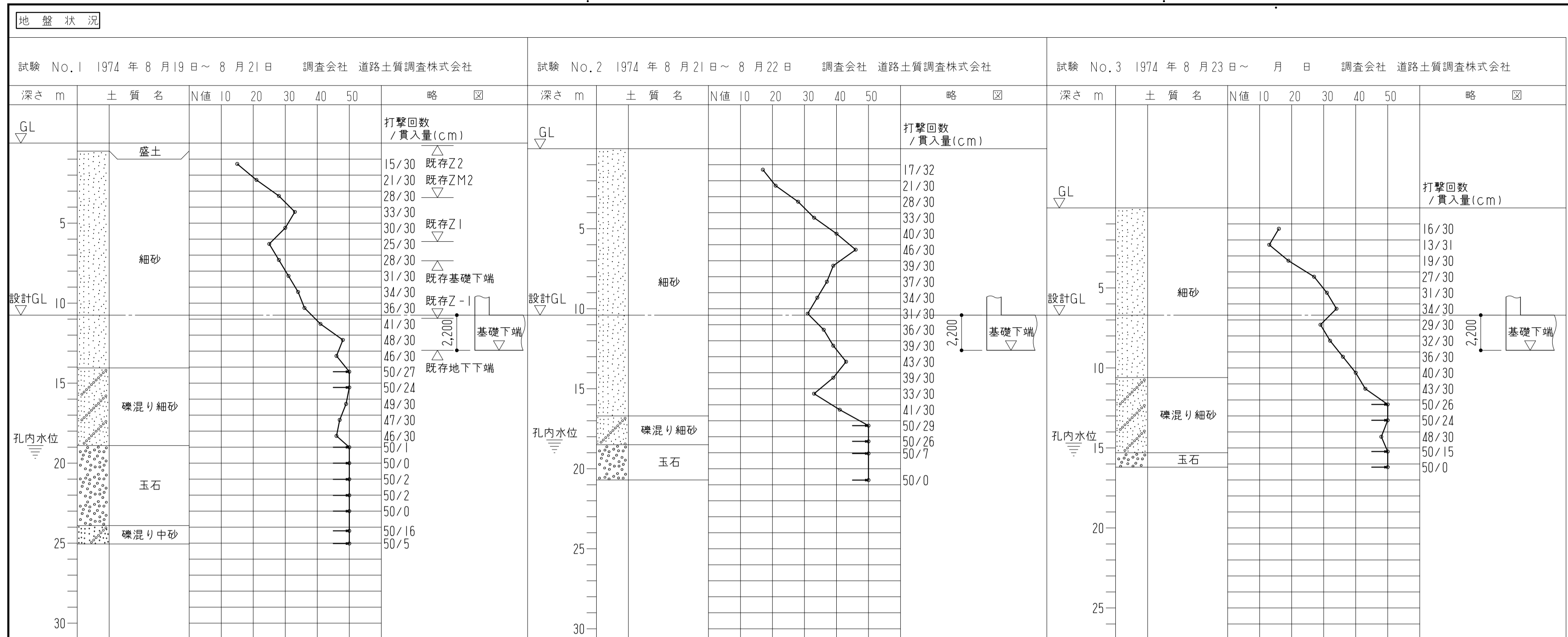


図面番号	図面名称	主要縮尺	図面番号	図面名称	主要縮尺	図面番号	図面名称	主要縮尺	図面番号	図面名称	主要縮尺
S - 01	構造設計条件	—	S - 50	Y3通り鉄筋詳細図	1/40				—		
S - 02	土質柱状図 (1)	—	S - 51	Y3通り鉄骨詳細図	1/40				—		
S - 03	土質柱状図 (2)	—	S - 52	設備架台・目隠壁 伏図、軸組図、各断面表	1/200,30						
S - 04	荷重条件図 (1)	1/400									
S - 05	荷重条件図 (2)	1/400									
S - 06	建築工事特記仕様書 (構造編1)	—	S - 101	キャットウォーク詳細図	1/100						
S - 07	建築工事特記仕様書 (構造編2)	—	S - 102	ポンプ室、階段構造図	1/200						
S - 08	配筋基準共通事項 1	—	S - 103	タワークレーン詳細図	1/200						
S - 09	配筋基準共通事項 2	—	S - 104	詳細図 (1)	—						
S - 10	配筋基準	—									
S - 11	鉄骨鉄筋コンクリート造配筋基準図	—	S - 201	東側擁壁 伏図・断面図・配筋図	—						
S - 12	鉄骨基準図	—									
S - 13	溶接基準図1	—									
S - 14	溶接基準図2	—									
S - 15	溶接基準図3・溶接要領図	—									
S - 16	ニューフェローデッキ設計標準仕様書	—									
S - 17	基礎伏図	1/200									
S - 18	B1階梁伏図	1/200									
S - 19	1階梁伏図	1/200									
S - 20	2階梁伏図	1/200									
S - 21	3階梁伏図	1/200									
S - 22	4階梁伏図	1/200									
S - 23	5階梁伏図	1/200									
S - 24	屋根伏図	1/200									
S - 25	軸組図 (1)	1/200									
S - 26	軸組図 (2)	1/200									
S - 27	軸組図 (3)	1/200									
S - 28	軸組図 (4)	1/200									
S - 29	軸組図 (5)	1/200									
S - 30	基礎梁断面表・基礎小梁断面表	1/30									
S - 31	柱芯線図	1/200,100									
S - 32	柱断面表 (1)	1/30									
S - 33	柱断面表 (2)	1/30									
S - 34	柱断面表 (3)	1/30									
S - 35	柱断面表 (4)	1/30									
S - 36	大梁断面表 (1)	1/30									
S - 37	大梁断面表 (2)	1/30									
S - 38	大梁断面表 (3)	1/30									
S - 39	大梁断面表 (4)	1/30									
S - 40	大梁断面表 (5)	1/30									
S - 41	大梁断面表 (6)	1/30									
S - 42	大梁断面表 (7)	1/30									
S - 43	大梁断面表 (8)	1/30									
S - 44	小梁断面表	1/30									
S - 45	スラブ断面表	—									
S - 46	壁断面表 (1)	1/30									
S - 47	壁断面表 (2)	1/30									
S - 48	雑詳細図 (1)	—									
S - 49	雑詳細図 (2)	1/30,200,300									

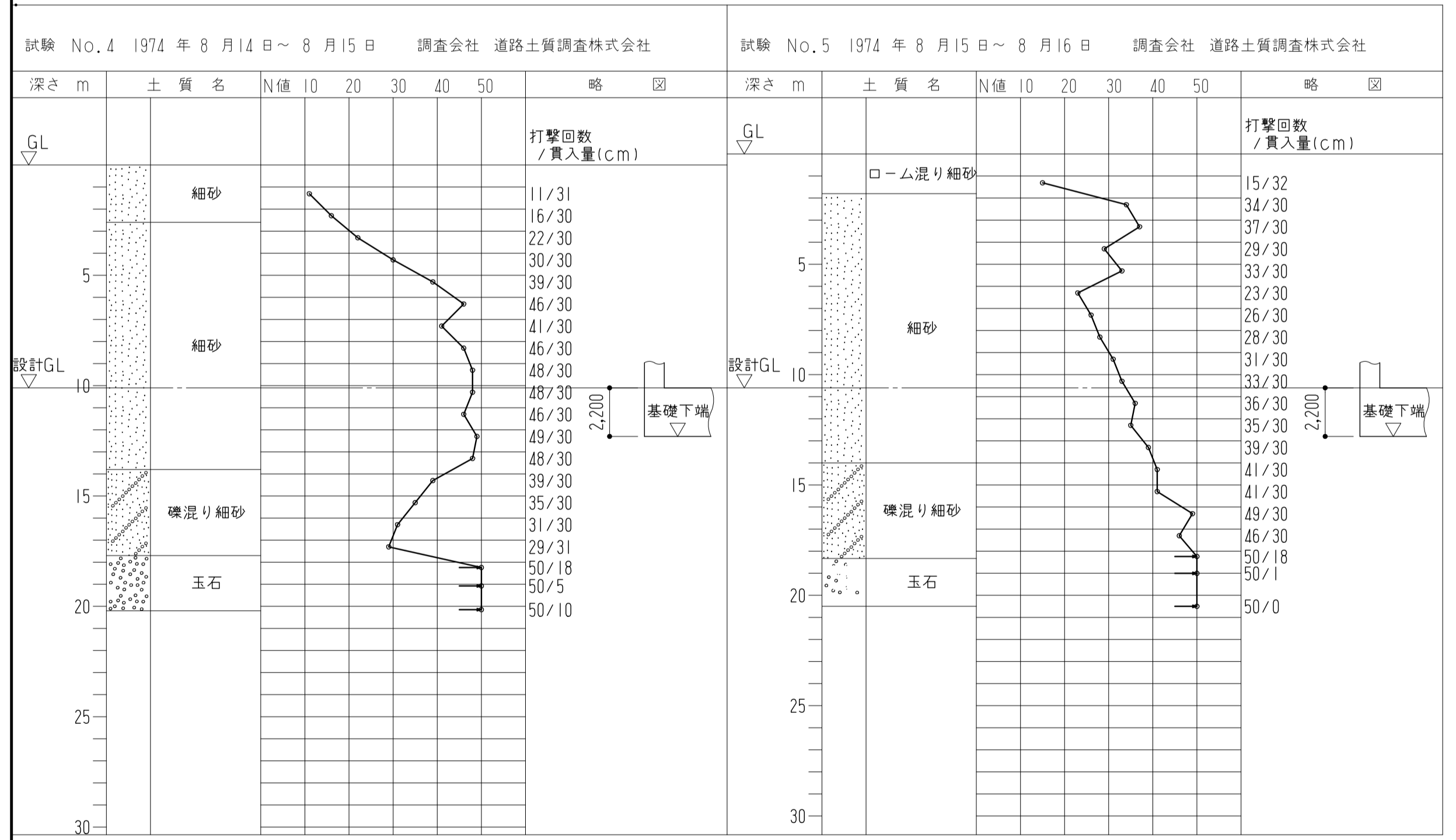


1) 設計GL = TP+16.39 m
 2) 既存施設建設時地質資料の標高はTP基準ではない。
 敷地北東角のマンホール天端を標高+10.00mと想定。
 3) ボーリングGL = 標高 19.15 m
 = 設計GL + 10.75 m
 = TP + 27.14 m
 4) 孔内水位 = ボーリングGL - 18.90 m
 = 設計GL - 8.15 m
 = TP + 8.24 m

1) 設計GL = TP+16.39 m
 2) 既存施設建設時地質資料の標高はTP基準ではない。
 敷地北東角のマンホール天端を標高+10.00mと想定。
 3) ボーリングGL = 標高 19.15 m
 = 設計GL + 10.75 m
 = TP + 27.14 m
 4) 孔内水位 = ボーリングGL - 18.90 m
 = 設計GL - 8.15 m
 = TP + 8.24 m

1) 設計GL = TP+16.39 m
 2) 既存施設建設時地質資料の標高はTP基準ではない。
 敷地北東角のマンホール天端を標高+10.00mと想定。
 3) ボーリングGL = 標高 19.15 m
 = 設計GL + 10.75 m
 = TP + 27.14 m
 4) 孔内水位 = ボーリングGL - 18.90 m
 = 設計GL - 8.15 m
 = TP + 8.24 m

KBM
TP=25.649

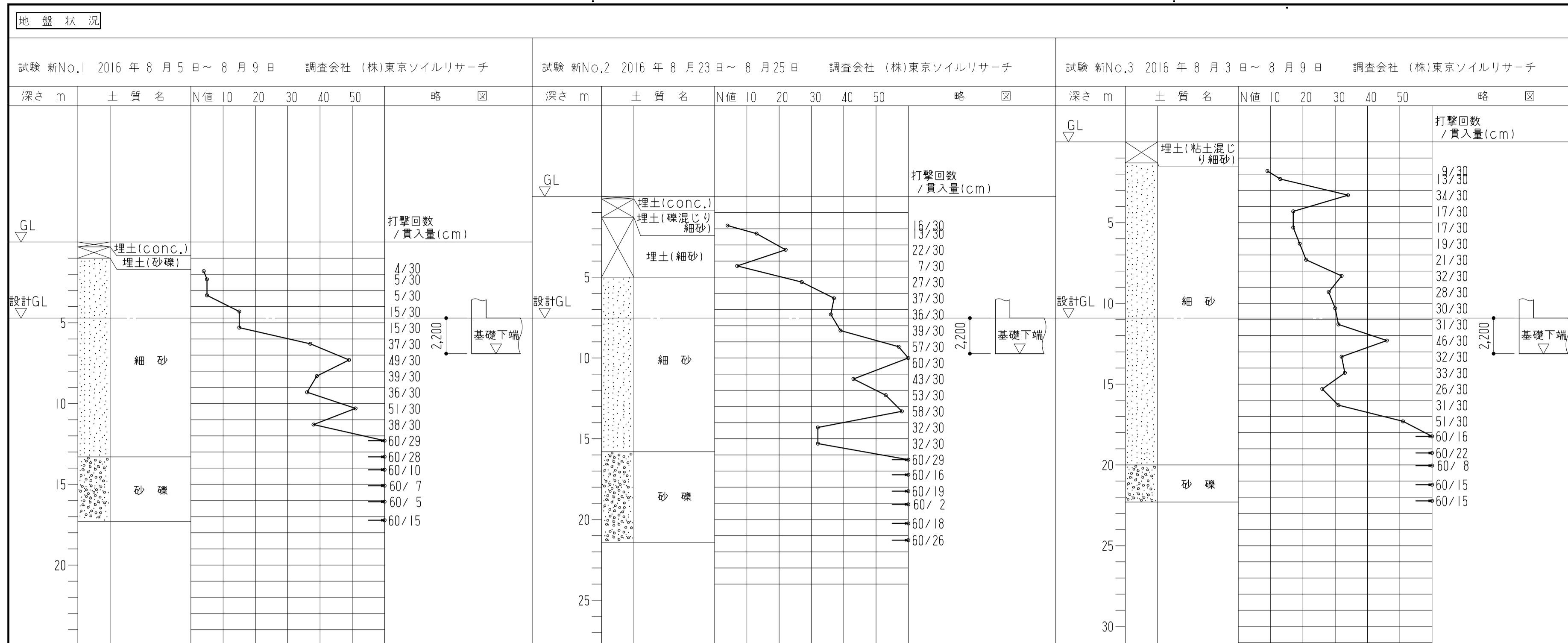


1) 設計GL = TP+16.39 m
 2) 既存施設建設時地質資料の標高はTP基準ではない。
 敷地北東角のマンホール天端を標高+10.00mと想定。
 3) ボーリングGL = 標高 19.15 m
 = 設計GL + 10.75 m
 = TP + 27.14 m
 4) 孔内水位 = なし

1) 設計GL = TP+16.39 m
 2) 既存施設建設時地質資料の標高はTP基準ではない。
 敷地北東角のマンホール天端を標高+10.00mと想定。
 3) ボーリングGL = 標高 19.15 m
 = 設計GL + 10.75 m
 = TP + 27.14 m
 4) 孔内水位 = なし



ボーリング位置図

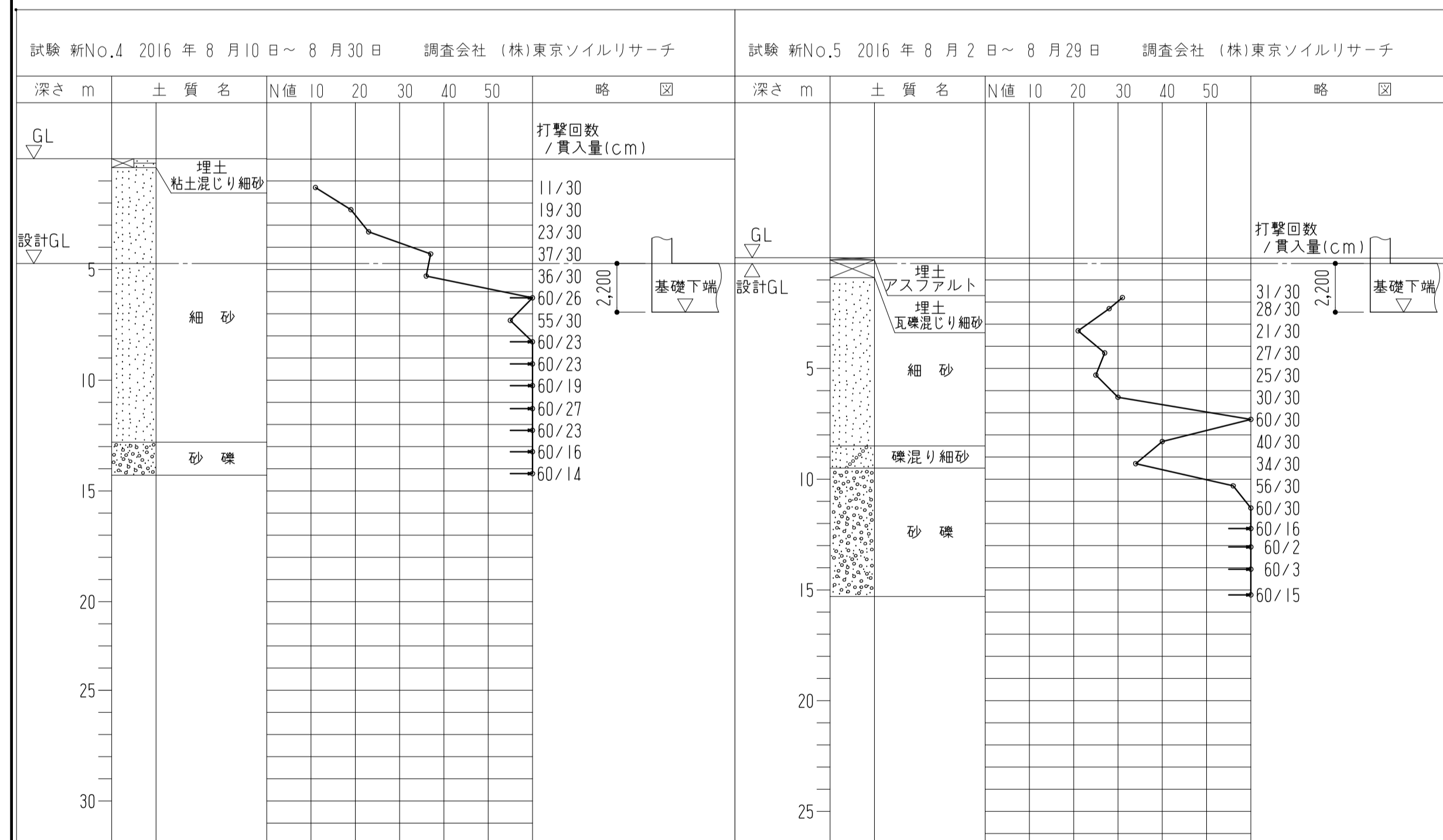


1) 設計GL = TP+16.39 m
 2) ボーリングGL = 標高 13.11 m
 = 設計GL + 4.71 m
 = TP + 21.10 m
 3) 孔内水位 = なし

1) 設計GL = TP+16.39 m
 2) ボーリングGL = 標高 15.93 m
 = 設計GL + 7.53 m
 = TP + 23.92 m
 3) 孔内水位 = なし

1) 設計GL = TP+16.39 m
 2) ボーリングGL = 標高 19.31 m
 = 設計GL + 10.91 m
 = TP + 27.30 m
 3) 孔内水位 = なし

KBM
TP=25.649

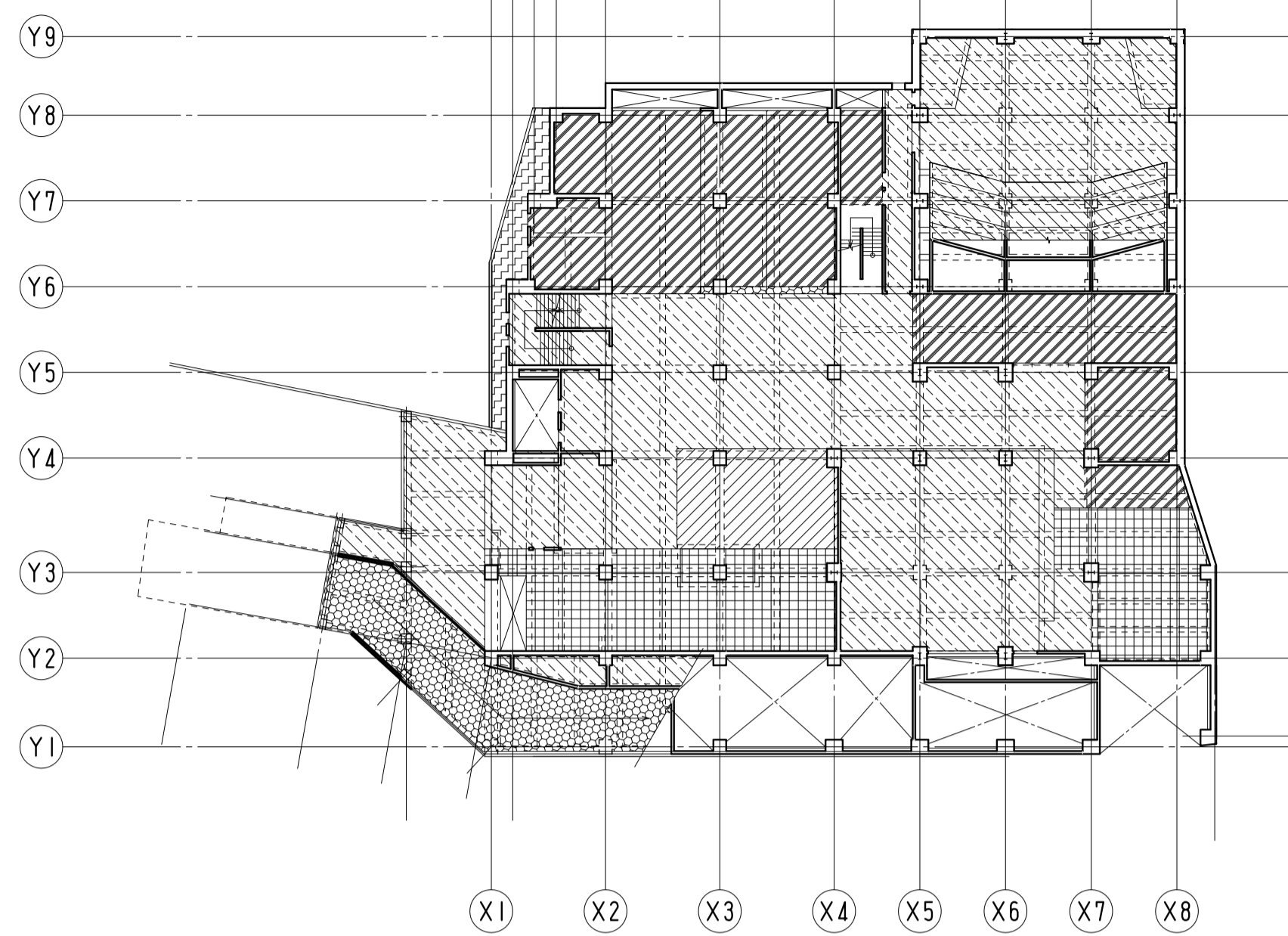


1) 設計GL = TP+16.39 m
 2) ボーリングGL = 標高 13.13 m
 = 設計GL + 4.73 m
 = TP + 21.12 m
 3) 孔内水位 = なし

1) 設計GL = TP+16.39 m
 2) ボーリングGL = 標高 8.66 m
 = 設計GL + 0.26 m
 = TP + 16.65 m
 3) 孔内水位 = なし

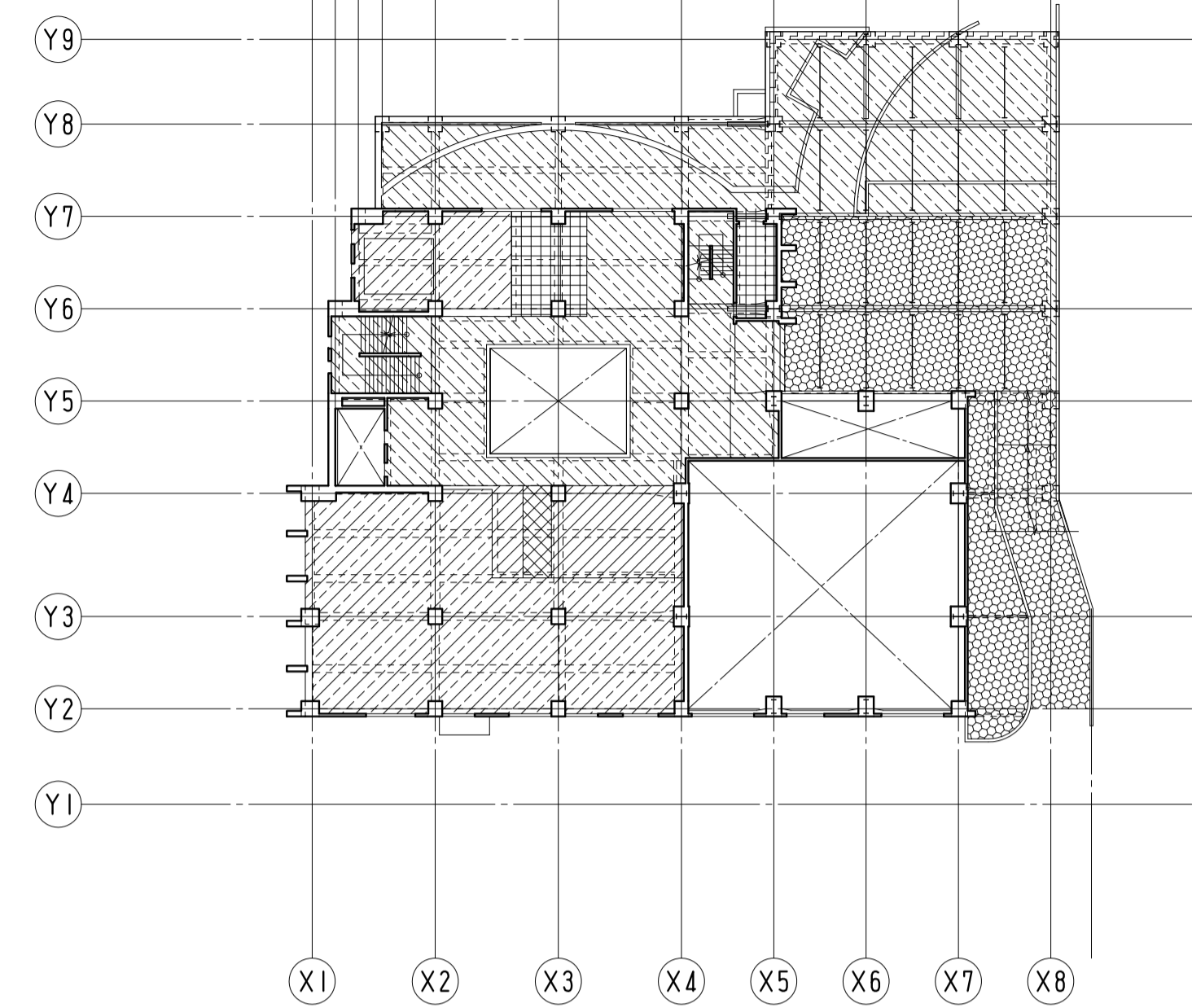


ボーリング位置図



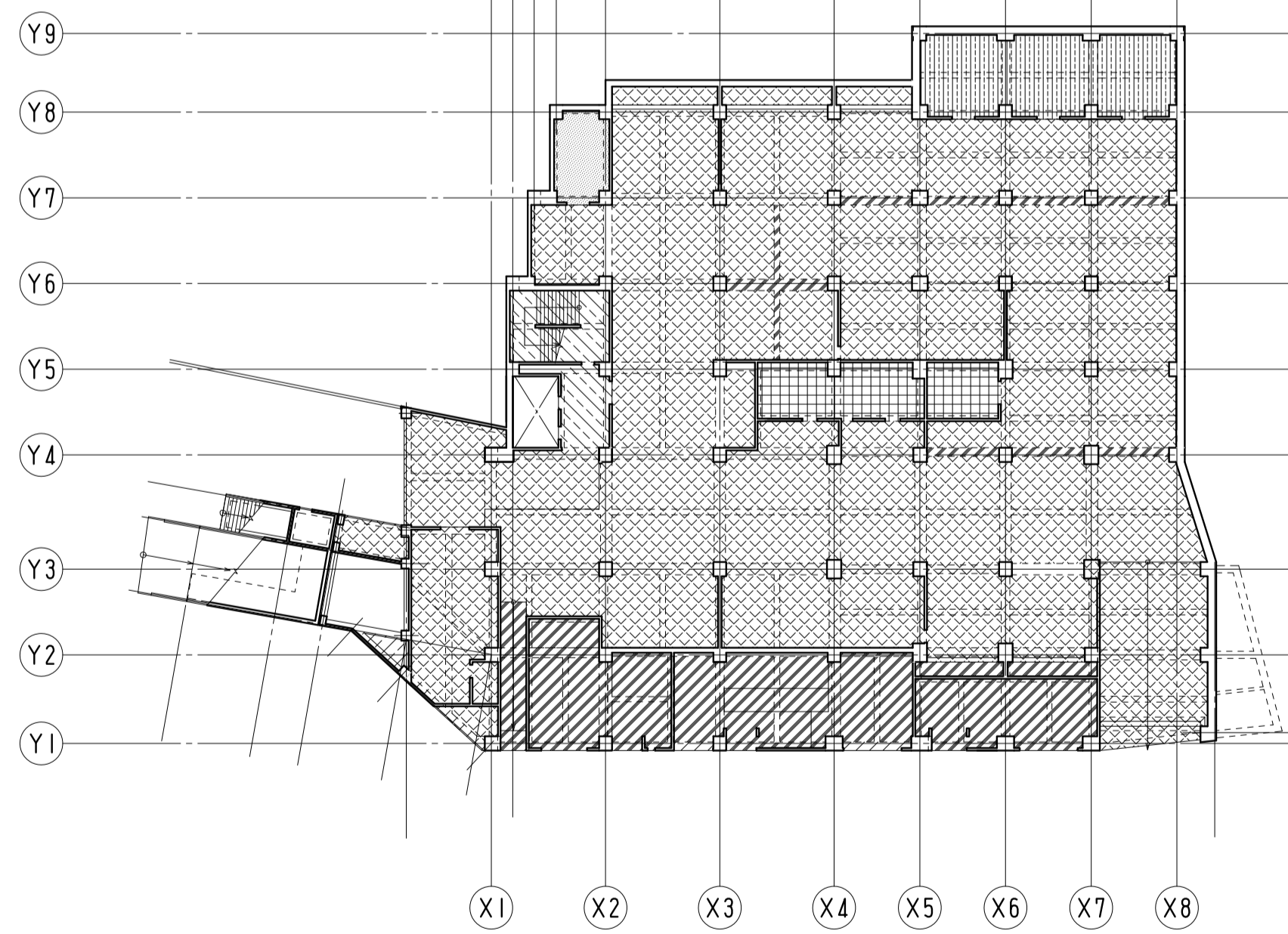
1階梁伏図 縮尺=1:400

各階（共通）					
凡例	室名	スラブ用	小渠用	柱・大梁・基礎用	地費用
[Hatched]	屋根、キュービクル置場 WC、控乳室、給湯室 更衣室（体育館付属）、光庭、 デッドスペース、ドライエリア	1,800	1,800	1,300	600
[Diagonal Lines]	事務諸室、会議室、多目的室3 談話室、調整室、和室、前室、 多目的室2、管理諸室、事務室、楽屋 更衣室、休憩室、清掃室、相談室 支援センター、ボランティアセンター	2,900	2,900	1,800	800
[Dotted]	ロフト、保育室、放課後児童クラブ 障子子供の家	2,300	2,300	2,100	1,100
[Horizontal Lines]	展望テラス、レストラン、EVホール ホール、廊下、多世代間交流スペース 風除室、屋上テラス、屋上緑化 屋上広場室大木水戸川河川緑地部親子席 ホール前室、大ホール（段床部） 体育館、多目的室1、エントランス 生涯学習活動推進室、荷解室 屋内階段、搬入EV屋根	3,500	3,500	3,200	2,100
[Vertical Lines]	屋根（非歩行）、屋外通路西側	980	980	600	400
[Cross-hatched]	屋上設備機器置場	4,900	4,900	4,000	3,000
[Stippled]	厨房、調理室	3,900	3,900	2,400	1,600
[Diagonal Lines]	機械室、機械置場	4,900	4,900	2,400	1,300
[Horizontal Lines]	倉庫、防災倉庫、倉庫（体育館付属） 市民図書室	7,800	7,800	6,900	4,900
[Vertical Lines]	公用車駐車場、車路スロープ	10,500	10,500	8,400	2,100
[Cross-hatched]	駐車場、駐輪場	5,400	5,400	3,900	2,000
[Dotted]	受水槽室	5,000	5,000	4,750	4,400
[Horizontal Lines]	消火ポンプ室	3,300	3,300	3,050	2,700
[Blank]	無印	0	0	0	0
[Blank]	デッドスペース	0	0	0	0



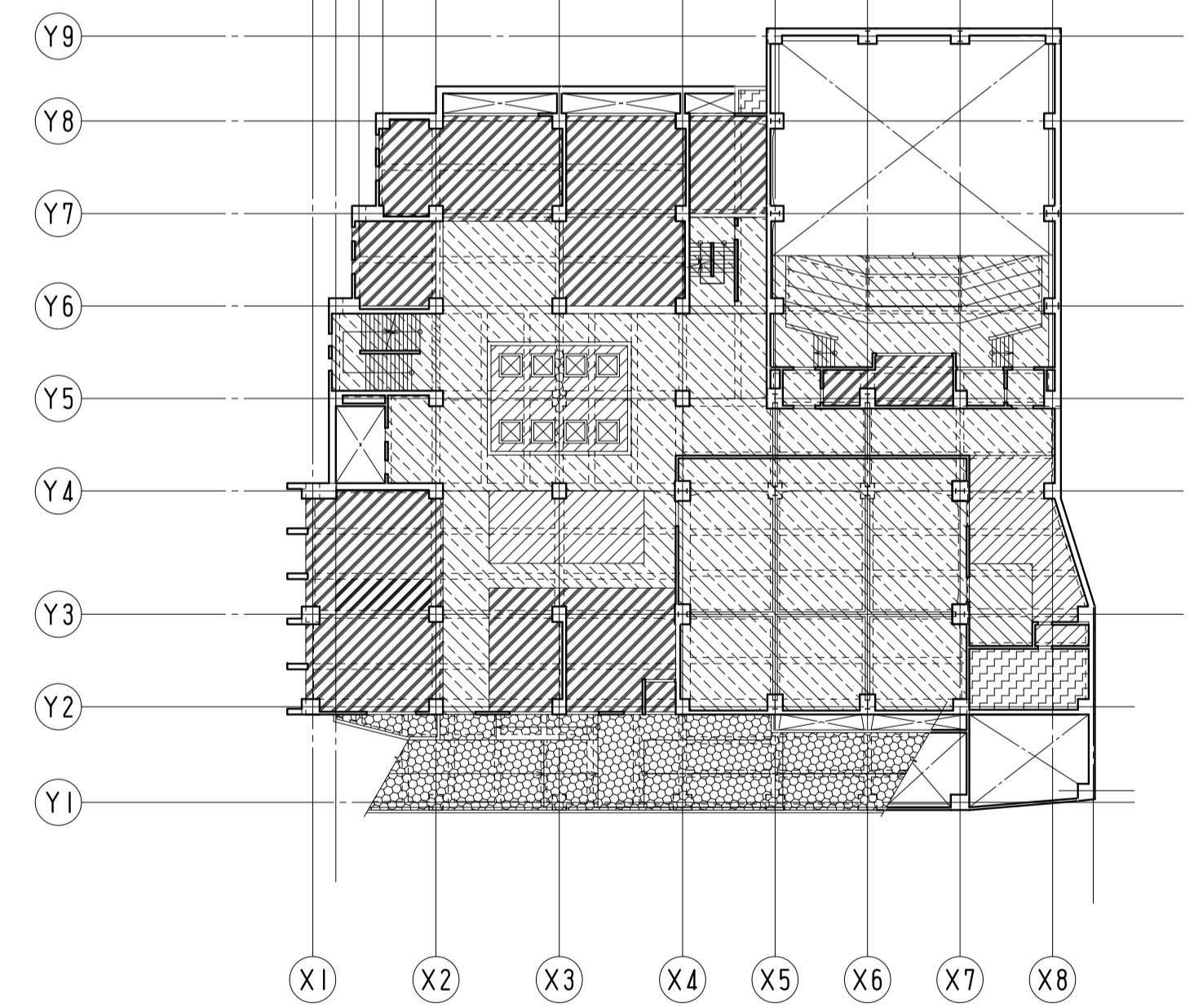
3階梁伏図 縮尺=1:400

各階（共通）					
凡例	室名	スラブ用	小渠用	柱・大梁・基礎用	地費用
[Hatched]	屋根、キュービクル置場 WC、控乳室、給湯室 更衣室（体育館付属）、光庭、 デッドスペース、ドライエリア	1,800	1,800	1,300	600
[Diagonal Lines]	事務諸室、会議室、多目的室3 談話室、調整室、和室、前室、 多目的室2、管理諸室、事務室、楽屋 更衣室、休憩室、清掃室、相談室 支援センター、ボランティアセンター	2,900	2,900	1,800	800
[Dotted]	ロフト、保育室、放課後児童クラブ 障子子供の家	2,300	2,300	2,100	1,100
[Horizontal Lines]	展望テラス、レストラン、EVホール ホール、廊下、多世代間交流スペース 風除室、屋上テラス、屋上緑化 屋上広場室大木水戸川河川緑地部親子席 ホール前室、大ホール（段床部） 体育館、多目的室1、エントランス 生涯学習活動推進室、荷解室 屋内階段、搬入EV屋根	3,500	3,500	3,200	2,100
[Vertical Lines]	屋根（非歩行）、屋外通路西側	980	980	600	400
[Cross-hatched]	屋上設備機器置場	4,900	4,900	4,000	3,000
[Stippled]	厨房、調理室	3,900	3,900	2,400	1,600
[Diagonal Lines]	機械室、機械置場	4,900	4,900	2,400	1,300
[Horizontal Lines]	倉庫、防災倉庫、倉庫（体育館付属） 市民図書室	7,800	7,800	6,900	4,900
[Vertical Lines]	公用車駐車場、車路スロープ	10,500	10,500	8,400	2,100
[Cross-hatched]	駐車場、駐輪場	5,400	5,400	3,900	2,000
[Dotted]	受水槽室	5,000	5,000	4,750	4,400
[Horizontal Lines]	消火ポンプ室	3,300	3,300	3,050	2,700
[Blank]	無印	0	0	0	0
[Blank]	デッドスペース	0	0	0	0



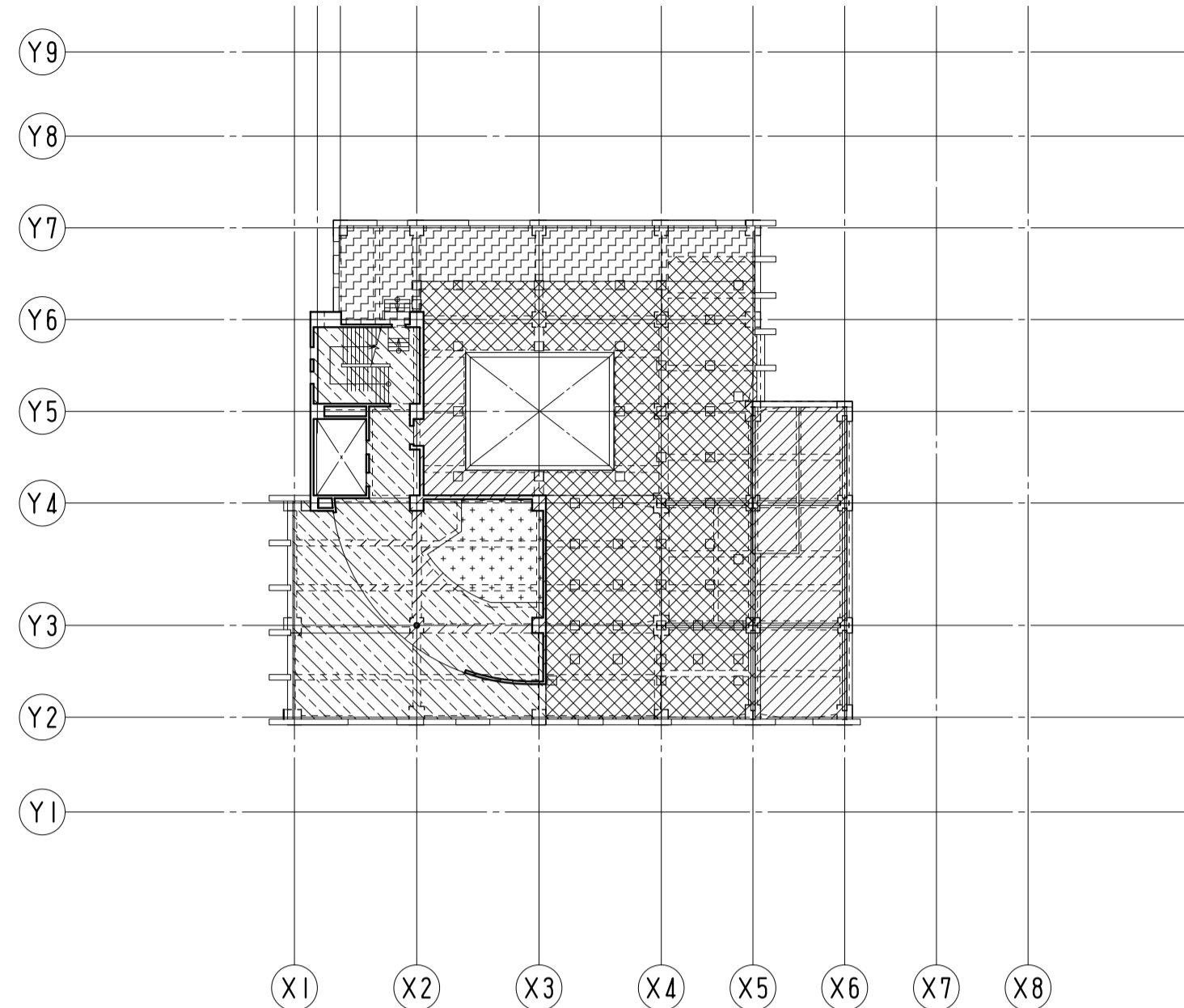
B1階梁伏図 縮尺=1:400

各階（共通）					
凡例	室名	スラブ用	小渠用	柱・大梁・基礎用	地費用
[Hatched]	屋根、キュービクル置場 WC、控乳室、給湯室 更衣室（体育館付属）、光庭、 デッドスペース、ドライエリア	1,800	1,800	1,300	600
[Diagonal Lines]	事務諸室、会議室、多目的室3 談話室、調整室、和室、前室、 多目的室2、管理諸室、事務室、楽屋 更衣室、休憩室、清掃室、相談室 支援センター、ボランティアセンター	2,900	2,900	1,800	800
[Dotted]	ロフト、保育室、放課後児童クラブ 障子子供の家	2,300	2,300	2,100	1,100
[Horizontal Lines]	展望テラス、レストラン、EVホール ホール、廊下、多世代間交流スペース 風除室、屋上テラス、屋上緑化 屋上広場室大木水戸川河川緑地部親子席 ホール前室、大ホール（段床部） 体育館、多目的室1、エントランス 生涯学習活動推進室、荷解室 屋内階段、搬入EV屋根	3,500	3,500	3,200	2,100
[Vertical Lines]	屋根（非歩行）、屋外通路西側	980	980	600	400
[Cross-hatched]	屋上設備機器置場	4,900	4,900	4,000	3,000
[Stippled]	厨房、調理室	3,900	3,900	2,400	1,600
[Diagonal Lines]	機械室、機械置場	4,900	4,900	2,400	1,300
[Horizontal Lines]	倉庫、防災倉庫、倉庫（体育館付属） 市民図書室	7,800	7,800	6,900	4,900
[Vertical Lines]	公用車駐車場、車路スロープ	10,500	10,500	8,400	2,100
[Cross-hatched]	駐車場、駐輪場	5,400	5,400	3,900	2,000
[Dotted]	受水槽室	5,000	5,000	4,750	4,400
[Horizontal Lines]	消火ポンプ室	3,300	3,300	3,050	2,700
[Blank]	無印	0	0	0	0
[Blank]	デッドスペース	0	0	0	0



2階梁伏図 縮尺=1:400

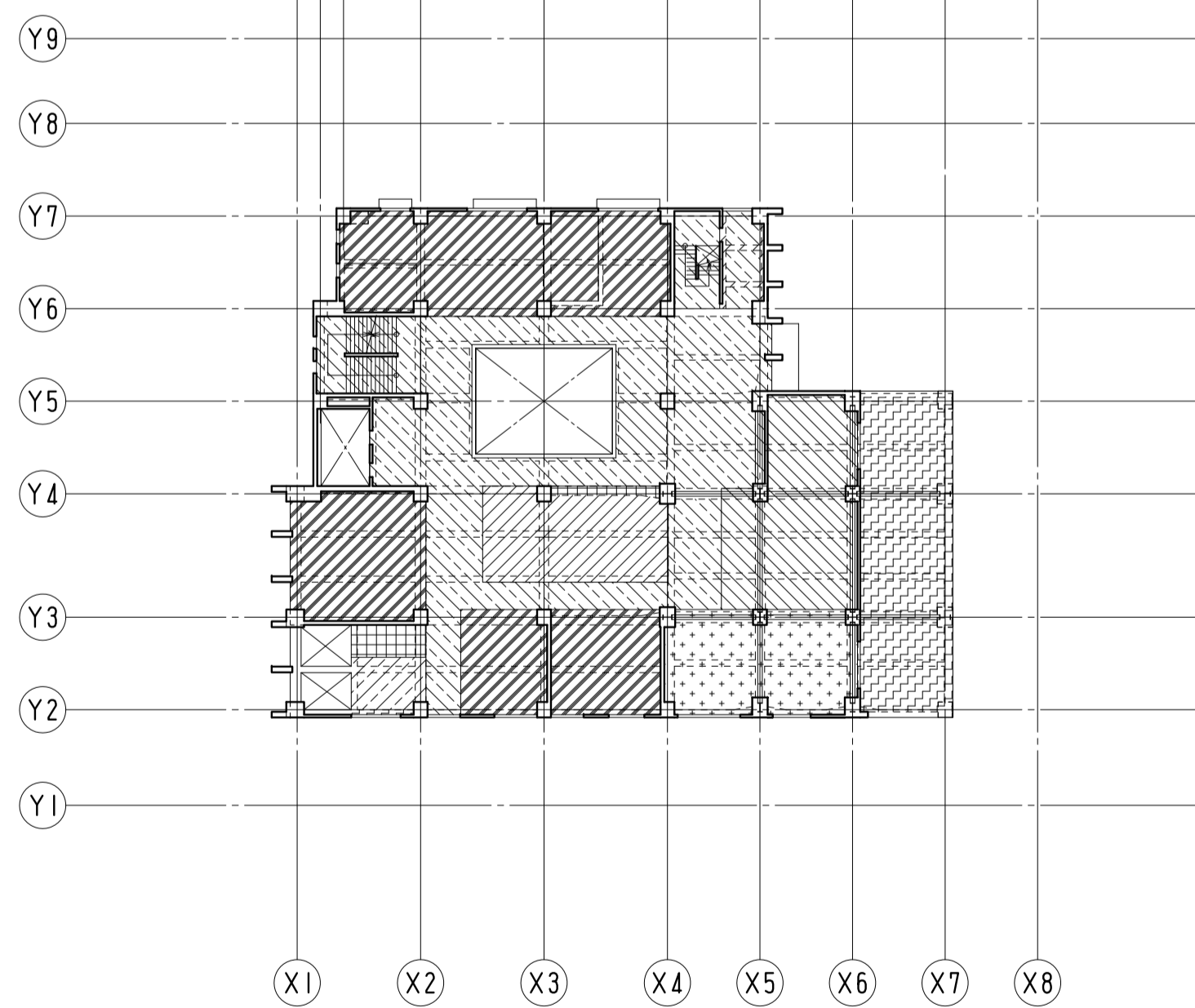
各階（共通）					
凡例	室名	スラブ用	小渠用	柱・大梁・基礎用	地費用
[Hatched]	屋根、キュービクル置場 WC、控乳室、給湯室 更衣室（体育館付属）、光庭、 デッドスペース、ドライエリア	1,800	1,800	1,300	600
[Diagonal Lines]	事務諸室、会議室、多目的室3 談話室、調整室、和室、前室、 多目的室2、管理諸室、事務室、楽屋 更衣室、休憩室、清掃室、相談室 支援センター、ボランティアセンター	2,900	2,900	1,800	800
[Dotted]	ロフト、保育室、放課後児童クラブ 障子子供の家	2,300	2,300	2,100	1,100
[Horizontal Lines]	展望テラス、レストラン、EVホール ホール、廊下、多世代間交流スペース 風除室、屋上テラス、屋上緑化 屋上広場室大木水戸川河川緑地部親子席 ホール前室、大ホール（段床部） 体育館、多目的室1、エントランス 生涯学習活動推進室、荷解室 屋内階段、搬入EV屋根	3,500	3,500	3,200	2,100
[Vertical Lines]	屋根（非歩行）、屋外通路西側	980	980	600	400
[Cross-hatched]	屋上設備機器置場	4,900	4,900	4,000	3,000
[Stippled]	厨房、調理室	3,900	3,900	2,400	1,600
[Diagonal Lines]	機械室、機械置場	4,900	4,900	2,400	1,300
[Horizontal Lines]	倉庫、防災倉庫、倉庫（体育館付属） 市民図書室	7,800	7,800	6,900	4,900
[Vertical Lines]	公用車駐車場、車路スロープ	10,500	10,500	8,400	2,100
[Cross-hatched]	駐車場、駐輪場	5,400	5,400	3,900	2,000
[Dotted]	受水槽室	5,000	5,000	4,750	4,400
[Horizontal Lines]	消火ポンプ室	3,300	3,300	3,050	2,700
[Blank]	無印	0	0	0	0
[Blank]	デッドスペース	0	0	0	0



5階梁伏図 縮尺=1:400

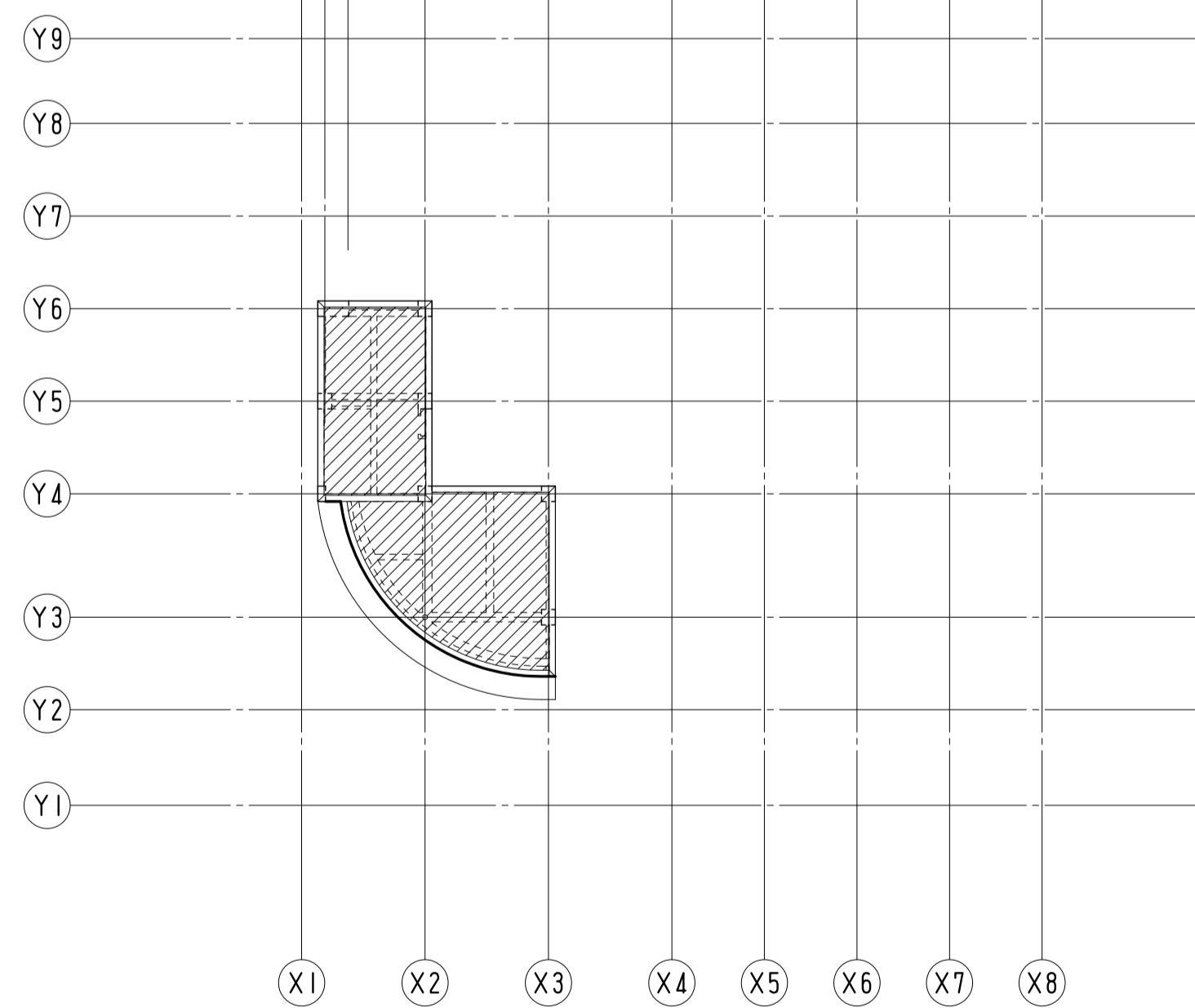
※ 設備重量 (キュービクル、発電機、燃料タンク、呼水槽) は、別途。
 キュービクル: 125.0 kN
 発電機: 70.0 kN

各階 (共通)		N/m ²			
凡例	室名	スラブ用	小渠用	柱・大梁・基礎用	地震用
■	屋根、キュービクル置場 WC、授乳室、給湯室 更衣室 (体育館付属)、光庭、 デッドスペース、ドライエリア	1,800	1,800	1,300	600
■	事務録室、会議室、多目的室3 談話室、調整室、和室、前室、 多目的室2、管理録室、事務室、楽屋 更衣室、休憩室、清掃室、相談室 支援センター、ボランティアセンター	2,900	2,900	1,800	800
■	ロフト、保育室、放課後児童クラブ 親子子供の室	2,300	2,300	2,100	1,100
■	展望テラス、レストラン、EVホール ホール、廊下、多世代間交流スペース 風除室、屋上テラス、屋上緑化 屋上広場室、大ホール (段床部) ホール前室、大ホール (段床部) 体育館、多目的室1、エントランス 生涯学習活動推進室、荷解室 屋内階段、搬入EV屋根	3,500	3,500	3,200	2,100
■	屋根 (非歩行)、屋外通路西側	980	980	600	400
■	屋上設備機器置場	4,900	4,900	4,000	3,000
■	厨房、調理室	3,900	3,900	2,400	1,600
■	機械室、機械置場	4,900	4,900	2,400	1,300
■	倉庫、防災倉庫、倉庫 (体育館付属) 市民図書室	7,800	7,800	6,900	4,900
■	公用自転車場、車路スロープ	10,500	10,500	8,400	2,100
■	駐車場、駐輪場	5,400	5,400	3,900	2,000
■	受水槽室	5,000	5,000	4,750	4,400
■	消火ポンプ室	3,300	3,300	3,050	2,700
■	無印	0	0	0	0



4階梁伏図 縮尺=1:400

各階 (共通)		N/m ²			
凡例	室名	スラブ用	小渠用	柱・大梁・基礎用	地震用
■	屋根、キュービクル置場 WC、授乳室、給湯室 更衣室 (体育館付属)、光庭、 デッドスペース、ドライエリア	1,800	1,800	1,300	600
■	事務録室、会議室、多目的室3 談話室、調整室、和室、前室、 多目的室2、管理録室、事務室、楽屋 更衣室、休憩室、清掃室、相談室 支援センター、ボランティアセンター	2,900	2,900	1,800	800
■	ロフト、保育室、放課後児童クラブ 親子子供の室	2,300	2,300	2,100	1,100
■	展望テラス、レストラン、EVホール ホール、廊下、多世代間交流スペース 風除室、屋上テラス、屋上緑化 屋上広場室、大ホール (段床部) ホール前室、大ホール (段床部) 体育館、多目的室1、エントランス 生涯学習活動推進室、荷解室 屋内階段、搬入EV屋根	3,500	3,500	3,200	2,100
■	屋根 (非歩行)、屋外通路西側	980	980	600	400
■	屋上設備機器置場	4,900	4,900	4,000	3,000
■	厨房、調理室	3,900	3,900	2,400	1,600
■	機械室、機械置場	4,900	4,900	2,400	1,300
■	倉庫、防災倉庫、倉庫 (体育館付属) 市民図書室	7,800	7,800	6,900	4,900
■	公用自転車場、車路スロープ	10,500	10,500	8,400	2,100
■	駐車場、駐輪場	5,400	5,400	3,900	2,000
■	受水槽室	5,000	5,000	4,750	4,400
■	消火ポンプ室	3,300	3,300	3,050	2,700
■	無印	0	0	0	0



屋根伏図 縮尺=1:400

※ 設備重量 (避雷針、アンテナ) は、別途。

各階 (共通)		N/m ²			
凡例	室名	スラブ用	小渠用	柱・大梁・基礎用	地震用
■	屋根、キュービクル置場 WC、授乳室、給湯室 更衣室 (体育館付属)、光庭、 デッドスペース、ドライエリア	1,800	1,800	1,300	600
■	事務録室、会議室、多目的室3 談話室、調整室、和室、前室、 多目的室2、管理録室、事務室、楽屋 更衣室、休憩室、清掃室、相談室 支援センター、ボランティアセンター	2,900	2,900	1,800	800
■	ロフト、保育室、放課後児童クラブ 親子子供の室	2,300	2,300	2,100	1,100
■	展望テラス、レストラン、EVホール ホール、廊下、多世代間交流スペース 風除室、屋上テラス、屋上緑化 屋上広場室、大ホール (段床部) ホール前室、大ホール (段床部) 体育館、多目的室1、エントランス 生涯学習活動推進室、荷解室 屋内階段、搬入EV屋根	3,500	3,500	3,200	2,100
■	屋根 (非歩行)、屋外通路西側	980	980	600	400
■	屋上設備機器置場	4,900	4,900	4,000	3,000
■	厨房、調理室	3,900	3,900	2,400	1,600
■	機械室、機械置場	4,900	4,900	2,400	1,300
■	倉庫、防災倉庫、倉庫 (体育館付属) 市民図書室	7,800	7,800	6,900	4,900
■	公用自転車場、車路スロープ	10,500	10,500	8,400	2,100
■	駐車場、駐輪場	5,400	5,400	3,900	2,000
■	受水槽室	5,000	5,000	4,750	4,400
■	消火ポンプ室	3,300	3,300	3,050	2,700
■	無印	0	0	0	0

13節 マスコンクリート
一般事項
6.13.1
材料及び調査
6.13.2
その他の特記事項

15節 流動化コンクリート
一般事項
6.15.1
材料及び調査 [追加]
6.15.2
その他の特記事項

16節 高強度コンクリート [追加]
一般事項
品質、材料、発注・製造・運搬、品質管理、試験
養生
型枠
その他の特記事項

17節 高流動コンクリート [追加]
施工箇所、品質及び調査等
品質管理・検査
その他の特記事項

18節 プレストレストコンクリート [追加]
一般事項
PC鋼材材料
グラウト材料
コンクリート強度

その他の特記事項

19節 プレキャストコンクリート [追加]
一般事項
品質管理・検査
その他の特記事項

2節 材料
鋼材
7.2.1
7.2.2
7.2.3
7.2.4
7.2.5
7.2.6
7.2.8

7章 鉄骨工事
1節 一般事項
鉄骨製作工場
7.1.3
その他の特記事項

Table with 5 columns: 施工箇所, 種類, 材質, 備考. Lists materials like SRC柱, SRC大梁, S小梁, etc.

Table with 2 columns: 種類, 径(呼び名) mm. Lists high strength bolts like 高力ボルト, アンカーボルト, etc.

3節 工作一般
製作の検査 [追加]
その他の特記事項

4節 高力ボルト接合
摩擦面の性能及び処理
7.4.2
その他の特記事項

5節 普通ボルト接合
接合
7.5.2
その他の特記事項

6節 溶接接合
技能資格者
7.6.3
溶接部の試験
7.6.11
その他の特記事項

7節 スタッド溶接及びデッキプレート溶接
デッキプレートの溶接
7.7.8
その他の特記事項

8節 錆止め塗装
塗料の種別 [追加]
7.8.3, 18.3.3
その他の特記事項

Table with 4 columns: 施工箇所, 素地ごしらえ, 錆止め塗料及び塗り回数. Lists SC1柱, 鉄骨小梁, etc.

9節 耐火被覆
その他の特記事項

Table with 3 columns: 施工箇所(柱符号), アンカーボルトの役割, 種別(保持及び埋込み方法). Lists C22~C26柱, SC1柱, etc.

Table with 3 columns: 施工箇所, 工法, 材料. Lists C22~C26, SC1柱, etc.

柱底均しモルタル
7.2.9
7.10.3
その他の特記事項

12節 溶融亜鉛めっき工法
亜鉛めっき
7.12.3
7.12.4
溶融亜鉛めっき高力ボルト接合
その他の特記事項

表示記号
鉄筋
高力ボルト (H.T.B.)
ボルト (BOLT)
鋼材
大臣認定品
鋼材

Table with 10 columns: 鉄筋径(呼び名), D10, D13, D16, D19, D22, D25, D29, D32, D35, D38, D41. Lists reinforcement bars.

Table with 2 columns: 径, 表示記号. Lists high strength bolts like M16, M20, M22, M24, M27, M30.

Table with 2 columns: 径, 表示記号. Lists bolts like M12, M16, M20, M22, M24, M28.

Table with 4 columns: 材質, 表示記号. Lists steel materials like BCR295, BCP325, 550N級 B, 550N級 C.

Table with 4 columns: 材質, 表示記号. Lists steel materials like SS400, SM490A, SN490B, SN490C.

配筋基準共通事項 |

0. 一般事項


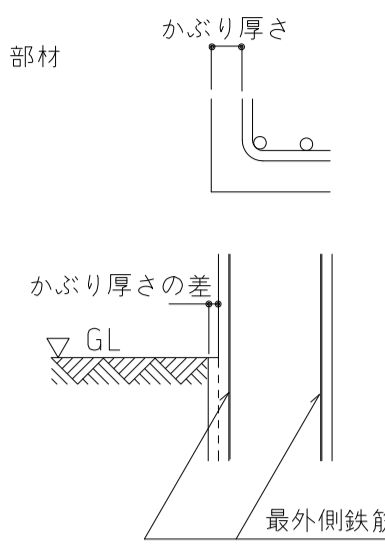
- 1) 本配筋基準は、現場打ち鉄筋コンクリート構造物に使用する鉄筋の加工と配筋の一般基準を示すものである。ただし、設計図に図示のある場合は、設計図を優先する。
- 2) 本配筋基準は表0に示すコンクリートおよび鉄筋を使用する鉄筋工事に適用する。表0以外のコンクリートおよび鉄筋を使用する場合は、設計図による。
- 3) 図表中の寸法の値は最小値を示し、当該寸法以上を確保することを原則とする。(～程度、～以下、@、P、±と表記してあるものを除く)
- 4) 本配筋基準図に  印を記した項目は、適用しない。
- 5) 杭に関する項目は、設計図による。

表0 適用範囲

1. コンクリート	普通 Fc=18N/mm ² 以上 60N/mm ² 以下 軽量 Fc=18N/mm ² 以上 36N/mm ² 以下 SD390の鉄筋を使用する場合はFc=21N/mm ² 以上 SD490の鉄筋を使用する場合はFc=24N/mm ² 以上 SD490の鉄筋を使用する部位に軽量コンクリートは用いない。		
2. 鉄筋	規格番号	規格名称	種類の記号
	JIS G 3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295A,SD295B SD345,SD390 SD490
	異形鉄筋はD41以下とする。		
3. 溶接金網 および鉄筋格子	溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551 (溶接金網および鉄筋格子)に適合するものを使用する。		

1. 鉄筋のかぶり厚さ

- ・鉄筋のかぶり厚さは、最外側鉄筋面からの寸法とする。
- ・高炉セメントC種、シリカセメントC種及びフライアッシュセメントC種を用いる場合は、調査・部材の大きさなどに応じて定め、設計担当者の承認を受ける。
- ・土に接する側面は、かぶり厚さの差を外側に打増す。
- ・太径鉄筋を用いる場合には表2に示すかぶり厚さを割増す。



鉄筋の最小かぶり厚さは、表-1a、1b 及び表-2に示す値以上とする。

表-1a 建築基準法または特別に定める場合

部 位		建築基準法施行令による 最小かぶり厚さ	特別に定める最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ・非耐力壁	20	
	屋 内	20	
	屋 外*	30	
	柱・梁・耐力壁	30	
土に接する部分	柱・梁・スラブ・耐力壁	40	
	基礎・擁壁	60	

- (注) 1) 設計かぶり厚さは、施工誤差等を考慮して、表-1aの値(表-2の割増を含めた値)に+10mm (*印は20mm、ただし次項に示す有効な仕上げのある場合は10mm)とする。
- 2) 有効な仕上げとは、外部(柱、梁、壁、床の屋外に面する部位)にタイル貼り、モルタル塗り、外断熱工法による仕上げ、その他これらと同等以上の性能を有する処理を示す。
- 3) 土に接する部分に軽量コンクリートを用いる場合の最小かぶり厚さは、表-1aの値に+10mmとする。
- 4) 鉄骨鉄筋コンクリート造における鉄骨のかぶり厚さは50mm以上とする。(建築基準法施行令第79条の3)

表-1b 「住宅の品質確保の促進等に関する法律」の劣化対策等級による場合

部 位	等級2	等級3	
		水セメント比	
		普通55%以下 軽50%以下	普通60%以下 軽55%以下
土に接しない部分	スラブ・非耐力壁	20	30
	屋 内	20	30
	屋 外*	30	40
	柱・梁・耐力壁	30	40
土に接する部分	擁 壁	50	60
	柱・梁・スラブ・耐力壁	40	50
基礎・擁壁	基礎・擁壁	60	70

- (注) 1) 等級1は建築基準法(表-1a)に準じる。
- 2) *印で示した外壁の屋外に面する部位にタイル貼り、モルタル塗り、外断熱工法による仕上げ、その他これらと同等以上の性能を有する処理が施されている場合においては、屋外側の部分に限り、最小かぶり厚さを10mm減することができる。
- 3) 設計かぶり厚さは、施工誤差等を考慮して、表-1bの値(表-2の割増を含めた値)に+10mmとする。

表-2 太径鉄筋使用柱・梁かぶり厚さの割増

主筋の呼び名	フープ スターラップ	最小かぶり厚さの 割増
D32	D13	+5
	D16	—
D35	D13	+10
	D16	+5
D38	D13	+15
	D16	+10
D41	D13	+20
	D16	+15

2. 鉄筋の加工

(1) 鉄筋の折曲げ基準

鉄筋の折曲げの形状・寸法

図	曲げ角度	鉄筋種類	鉄筋の径による区分	D
	180°	SD295A SD295B SD345	D16以下	3d以上
	135°	SD390	D41以下	5d以上
	90°		D25以下	6d以上
	90°	SD490	D29~D41	6d以上

※片持ちスラブの上端筋の先端、壁の自由端に用いる先端は4d以上 dは鉄筋の呼び名に用いた数値

- (注) 1) SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、交差のないことを確認した上で、監理者の承認を得ること。
- 2) 90°未満の折曲げ内法直径は、設計図による。設計図に記載のない場合は、上表の90°フックと同じとする。

フックの必要箇所

(1) 柱および梁(基礎梁を除く)の出隅部分の重ね継手

(2) 各柱の最上部柱頭にある主筋末端部

② 梁せいが小さく定着L2が確保できない場合は特記による

③ 柱の出隅部分(計算ルート3で、フックを省略できることを確認した場合を除く)

(3) 煙突に用いる鉄筋

(4) 設計図に特記のある鉄筋 (注) ②印は出隅部鉄筋を示す。

135°

(1) フープ、タイフープ

(2) スターラップ、中スターラップ

(3) 設計図に特記のある鉄筋

90°

(1) U字形スターラップのキャップタイ、中スターラップ

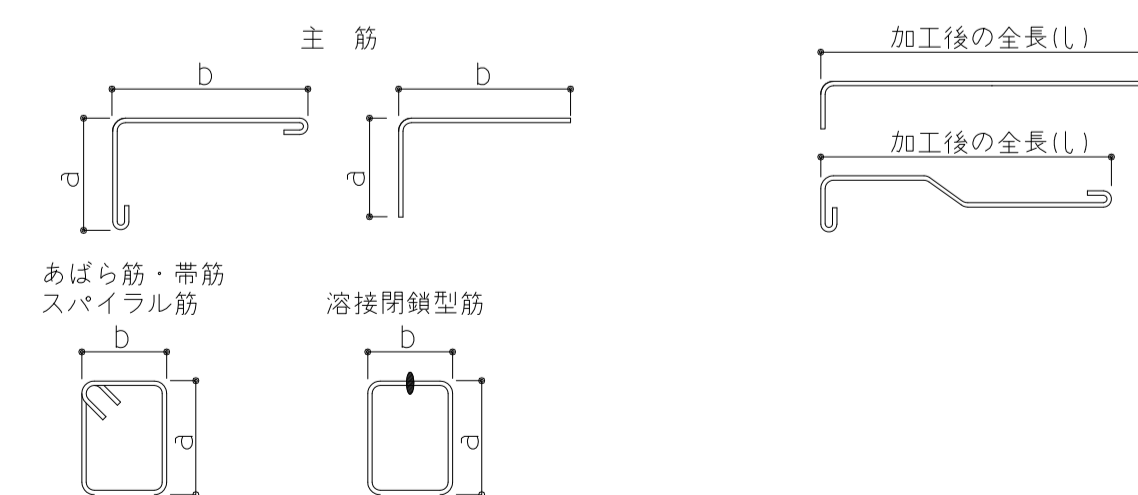
(2) 幅止め筋

(3) 設計図に特記のある鉄筋

(2) 加工寸法の許容差

各加工寸法	項 目	符号	許容差
	主筋	D25以下	a,d
D29以上D41以下		a,b	±20
加工後の全長	フープ・スターラップ・スパイラル筋	a,d	±5
		l	±20

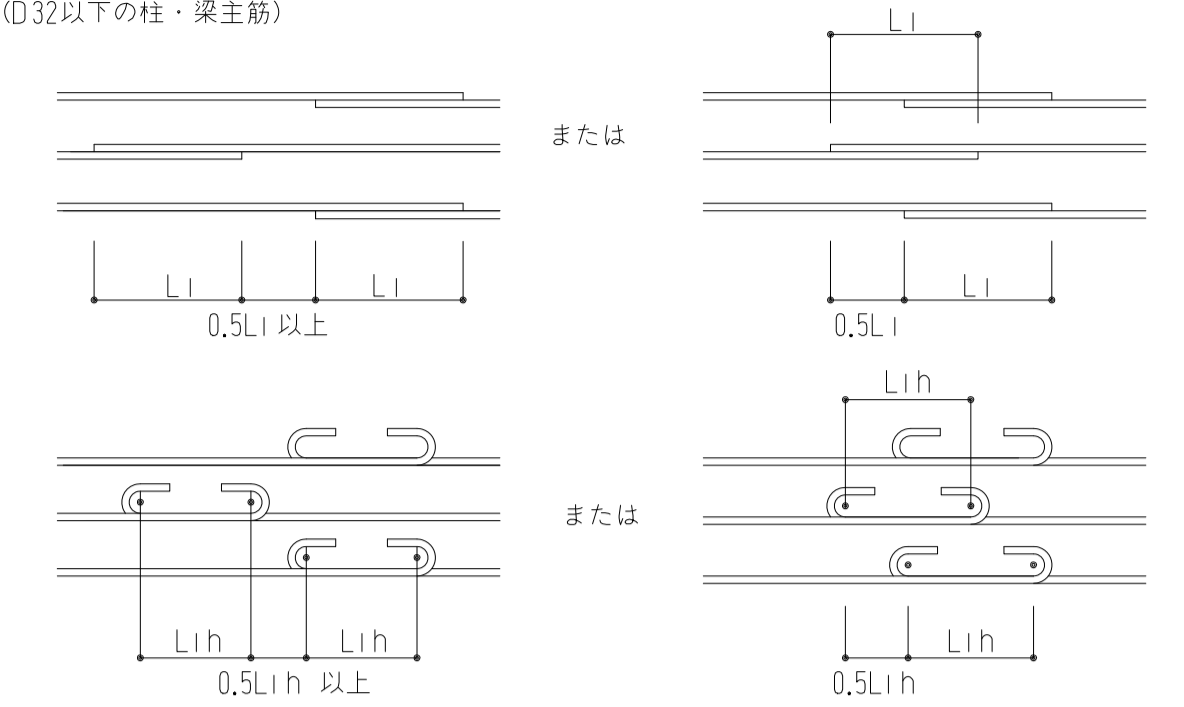
加工寸法及び加工後の全長の測り方



3. 鉄筋の継手基準

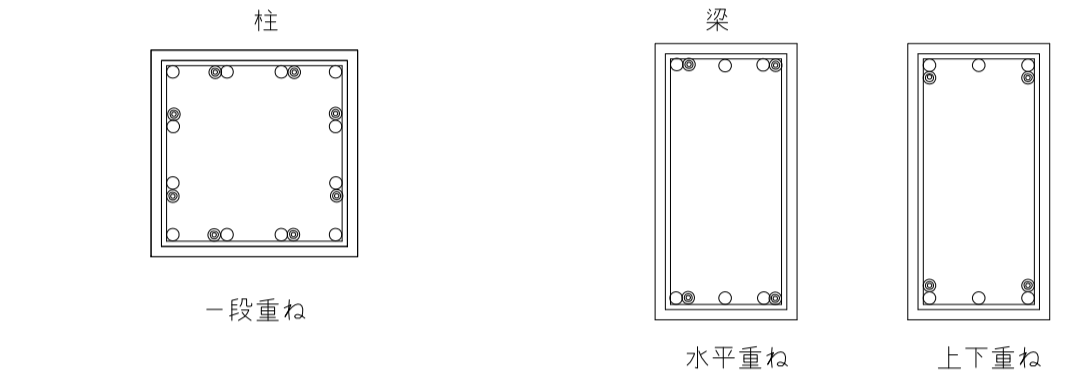
(注) 1) dは鉄筋の呼び名に用いた数値とする。(単位:mm)

重ね継手 (D32以下の柱・梁主筋)

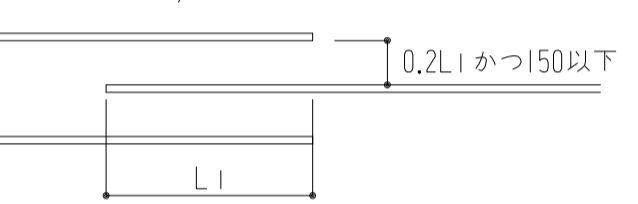


柱・梁主筋の重ね継手の方法

梁主筋の重ね継手は水平重ね継手を原則とし、上下重ね継手とする場合は監理者と協議すること。

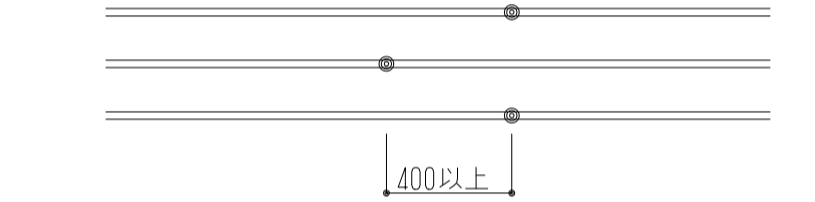


あき重ね継手(スラブ筋、壁筋のみ)



ガス圧接継手

径の異なる鉄筋のガス圧接は、細い方の鉄筋径(d)を用いる。



ガス圧接の形状 (径の異なる鉄筋のガス圧接は、細い方の鉄筋径(d)を用いる。)

ふくらみの直径・長さ 片ふくらみ

圧接面 $1.4d$ 以上 $(1.5d$ 以上)

$1.1d$ 以上 $(1.2d$ 以上)

$\Delta h = h1 - h2 \leq d/5$ 以下

圧接面のずれ 鉄筋中心の偏心量

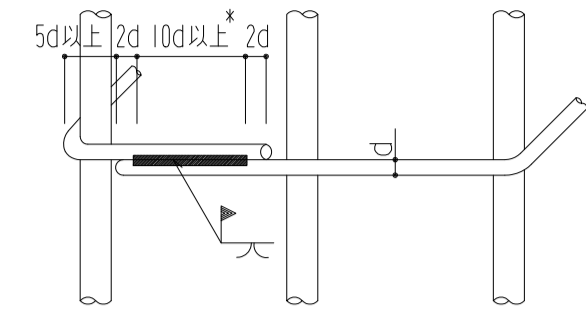
ガス圧接 ()内は、SD490の場合に適用する

折れ曲がり $\theta \leq 2^\circ$

2mm以下 圧接面形状

配筋基準共通事項 2

溶接継手（フープ・スターラップ・C,B,壁筋）
鉄筋のフレア溶接は原則として鉄筋の種類はSD345まで、鉄筋径はD16までとする。
フレア溶接は被覆アーク溶接、またはガスシールドアーク溶接とする。



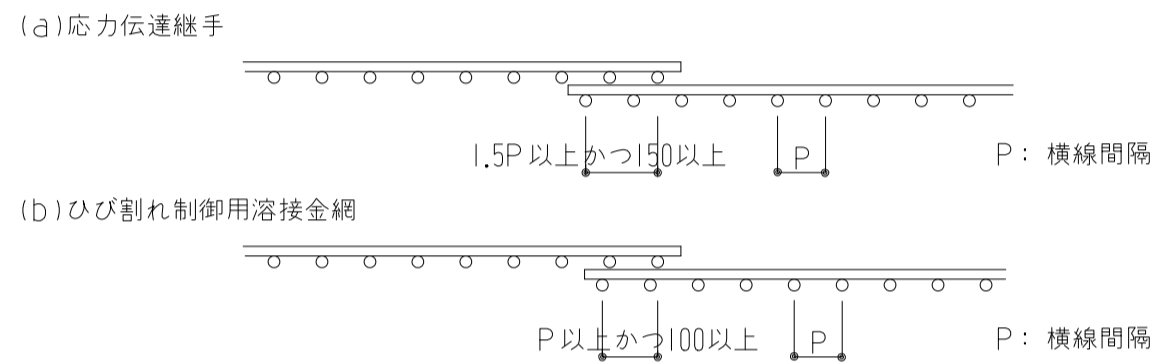
鉄筋径d	最小値
10	6
13	7
16	8

(注) 監理者の承認を得て溶接作業条件に合致した模擬試験を省略することが出来る。

フレア溶接に用いる鉄筋と溶接材料の組み合わせ

溶接される鉄筋の種類	被覆アーク溶接棒の種類 JIS Z 3211	ソリッドワイヤの種類 JIS Z 3312
SD295A SD295B	E 4316, E 4915, E 4916等の低水素系溶接棒	YGW11 YGW12 YGW13 YGW15 YGW16 YGW18
SD345	E 4915, E 4916等の低水素系溶接棒	YGW19

溶接金網（鉄筋格子は除く。鉄筋格子の継手長さは表-4による。）



4. 鉄筋のあき

機械式継手及び溶接継手を使用する場合は、工法の評定・認定等で認められた値とする。

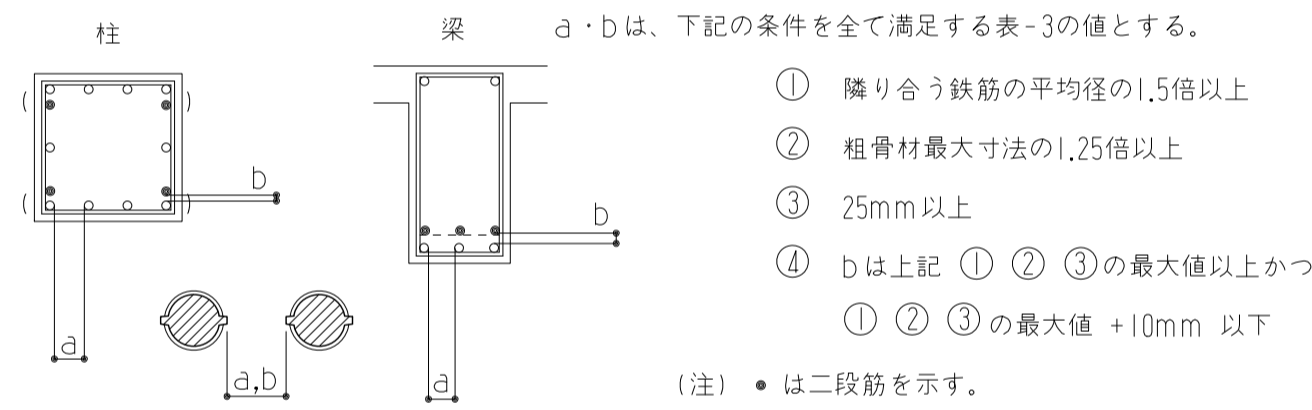


表-3 鉄筋のあき (単位: mm)

鉄筋の呼び名	D10 ~ D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
柱	a	33以上	38以上	44以上	48以上	53以上	62以上
	b	33~43	38~48	44~54	48~58	53~63	62~72
梁	a	50以上		58以上	60以上	65以上	
	b	50~60		53~63	60~70	65~75	

5. 鉄筋の定着及び重ね継手長さ

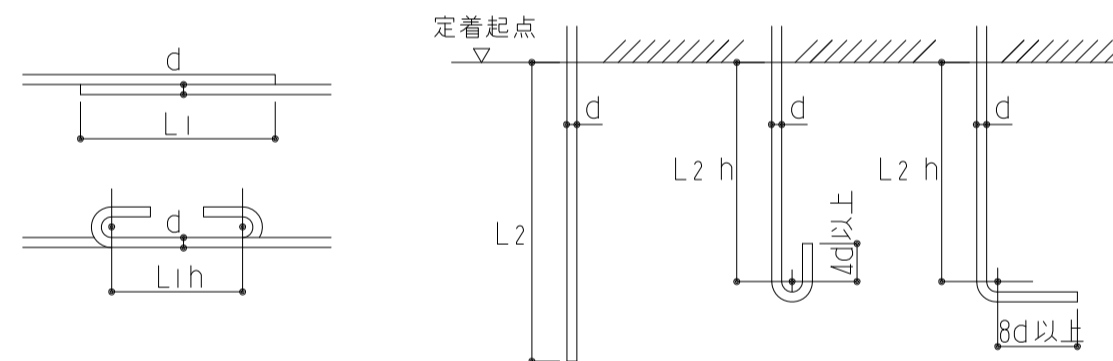
鉄筋の定着長さ(L2)及び重ね継手長さ(L1)は、以下による。重ね継手の継手位置とは、継手長さの中央を示す。
(凡例: ●採用, ○不採用)
●表-4による。
○設計図による。(H23国交省告示432号の適用)

表-4 鉄筋の定着長さ及び重ね継手長さ

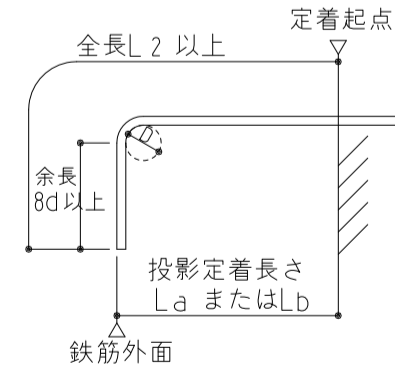
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度(N/mm ²)	重ね継手長さ		定着長さ		
		L1(L1h)	L2(L2h)	La	Lb	L3(L3h)
SD295A SD295B	24~27	45d(35d)	40d(30d)	20d	15d	小梁下端筋 スラブ下端筋
		35d(25d)	30d(20d)	15d	15d	
		30d(20d)	25d(15d)	15d	15d	
SD345	24~27	50d(35d)	40d(30d)	20d	20d	20d* (10d)
		45d(30d)	35d(25d)	20d	20d	
		35d(25d)	30d(20d)	15d	15d	
SD390	24~27	50d(35d)	40d(30d)	20d	20d	10d*かつ 150mm以上 (—)
		45d(30d)	35d(25d)	20d	20d	
		40d(30d)	35d(25d)	15d	15d	
SD490	24~27	55d(40d)	45d(35d)	25d	—	—
		50d(35d)	40d(30d)	25d	—	
		45d(35d)	40d(30d)	20d	—	

*片持小梁・片持スラブの下端筋を直線定着とする場合は、25d以上とする。

(注) 1) フックありの場合はL1にあつては表中L1hの長さ、L2にあつては表中L2hの長さ、L3にあつては表中L3hの長さとする。但し、末端のフックは、定着長さ及び重ね長さには含まない。



- 径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方のdによる。
- 耐圧スラブの下端筋の定着長さは一般定着(L2)とする。
- 腹筋の重ね継手長さは、上記にかかわらず150mmとする。
- dは鉄筋の呼び名に用いた数値とする。
- 仕口内に90°折曲げ定着する鉄筋の定着方法は、①～②による。



- 鉄筋の投影定着長さは、大梁（基礎梁や片持梁を含む）主筋の柱内定着長さはLa、小梁やスラブ（片持ち形式を除く）の上端筋の梁内定着についてはLbによる。なお片持ち形式の小梁やスラブ上端筋はLaによる。

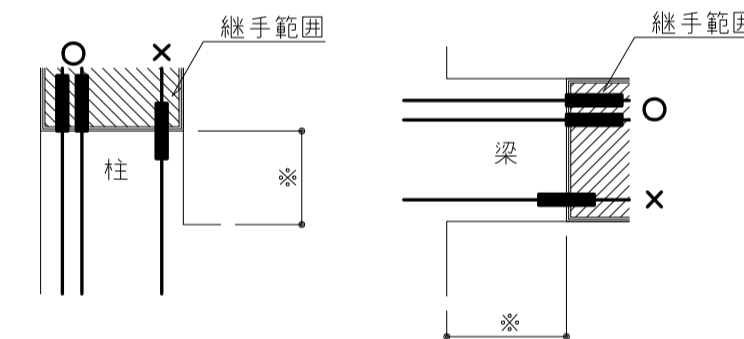
- 表-4に示す鉄筋の定着長さは、引張鉄筋を横補強筋またはダブル配筋されている壁の壁筋で扱われた領域内に定着する場合に適用する。
- 軽量コンクリートを使用する場合は、表の数値に5d以上加算した投影定着長さとする。
- この規定によらない場合は、建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説(2010)」等に基づき、別途定めることとする。

定着及び重ね継手の常用長さ (単位: mm)

鉄筋径の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
15d	150	195	240	285	330	375	435	480	525	570	615
20d	200	260	320	380	440	500	580	640	700	760	820
25d	250	325	400	475	550	625	725	800	875	950	1025
30d	300	390	480	570	660	750	870	960	1050	1140	1230
35d	350	455	560	665	770	875	1015	1120	1225	1330	1435
40d	400	520	640	760	880	1000	1160	1280	1400	1520	1640
45d	450	585	720	855	990	1125	1305	1440	1575	1710	1845
50d	500	650	800	950	1100	1250	1450	1600	1750	1900	2050
55d	550	715	880	1045	1210	1375	1595	1760	1925	2090	2255

機械式継手の継手範囲

- 機械式継手を用いる場合の継手範囲は、本図面に示す各部材の継手範囲によるほか、当該継手の評定書・建築技術性能証明書に記載された条件に基づいた設計者の指示によって良い。この場合、設計者は下図の※印寸法を指示する。
- 機械式継手の位置は、下図に示す様に、継手全体が斜線の継手範囲内に納まるよう設置するものとし、その一部でも継手範囲から出てはならない。

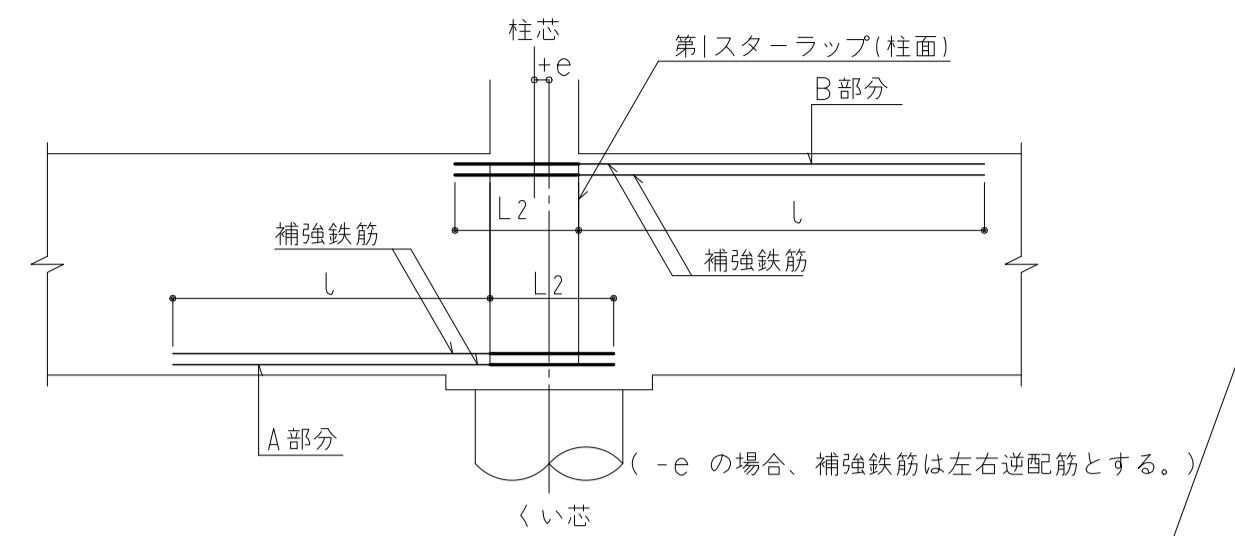


パーサポート・スペーサー・結束線 (参考)

部位	スラブ	梁	柱
種類	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製
数量または配置	上端筋, 下端筋それぞれ1.3個/m ² 程度	間隔は1.5m程度 端部は1.5m以内	上段は梁下より0.5m程度 中段は柱脚と上段の中間 柱幅方向は1.0mまで2個 1.0m超 3個
備考	端部上端筋および中央部 下端筋には必ず設置	側梁以外の梁は上または 下に設置, 側梁は側面の 両側へ対称に設置	同一平面に点対称となる ように設置
部位	基礎	基礎梁	壁・地下外壁
種類	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製
数量または配置	面積 4m ² 程度 8個 16m ² 程度 20個	間隔は1.5m程度 端部は1.5m以内	上段は梁下より0.5m程度 中段は上階より1.5m間隔 程度 横間隔は1.5m程度 端部は1.5m以内
備考		上または下と側面の両側 へ対称に設置	

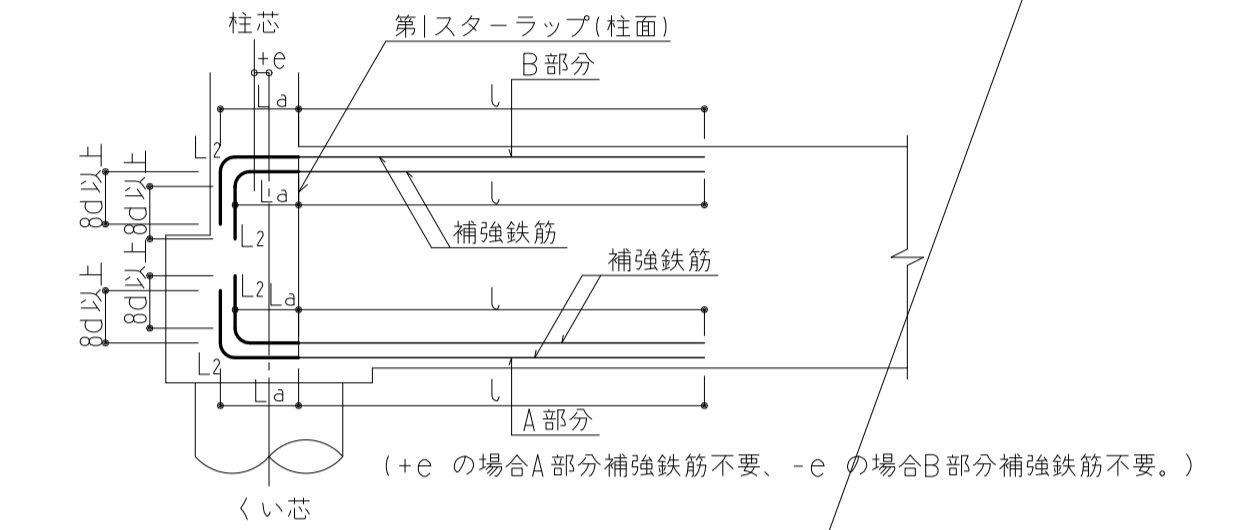
- (注) 1) 表の数量または配置は5~6階までのRC造を対象としている。
2) 梁・柱・基礎梁・壁および地下外壁のスペーサーは側面に限りプラスチック製でもよい。
3) 断熱材打ち込み時のスペーサーは支持重量に対して、めり込まない程度の接触面積を持ったものとする。
・結束線は内側に折り曲げることを原則とする。

くの偏心に対する基礎梁鉄筋補強



	A部分	B部分	せん断補強
0 < 偏心 e ≤ 100	補強なし	補強なし	
100 < 偏心 e ≤	-D L=	-D L=	
< 偏心 e ≤	-D L=	-D L=	

梁片側タイプ

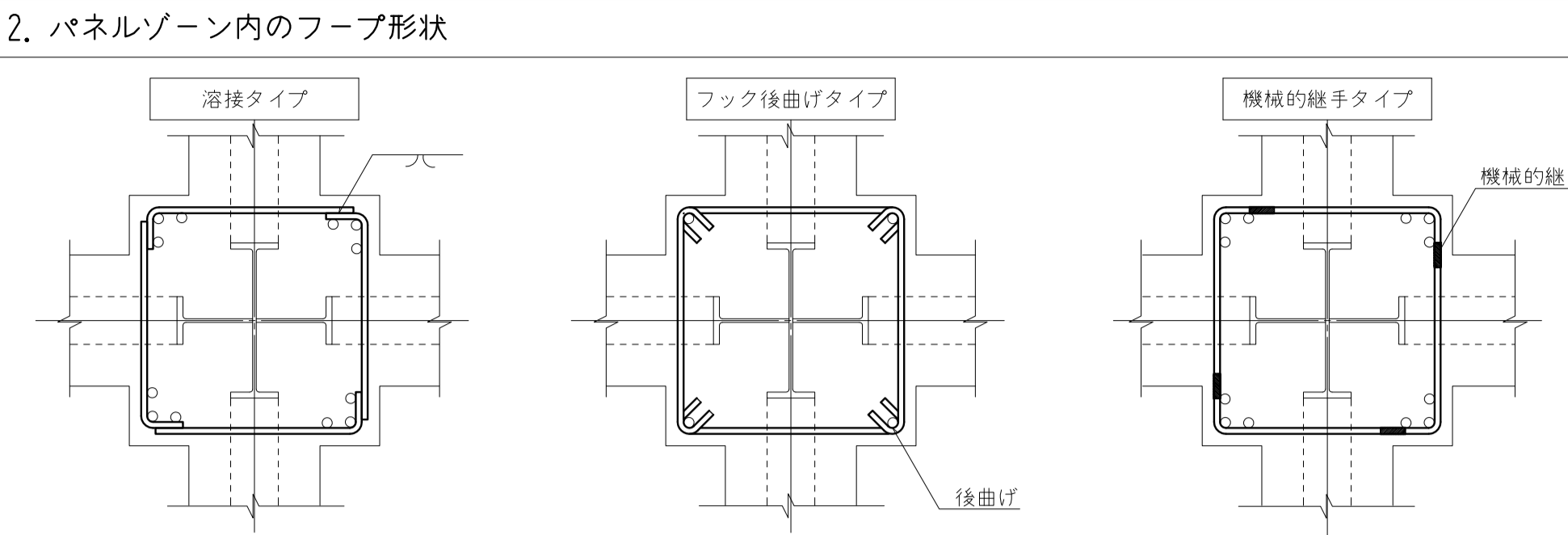
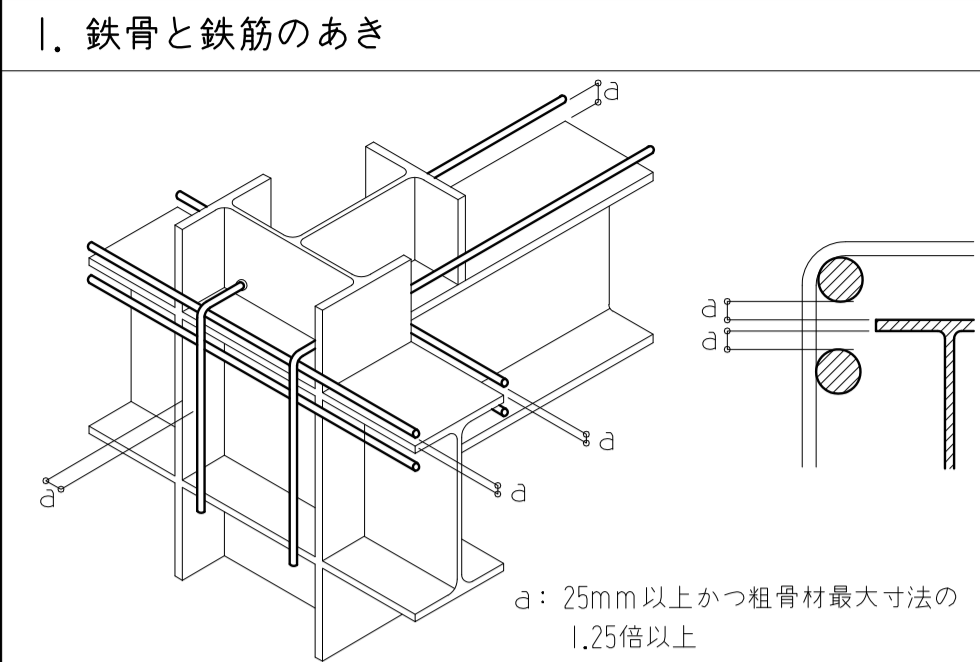


	A部分	B部分	せん断補強
0 < 偏心 e ≤ 100	補強なし	補強なし	
100 < 偏心 e ≤	-D L=	-D L=	
< 偏心 e ≤	-D L=	-D L=	

鉄骨鉄筋コンクリート造配筋基準図

採用タイプ

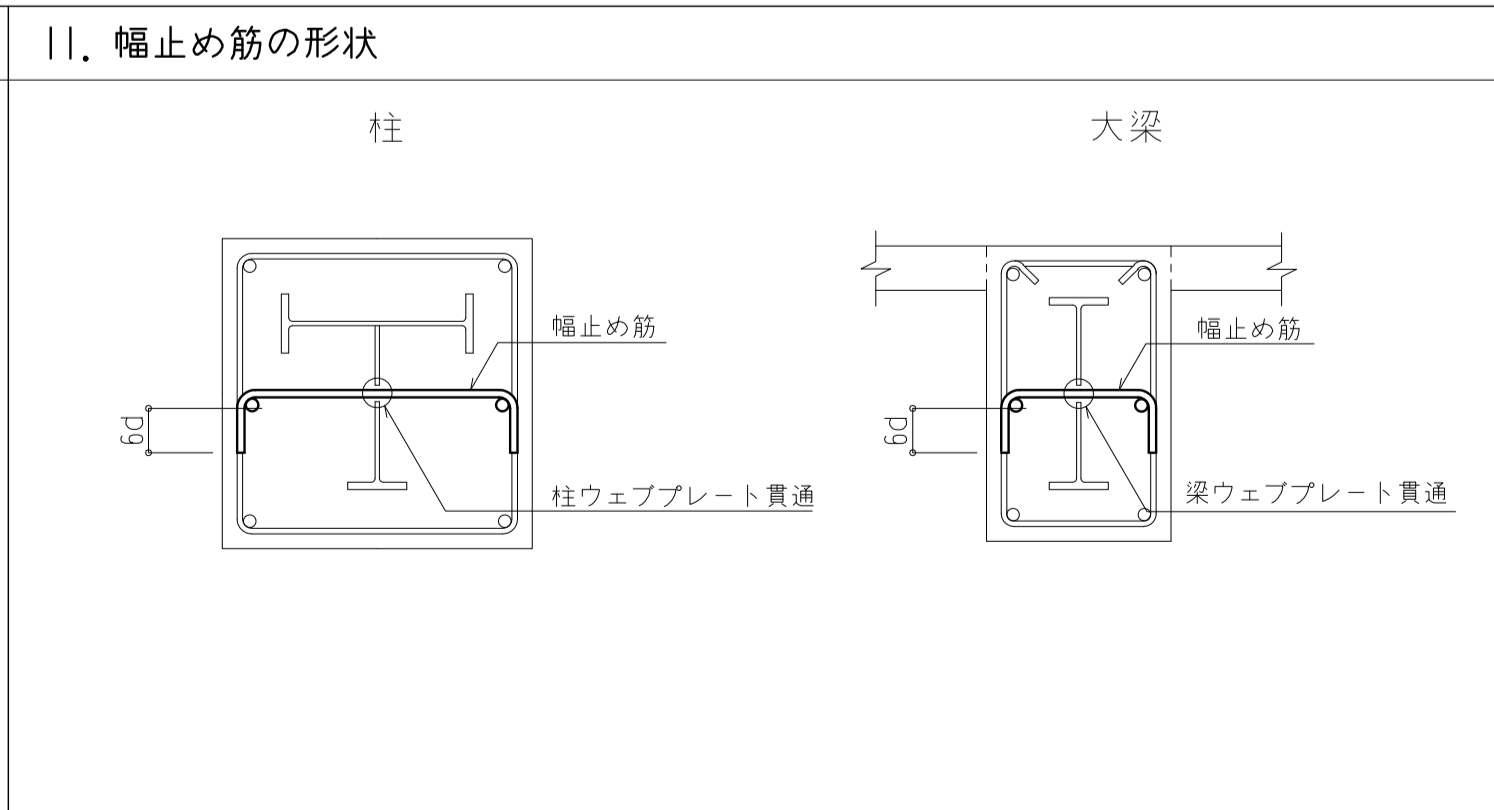
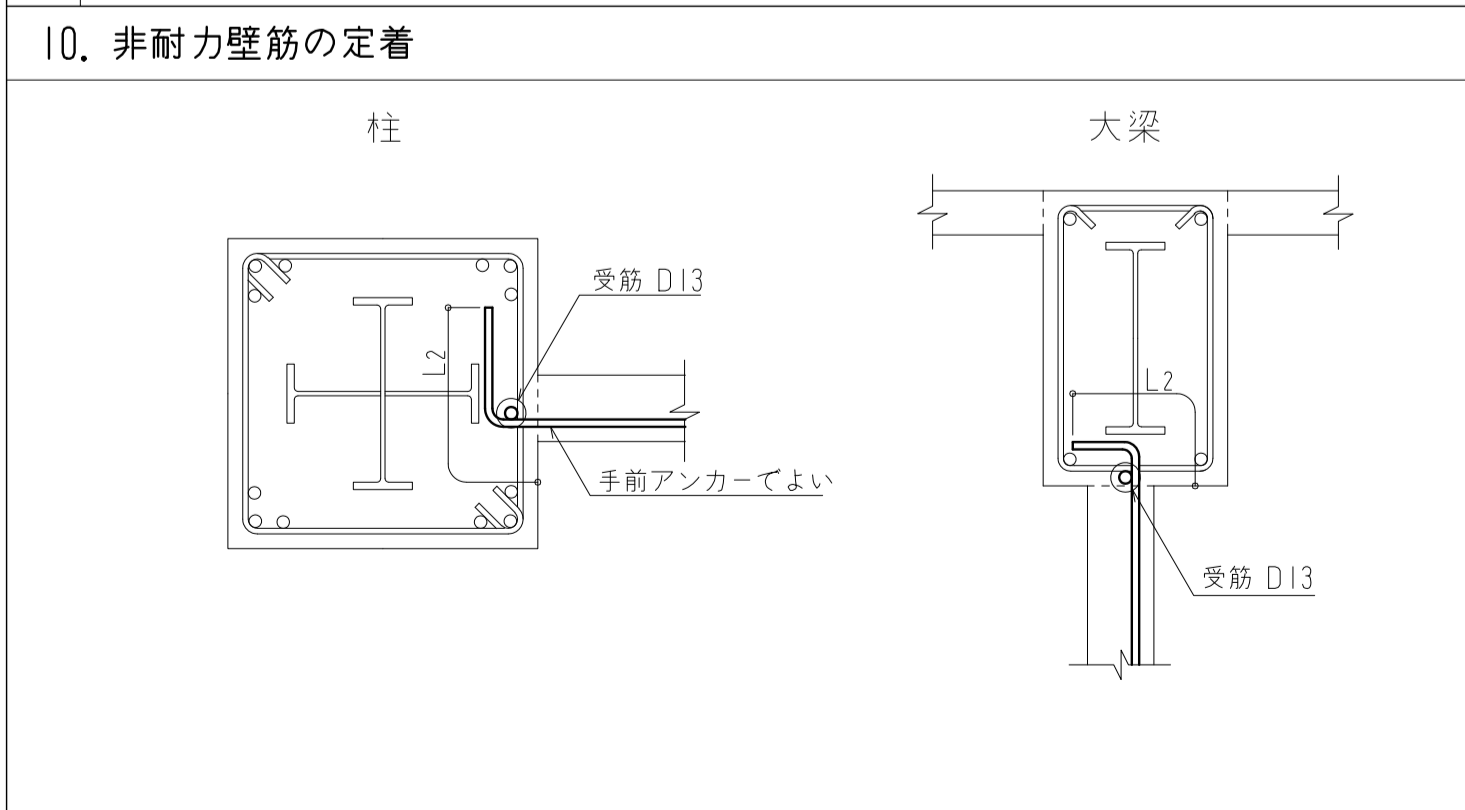
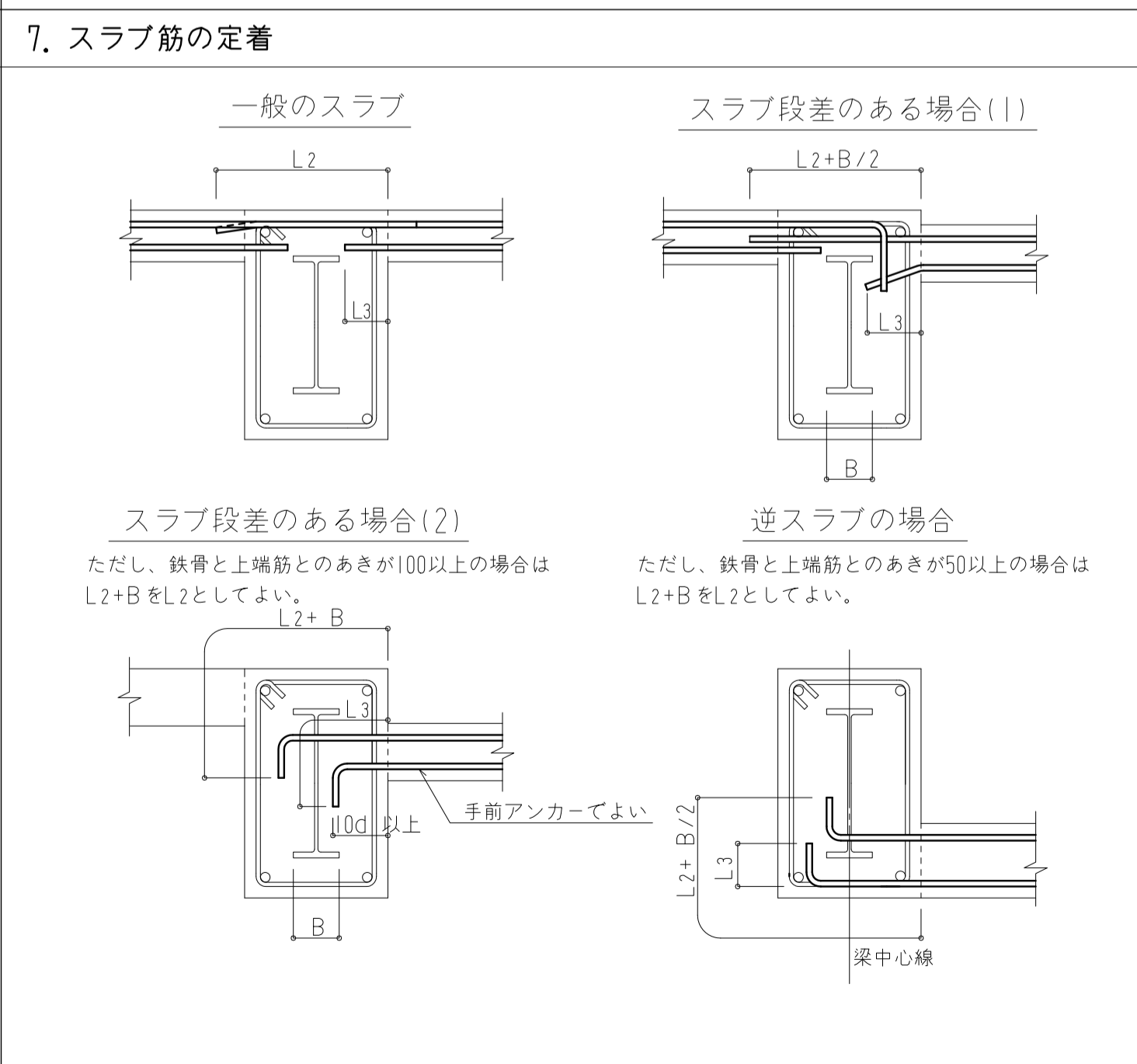
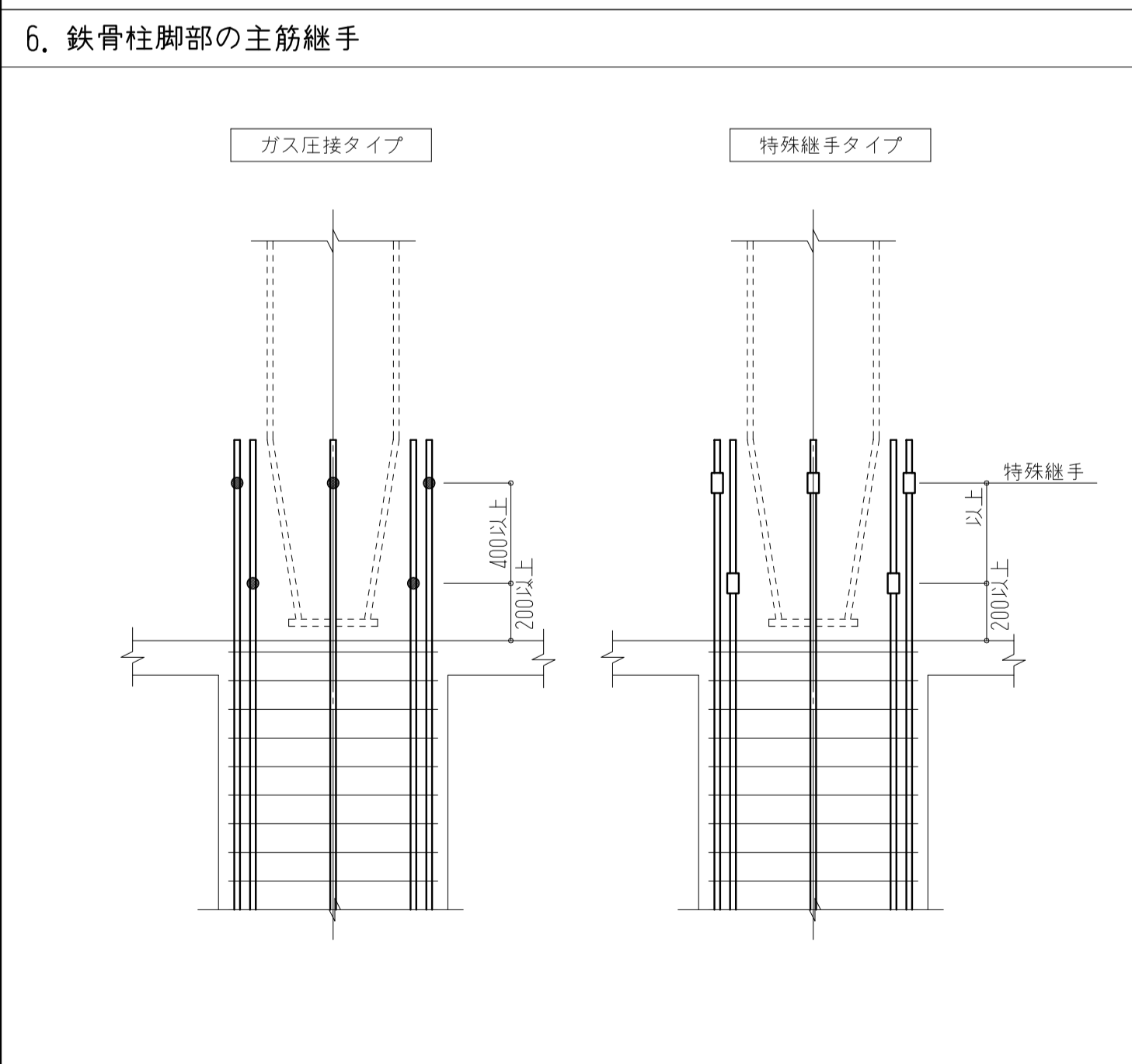
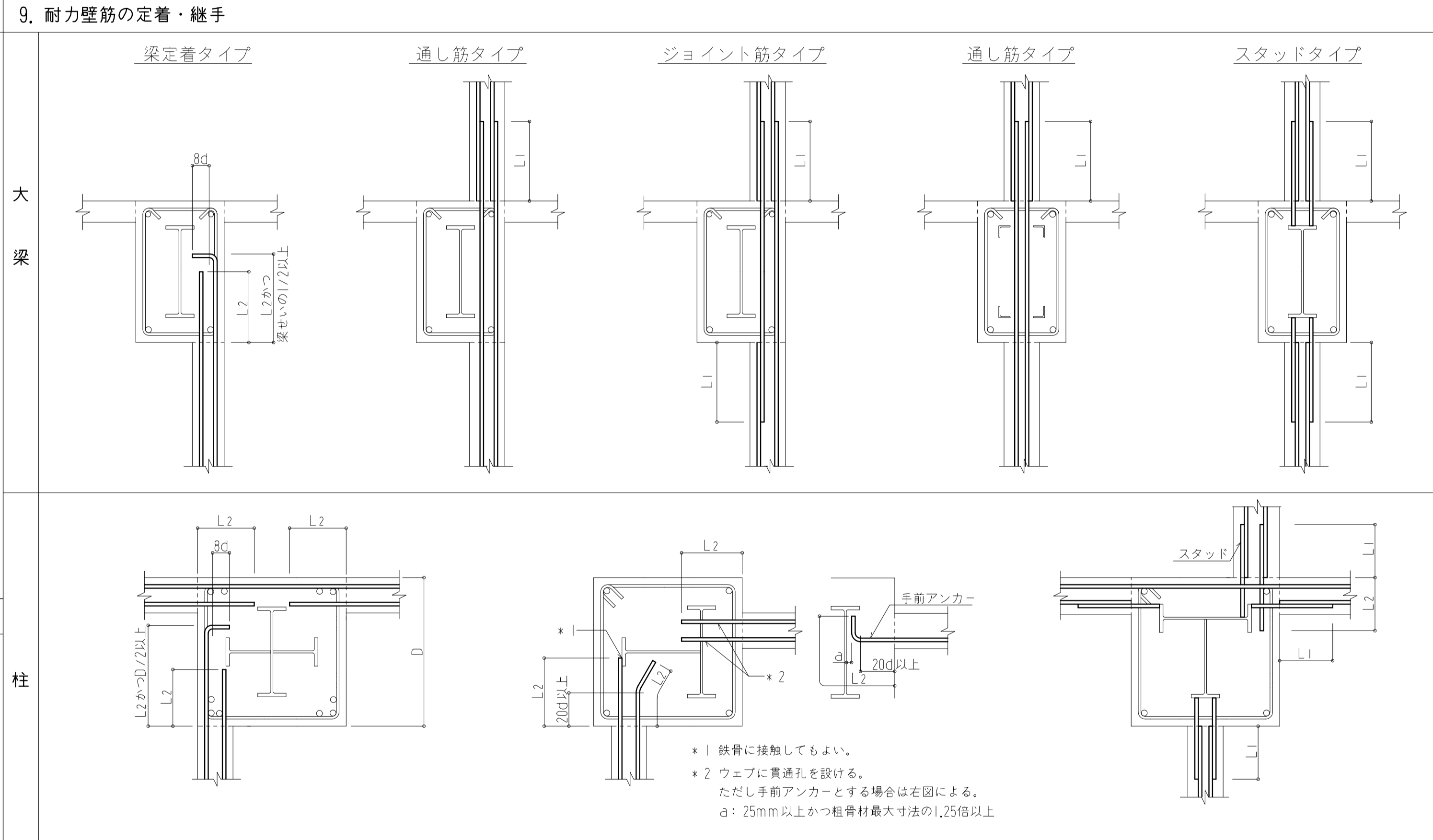
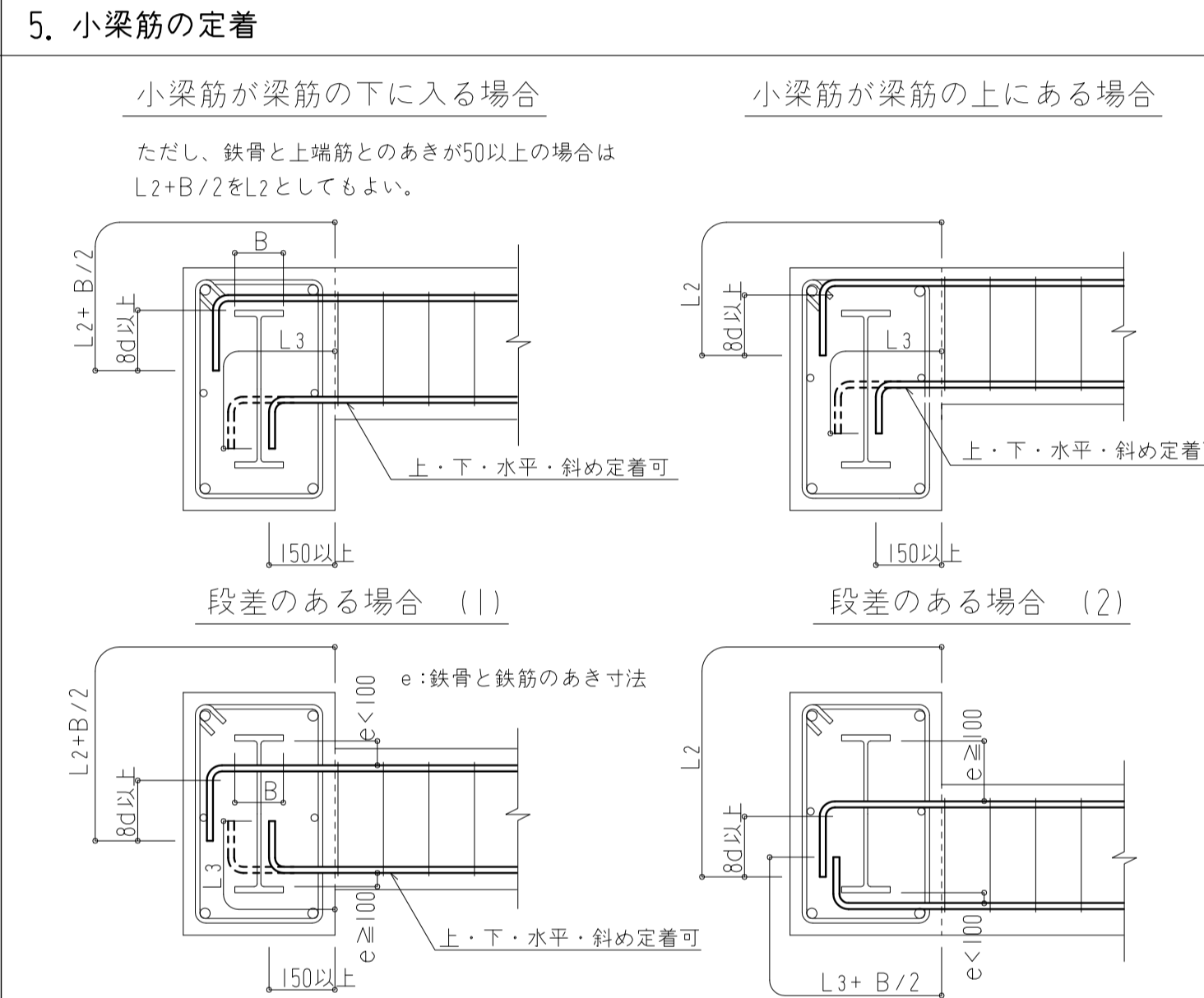
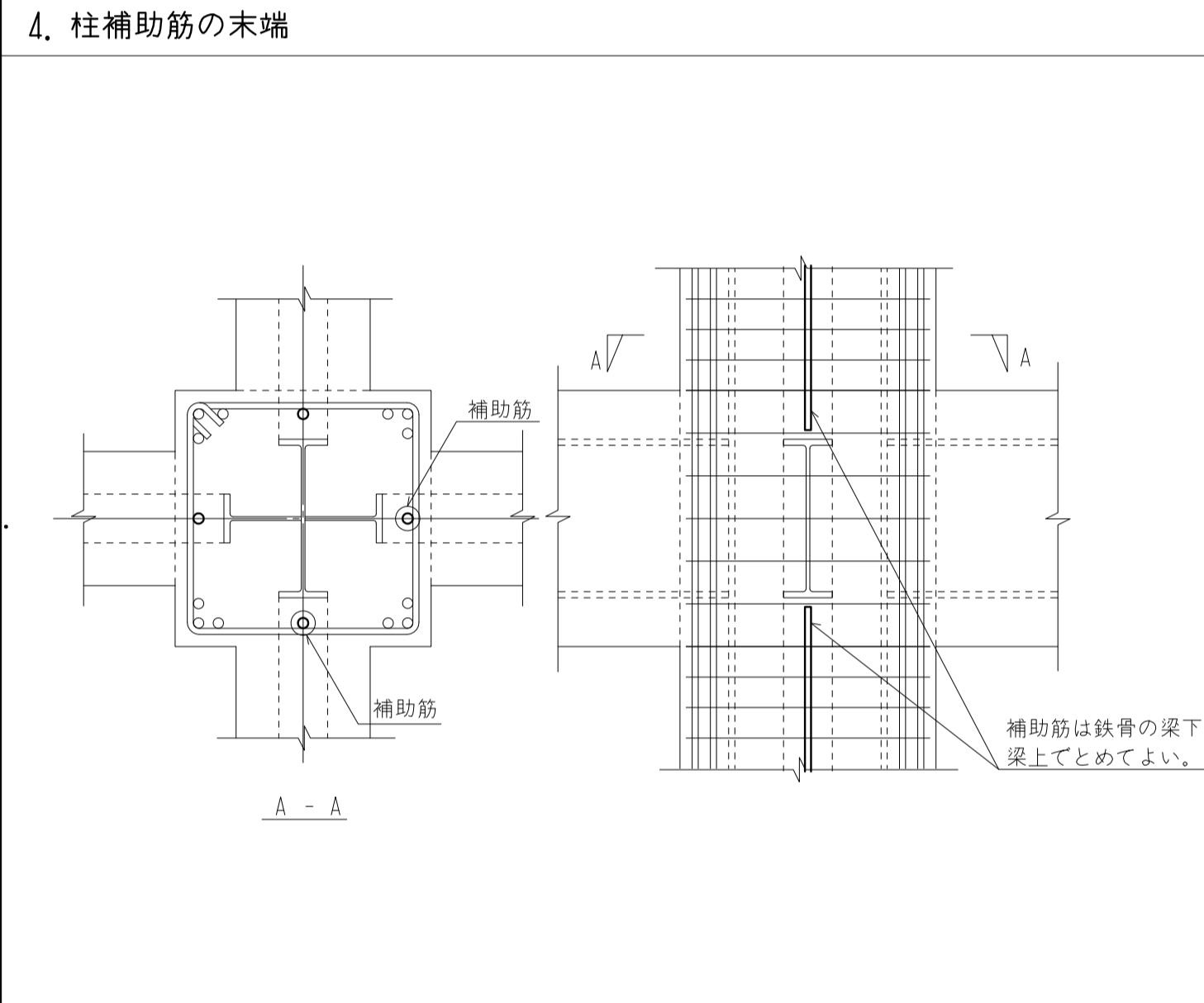
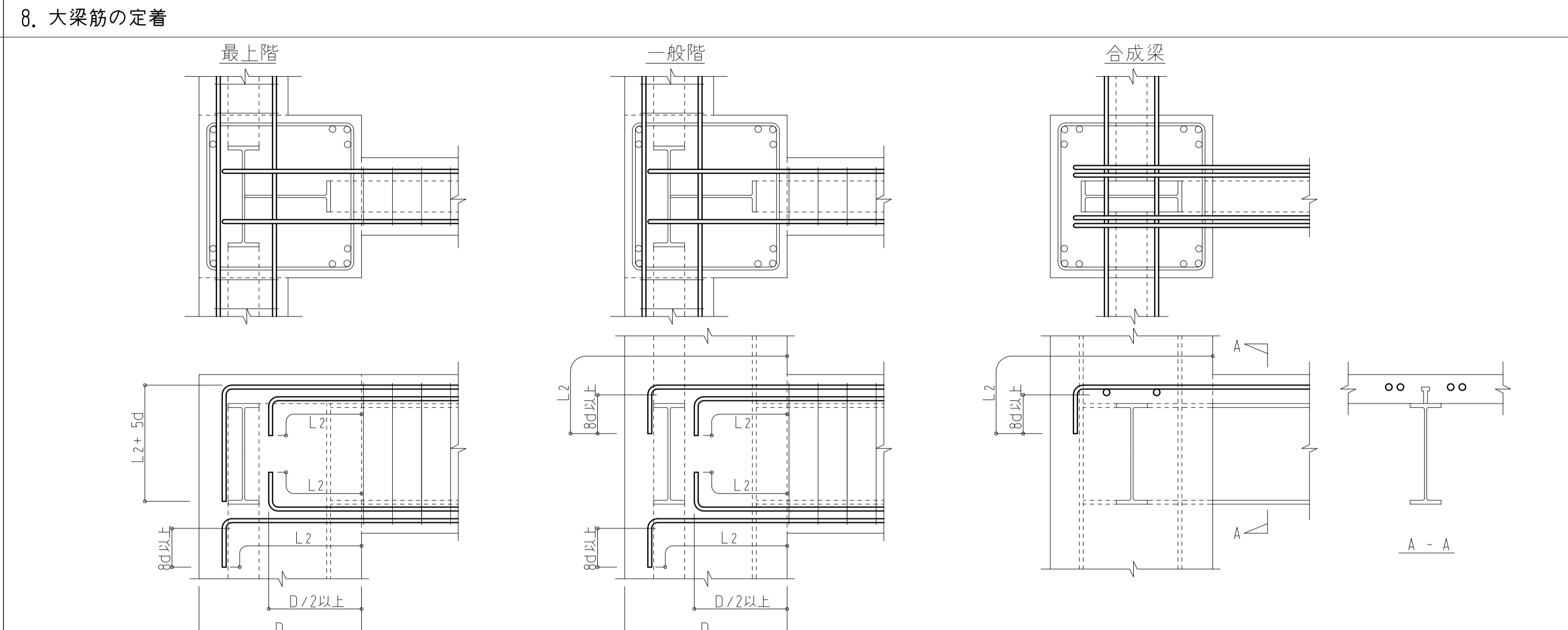
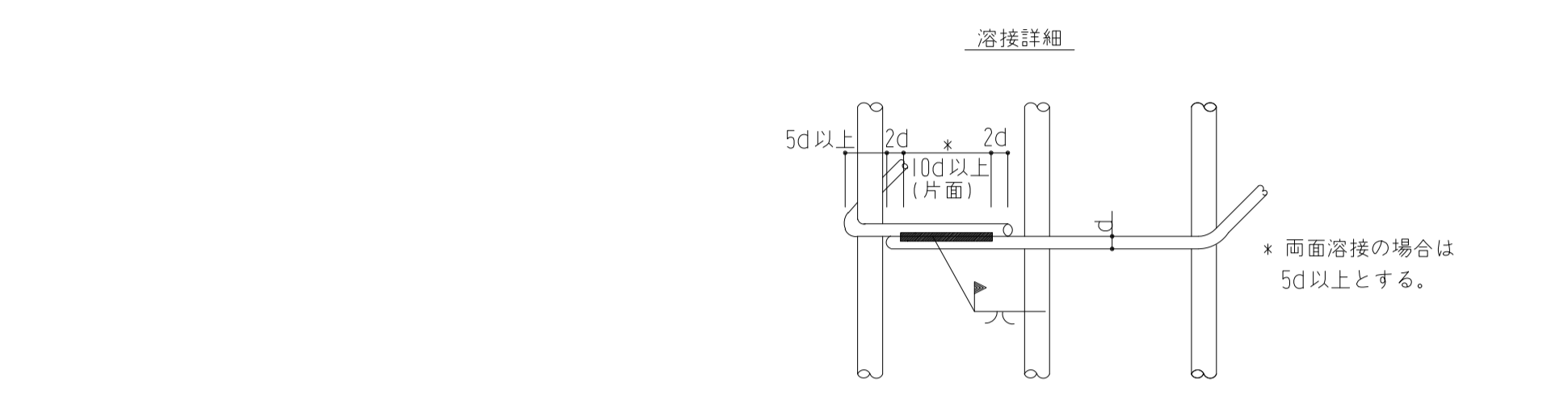
(注) 本基準以外は、構造図 配筋基準共通事項および配筋基準による。



3. 鉄筋貫通のための孔径

公称径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
標準貫通孔径	21	24	28	31	35	38	43	46

パネルゾーン内は梁筋1本につき貫通孔は1カ所とし、2本以上の鉄筋を通す貫通孔は避ける。



溶接基準図 |

0. 一般事項
 1) 本溶接基準は、JIS規格鋼材および国土交通大臣認定品を使用する鉄骨工事に適用する。
 2) 構造図に記載された事項は、本溶接基準に優先して適用するものとする。また、監理者の指示がある場合はその指示による。
 3) 実際の施工にあたり、鉄骨製作工場の仕様と相違がある場合は、監理者との協議により溶接方法を決定する。

1. 適用範囲
 ■ 本基準図は鉄骨の工場溶接・工事現場溶接を行う場合に適用する。

2. 溶接継手の方法及び形状寸法
 ■ 部分溶込み溶接及び隅肉溶接の形状寸法は、適用板厚は50mm以下とする。
 ■ 寸法の単位は全てmmとする。

溶接方法	呼称・形状図・寸法						溶接方法	呼称・形状図・寸法						
	記号	B	突合せ継手	C	かど継手	T		T継手	記号	B	突合せ継手	C	かど継手	T
C 被覆アーーク溶接 G ガスシールドアーーク溶接	完全溶け込み溶接	I形	T ≤ 6	T ≤ 9	T ≤ 6	T ≤ 9	T ≤ 6	S サブマージアーーク溶接	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T
		レ形	6 ≤ T	6 ≤ T	6 ≤ T	6 ≤ T	6 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	
		▽形	6 ≤ T	6 ≤ T	6 ≤ T	6 ≤ T	6 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	
		K形	16 ≤ T	16 ≤ T	16 ≤ T	16 ≤ T	16 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	
		X形	16 ≤ T	16 ≤ T	16 ≤ T	16 ≤ T	16 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	
		レ形	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	
P 部分溶込み溶接	隅肉溶接	レ形	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	隅肉溶接	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T
		K形	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	
P 部分溶込み溶接	隅肉溶接	レ形	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	隅肉溶接	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T
		K形	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	
P 部分溶込み溶接	隅肉溶接	レ形	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	隅肉溶接	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T
		K形	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	
P 部分溶込み溶接	隅肉溶接	レ形	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	隅肉溶接	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T
		K形	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	
P 部分溶込み溶接	隅肉溶接	レ形	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	隅肉溶接	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T
		K形	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	9 ≤ T	16 ≤ T	19 ≤ T	

■ 間先形状寸法を示す記号
 G: ルート間隔または部材間隔 (mm)
 D: 間先深さ (mm) Di: 先に溶接する側
 T: 母材の板厚 (mm)
 R: ルート面 (mm)
 α: 間先角度 α1: 先に溶接する側
 S: 隅肉及び補強隅肉溶接のサイズ (mm)

■ 溶接姿勢を示す記号
 F: 下向き
 H: 水平または横向き
 V: 立向き
 O: 上向き

溶接基準図 3

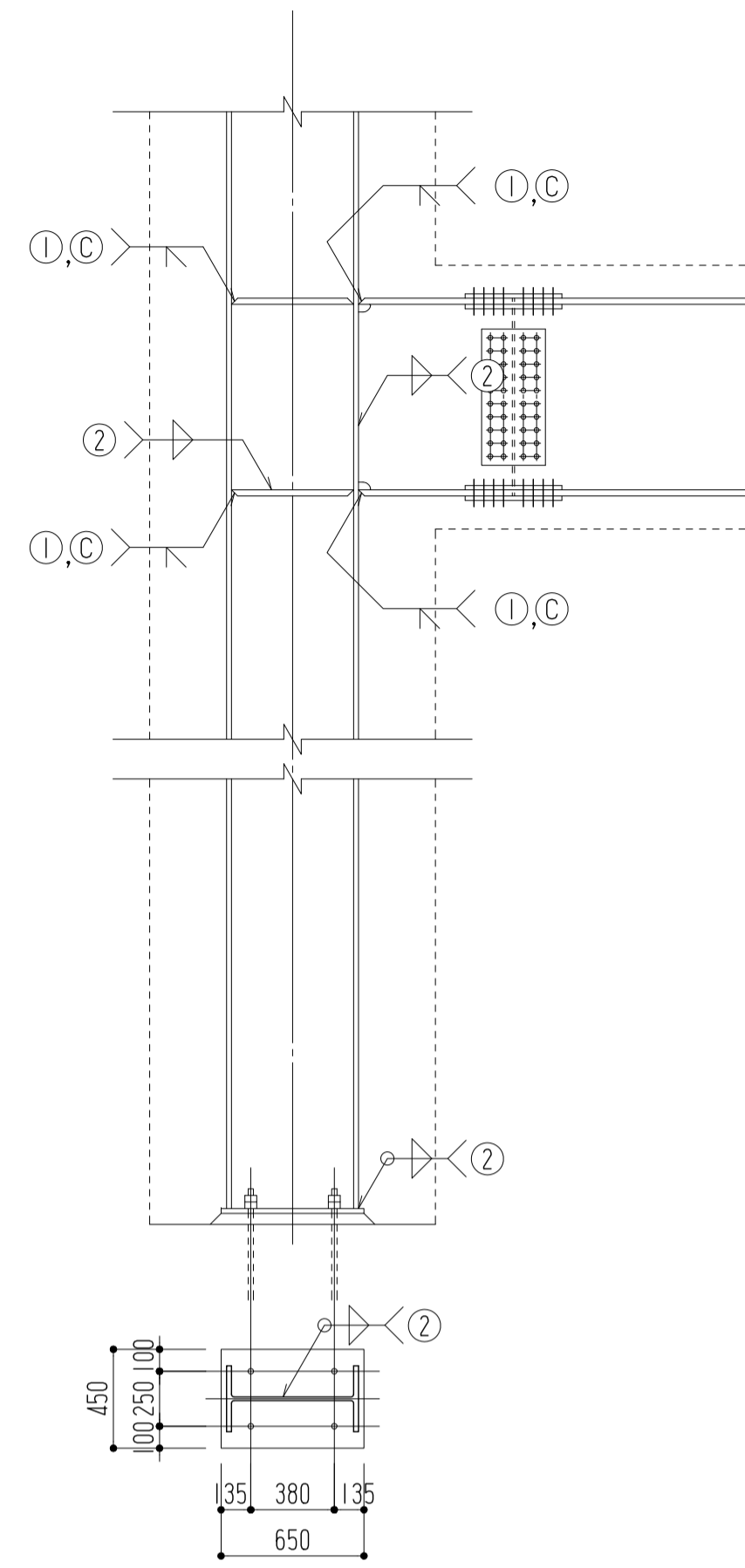
溶接要領図 注) 溶接箇所に符号し、対応する符号を溶接基準図の 2. 溶接継手の方法及び形状寸法の □ 内に記入する。

6. ガスシールドアーク溶接法による完全溶込み溶接部の条件・管理

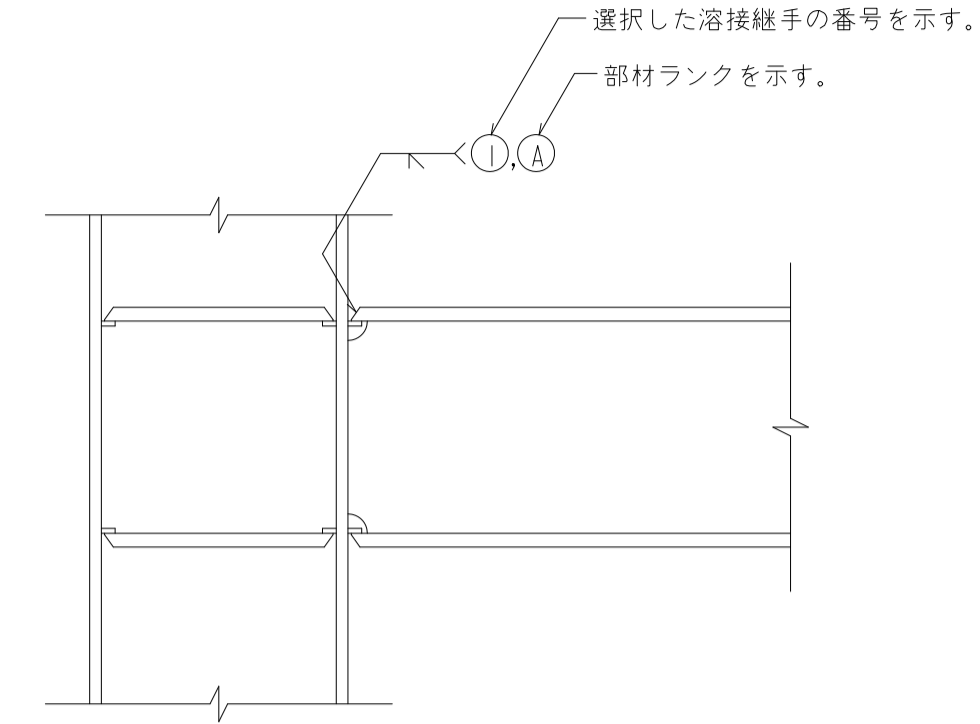
400N/mm²級および 490N/mm² 級鋼材の場合***

部材ランク	溶接条件	溶接管理
A	規定なし	規定なし
B	入熱40kJ/cm以下、かつバス間温度350℃以下**	施工要領書に、(1)溶接姿勢、ワイヤ径、標準的な溶接速度等を考慮した溶接電流・電圧の設定、(2)溶接作業の中断・再開時のバス間温度管理について明記すること。
C	YGW-11*** (下記以外の400N級鋼) 入熱40kJ/cm以下、かつバス間温度350℃以下**	施工要領書に、(1)溶接姿勢、ワイヤ径、(2)入熱(溶接電流・電圧、溶接速度)、バス間温度、(3)入熱・バス間温度の検査方法、採取率、(4)溶接作業の中断・再開時のバス間温度管理、について明記すること。 規定の溶接条件に基づいて溶接された印として、溶接技能者が溶接部近傍にサインを行い、溶接技術者がそれを確認すること。
	YGW-15*** (400N級STKR・BCR・BCP鋼) 入熱30kJ/cm以下、かつバス間温度250℃以下**	
C	YGW-18*** (下記以外) 入熱40kJ/cm以下、かつバス間温度350℃以下**	施工要領書に、(1)溶接姿勢、ワイヤ径、標準的な溶接速度等を考慮した溶接電流・電圧の設定、(2)溶接作業の中断・再開時のバス間温度管理、について明記すること。
	YGW-19*** (490N級STKR・BCR・BCP鋼) 入熱30kJ/cm以下、かつバス間温度250℃以下**	

- * 部材ランクA：原則的に、極めて稀な大地震でも塑性化の恐れのない部材。2次部材等。
- 部材ランクB：原則的に、柱・大梁等の主要耐震要素で、極めて稀な大地震でもほぼ弾性的な挙動をする部材
- 部材ランクC：原則的に、柱・大梁等の主要耐震要素で、極めて稀な大地震で十分な塑性変形能力を期待する部材
- ** ただし、溶接金属の機械的性質を確保できる入熱またはバス間温度で、施工試験により確認されている場合は、施工要領書に明記することにより、それを規定値とすることができる。
- *** 490N/mm²を超える部材、または上記以外のソリッドワイヤを使用する場合の溶接条件・管理方法については、別途定めることとする。



溶接要領作成例



水平リブプレート溶接要領

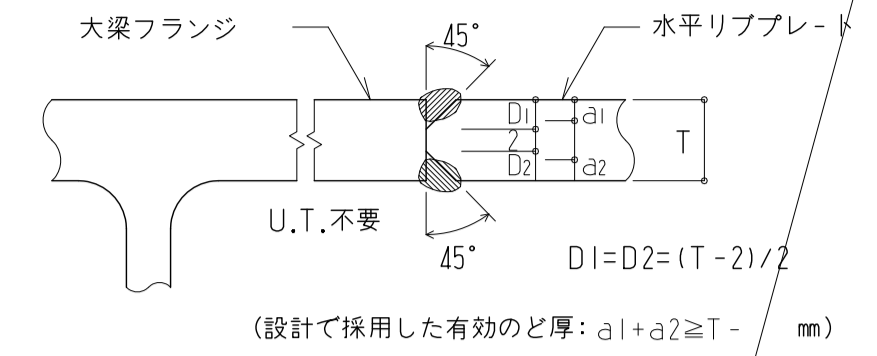


図-1：部分溶込み溶接

- 部分溶込み溶接部には、フラックススタブ(セラミックスタブ)を用いる。
- なお、ハンチ起点側のフラックススタブは、欠き込みのないフラットな物とし、レ形開先部分の溶接は滑らかにグラインダーにて仕上げを行う。(図-5)
- 溶接完了後スタブは除去し、外観上の欠陥が無い事を、全数確認する。
- 大梁フランジ及び端部補強プレートのレ形開先加工は、上記溶接前に行う。
- レ形開先部分の不溶接部は、あらかじめカットしてシールドビードを施す。(図-3)あるいは、片面溶接後にガウジング処理でも良い。
- 端部補強プレートの大梁フランジへの組立溶接は、図-4の要領で行う。
- 部分溶込み溶接の溶接方向は、図-5に従う。
- 原則としてリブプレートの溶接施工試験を実施し、設計で採用した有効のど厚が平均して確保されていることをマクロ試験により確認する。ただし、実績のあるファブは、監理者と協議の上、試験を省略することができる。

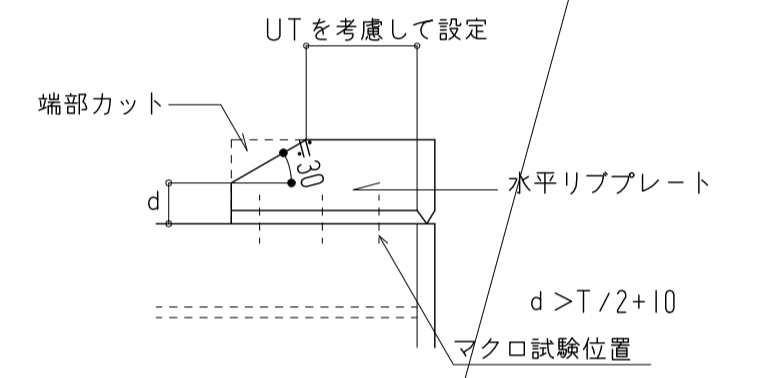


図-2：水平ハンチ端部カット

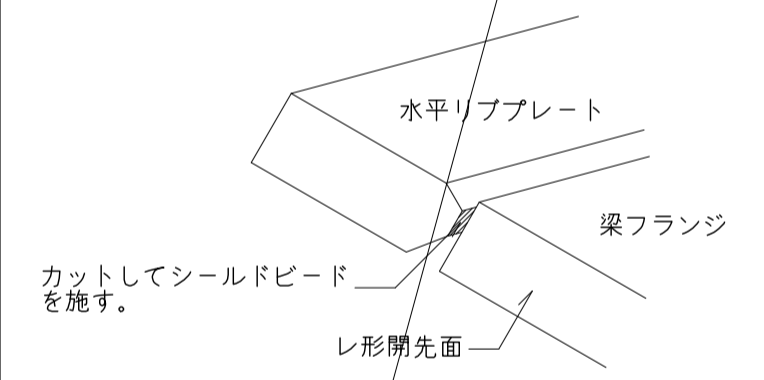


図-3：レ形開先部の処理

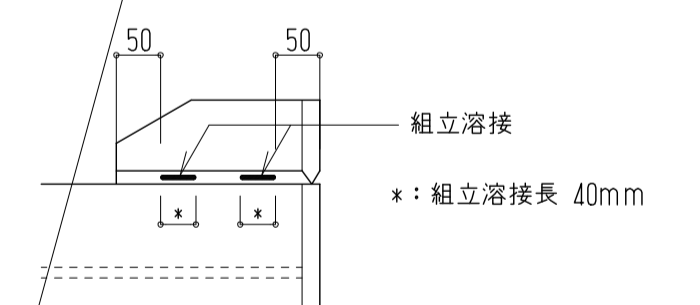


図-4：組立溶接

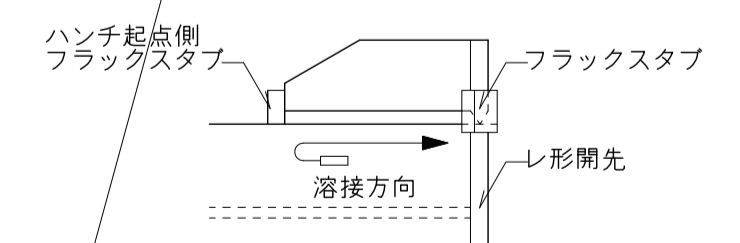
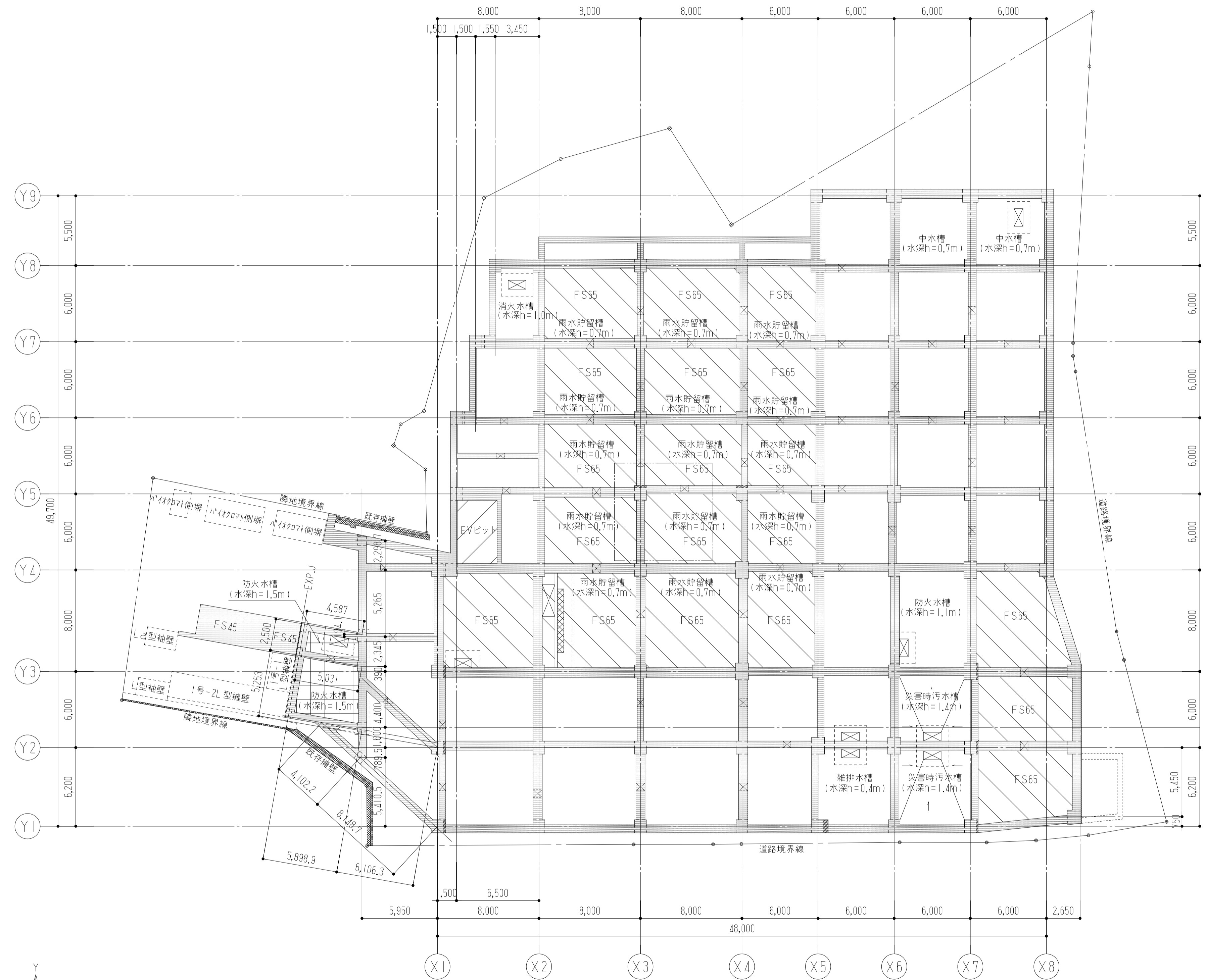
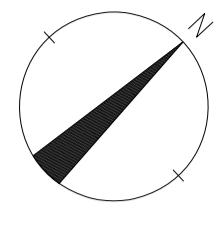


図-5：溶接方向・エンドタブ

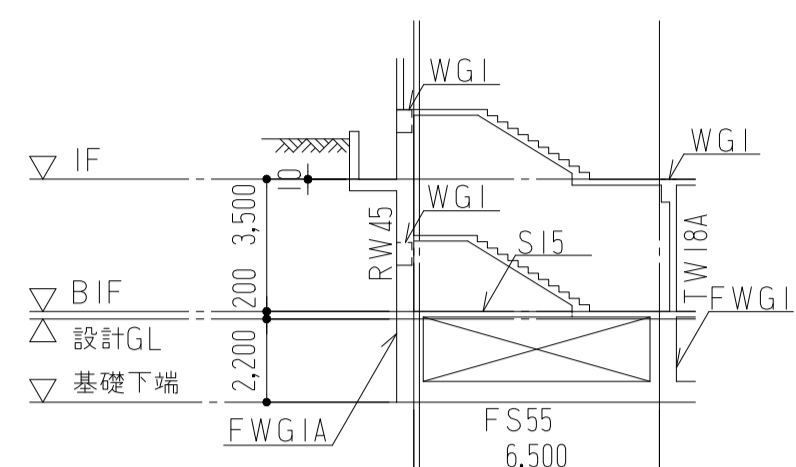
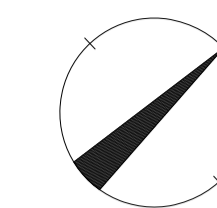
7. その他

- 1) 特記なき限り、通しダイヤフラムの板厚は、梁フランジ厚の2サイズUP以上とする。
- 2) 特記なき限り、内ダイヤフラムの板厚は、梁フランジ厚の1サイズUP以上とする。

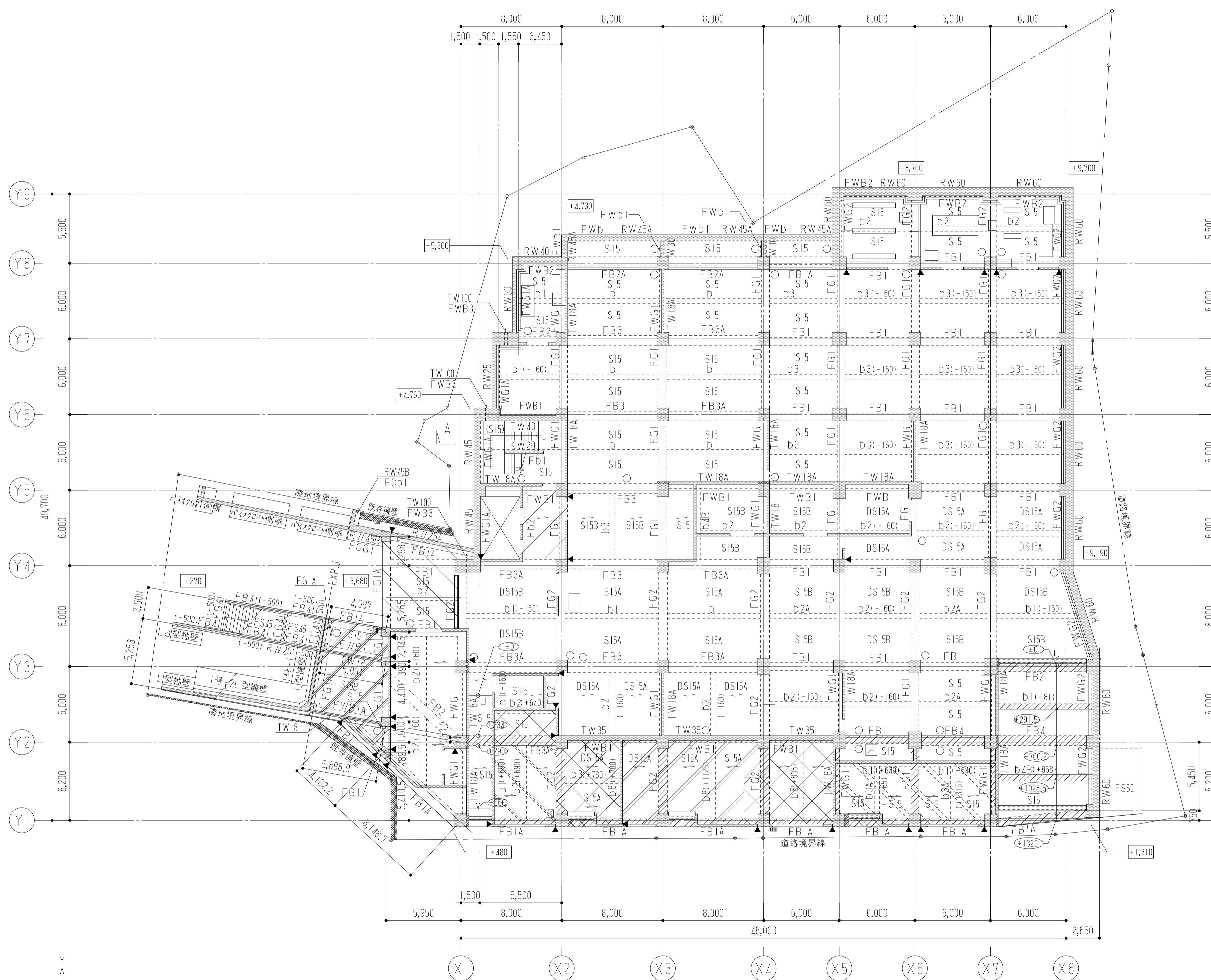


基礎伏図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)

- 共通事項
 特記なき限り下記とする。
- スラブ天端レベル
 - 無印 : SL=BIFL-1,850
 - 斜線 : SL=BIFL-1,280(増しコン天端)
 - 縦線 : SL=BIFL-1,750
 - 斜線 : SL=BIFL-1,950
 - 格子 : SL=BIFL-2,050
 - スラブはFS55とする。
 - スラブ短辺方向はY方向とする。
 一印は、スラブ短辺方向を示す。
 - 印は、人通孔を示す。



A 断面図



B1階梁伏図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)

共通事項

特記なき限り下記とする。

1. 壁はW18とする。
2. スラブはDS15とする。
3. ▼印は構造スリットを示す。
4. 梁天端レベルは下記とする。

基礎梁 : FL - 200
 小 梁 : 梁天端=スラブ天端
 (***) : FLからの高さ

5. スラブ天端レベル

- 無印 : SL=FL±0
- (斜線) : SL=FL-180
- (斜線) : SL=FL-60
- (斜線) : SL=FL-30
- (斜線) : SL=FL+840
- (斜線) : SL=FL+930
- (斜線) : SL=FL+1075
- (斜線) : SL=FL+1125
- (斜線) : SL=FL+1315

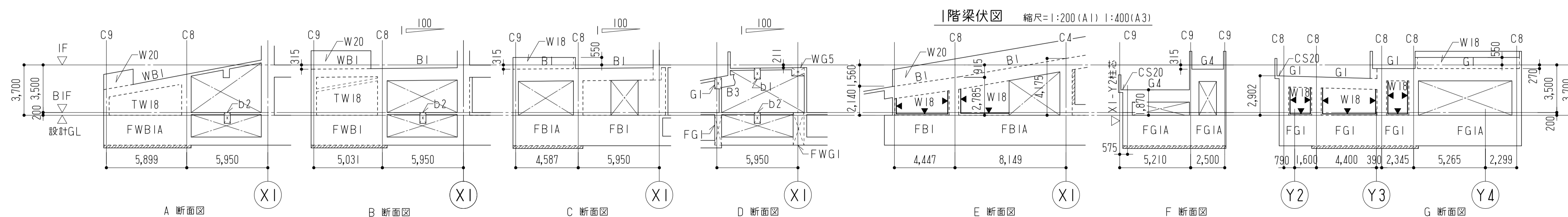
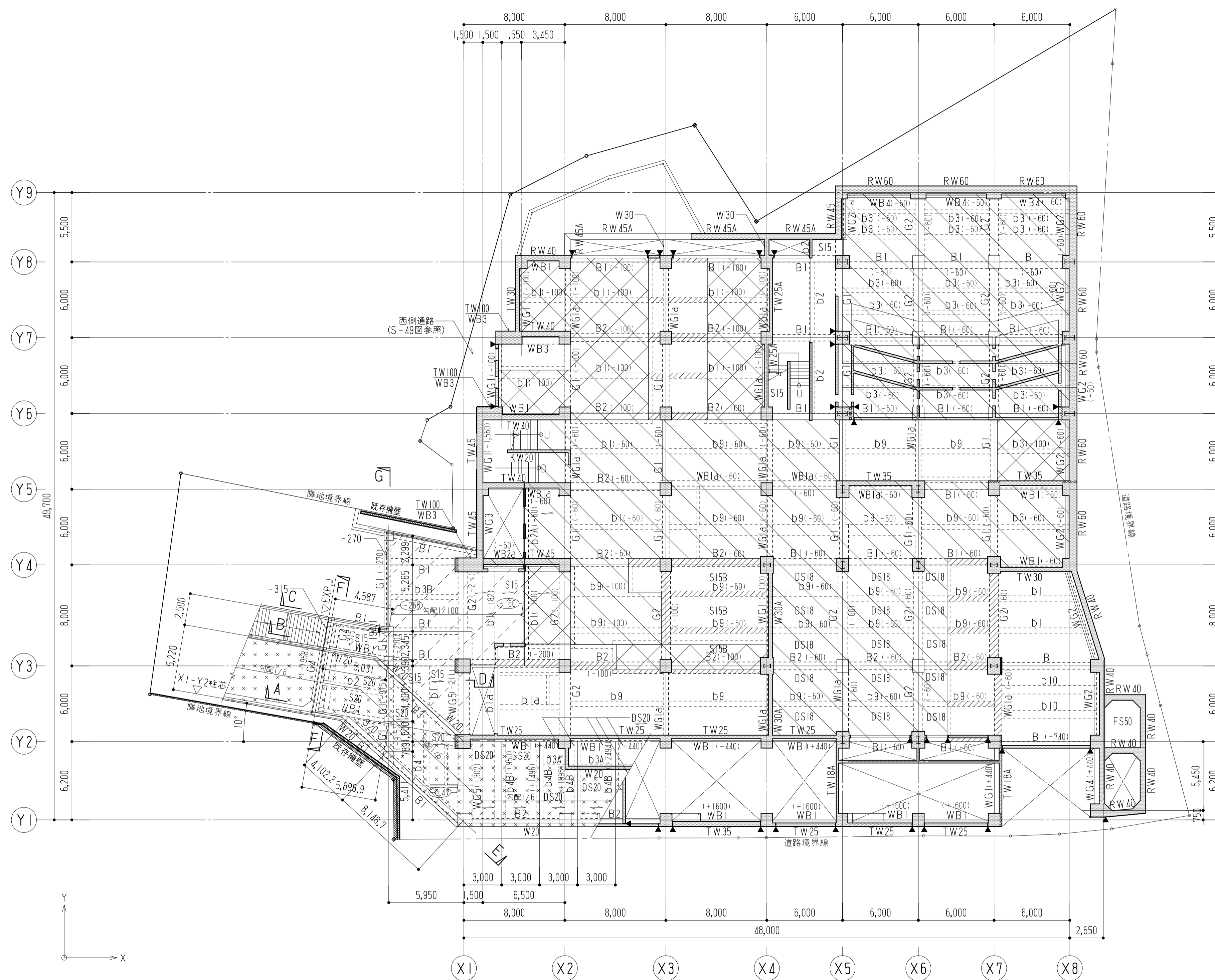
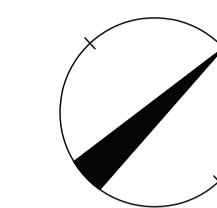
6. スラブ短辺方向はY方向↑とする。

— 印は、スラブ短辺方向を示す。

7. (斜線) 印は増打ちコンクリートを示す。

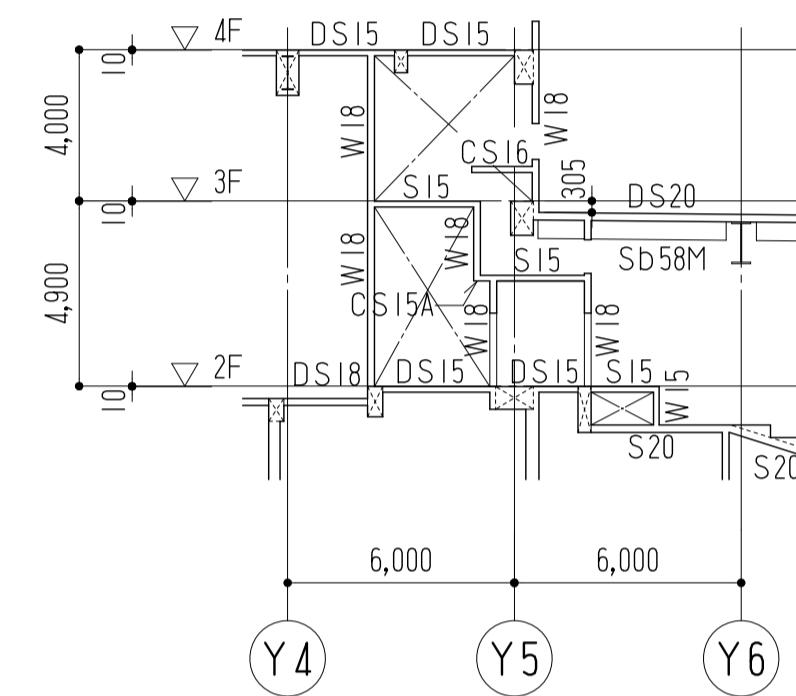
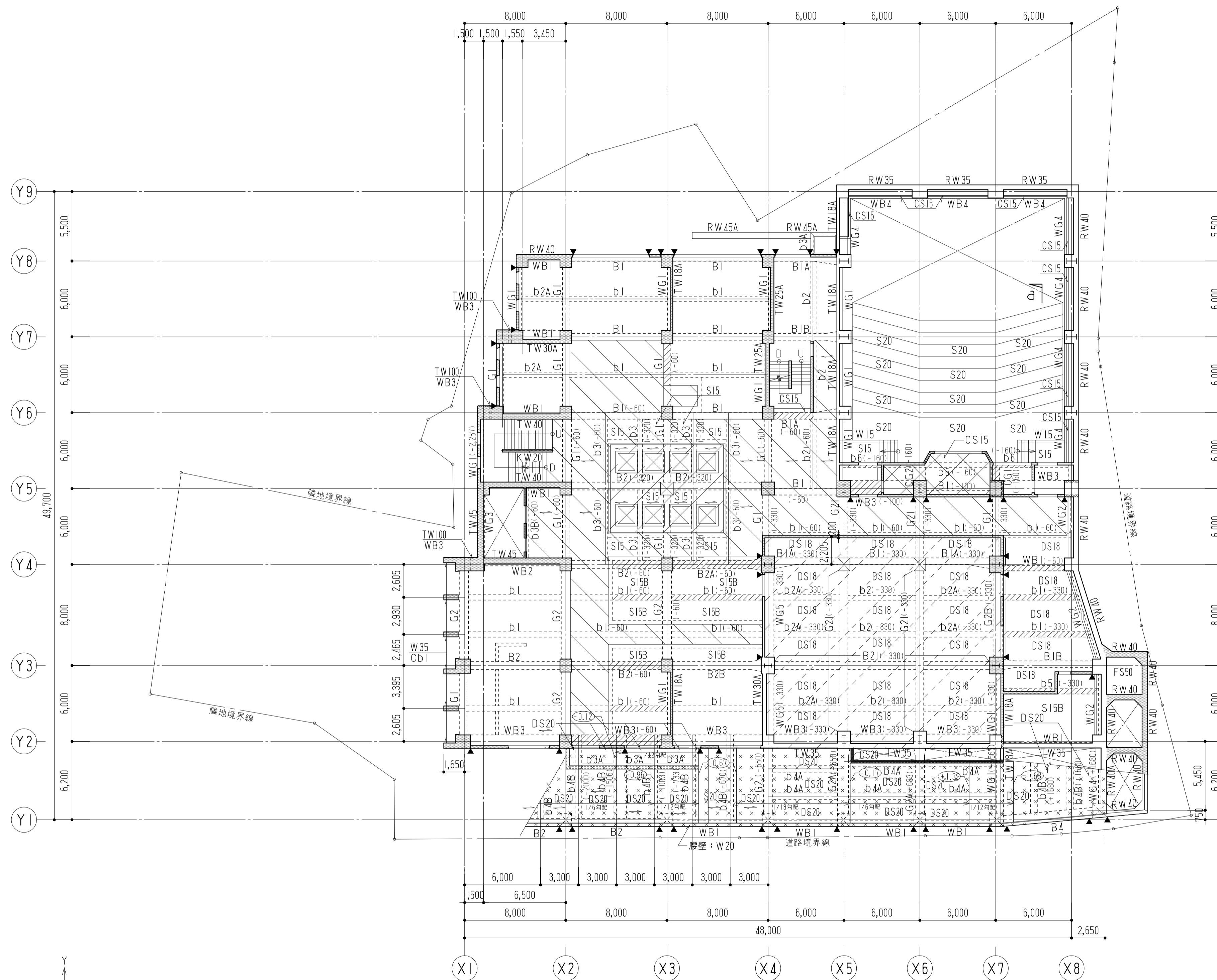
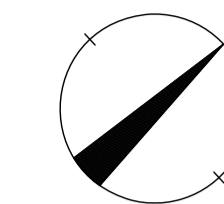
8. (L) 内数値は、FLからの高さ(m)を示す。

9. +4.730 は設計GLからの地盤高さを示す。



- 共通事項**
- 特記なき限り下記とする。
 - 壁はW18とする。
 - スラブはDS15とする。
 - ▼印は構造スリットを示す。
 - 梁天端レベルは下記とする。
大 梁：FL-10
小 梁：梁天端-スラブ天端
(***)：FLからの高さ
 - スラブ天端レベル

無印	: SL=FL-10
斜線	: SL=FL-60
点線	: SL=FL-100
縦線	: SL=FL-160~-315
×××	: 管理スロープ
 - スラブ短辺方向はY方向とする。
—印は、スラブ短辺方向を示す。
 - 斜線印は増打ちコンクリートを示す。
 - ⓪印内数値は、FLからの高さ(m)を示す。

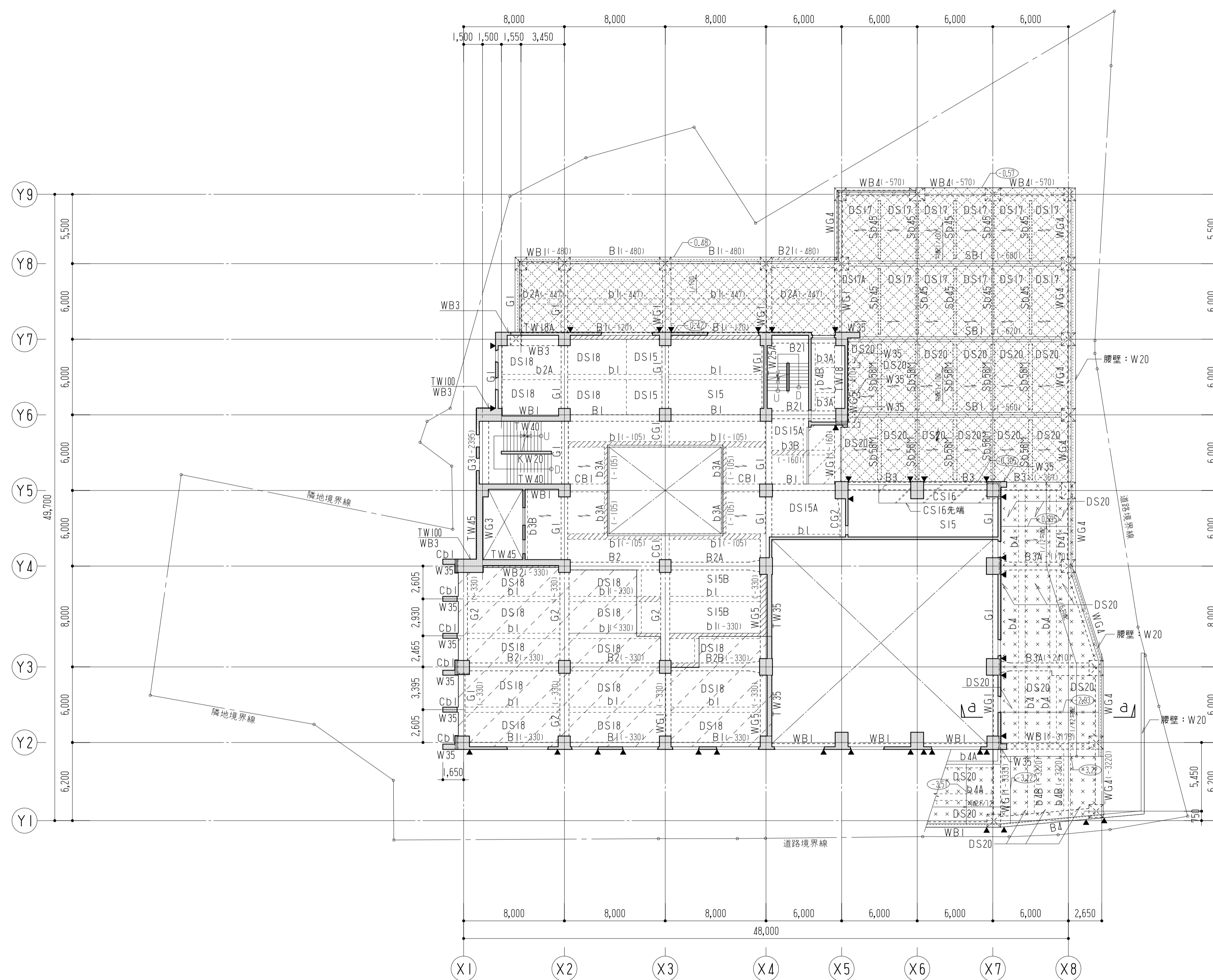
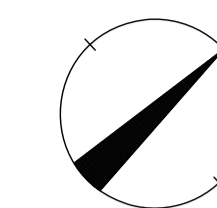


a 断面図

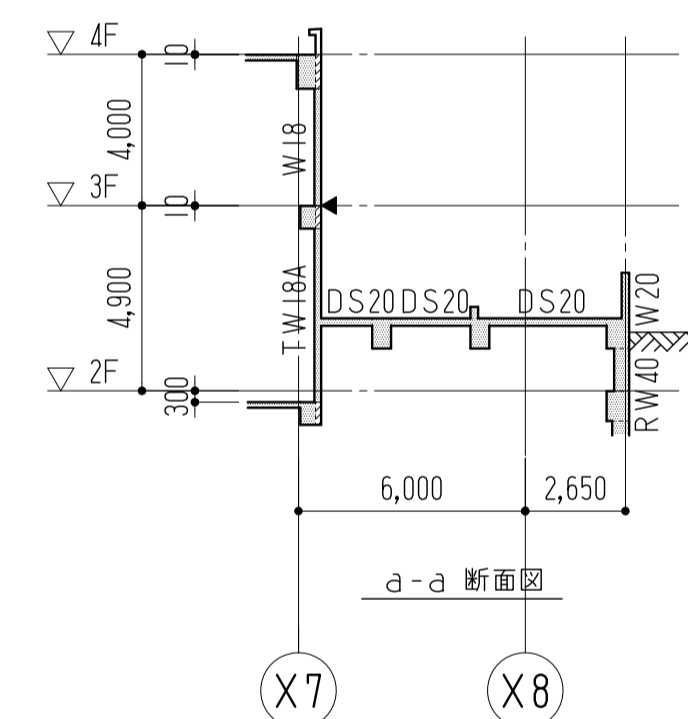
2階梁伏図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)

- 共通事項
- 特記なき限り下記とする。
 - 壁はW18とする。
 - スラブはDS15とする。
 - ▼印は構造スリットを示す。
 - 梁天端レベルは下記とする。
大 梁：FL-10
小 梁：梁天端=スラブ天端
(***)：FLからの高さ
 - スラブ天端レベル

無印	←：SL=FL-10
斜線	←：SL=FL-60
格子	←：SL=FL-100
点線	←：SL=FL-320
点線	←：SL=FL-330
点線	←：管理スロープ
 - スラブ短辺方向はY方向↑とする。
→印は、スラブ短辺方向を示す。
 - 印は増打ちコンクリートを示す。
 - 印内数値は、FLからの高さ(m)を示す。

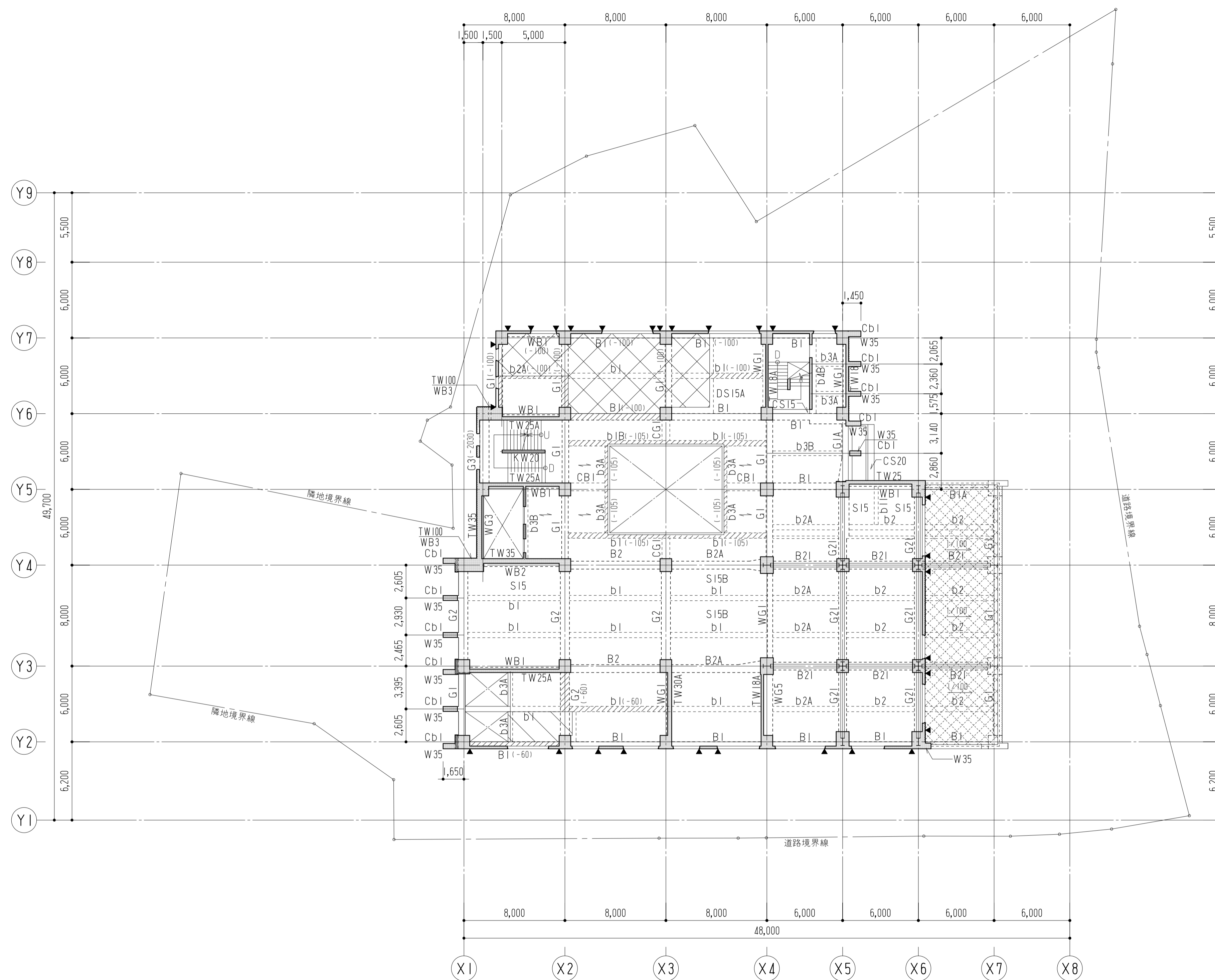
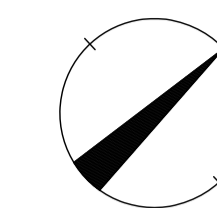


3階梁伏図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)



- 共通事項
- 特記なき限り下記とする。
- 壁はW18とする。
 - スラブはDS15とする。
 - ▼印は構造スリットを示す。
 - 梁天端レベルは下記とする。
大梁：FL-10
小梁：梁天端=スラブ天端
(***): FLからの高さ
 - スラブ天端レベル

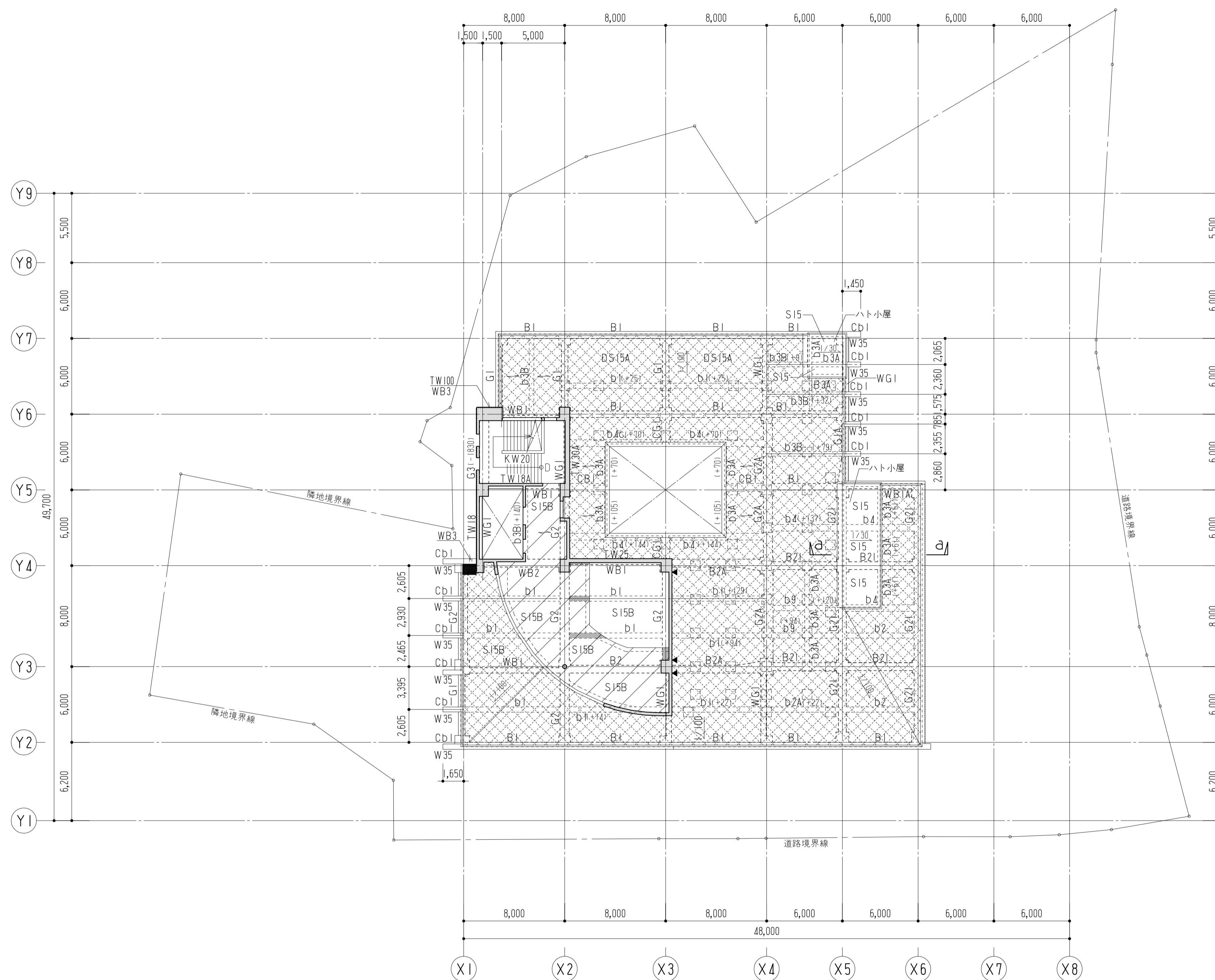
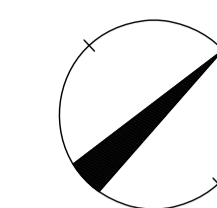
無印	: SL=FL3FL-5
	: SL=FL3FL-160
	: SL=FL3FL-330
	: SL=FL3FL+910
	: 1/100%配スラブ
	: 増設スラブ
 - スラブ短辺方向はY方向とする。
—印は、スラブ短辺方向を示す。
 - 印は増打ちコンクリートを示す。
 - 内数値は、FLからの高さ(m)を示す。



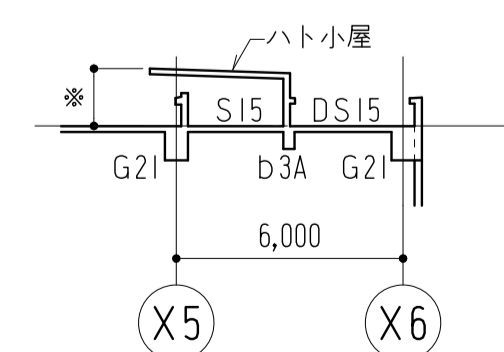
4階梁伏図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)

- 共通事項
- 特記なき限り下記とする。
1. 壁はW18とする。
 2. スラブはDS15とする。
 3. ▼印は構造スリットを示す。
 4. 梁天端レベルは下記とする。
大 梁：FL-10
小 梁：梁天端-スラブ天端
(***)：FLからの高さ
 5. スラブ天端レベル

無印	: SL=FL-5
	: SL=FL-60
	: SL=FL-100
	: 1/100増設スラブ
 6. スラブ短辺方向はY方向 ↓とする。
—印は、スラブ短辺方向を示す。
 7. 印は増打ちコンクリートを示す。
 8. (L)内数値は、FLからの高さ(m)を示す。

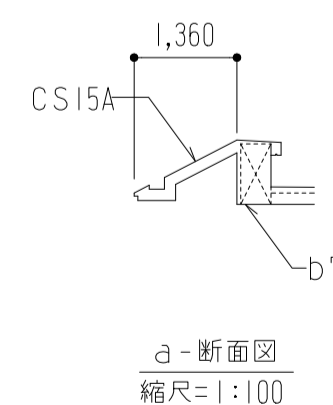
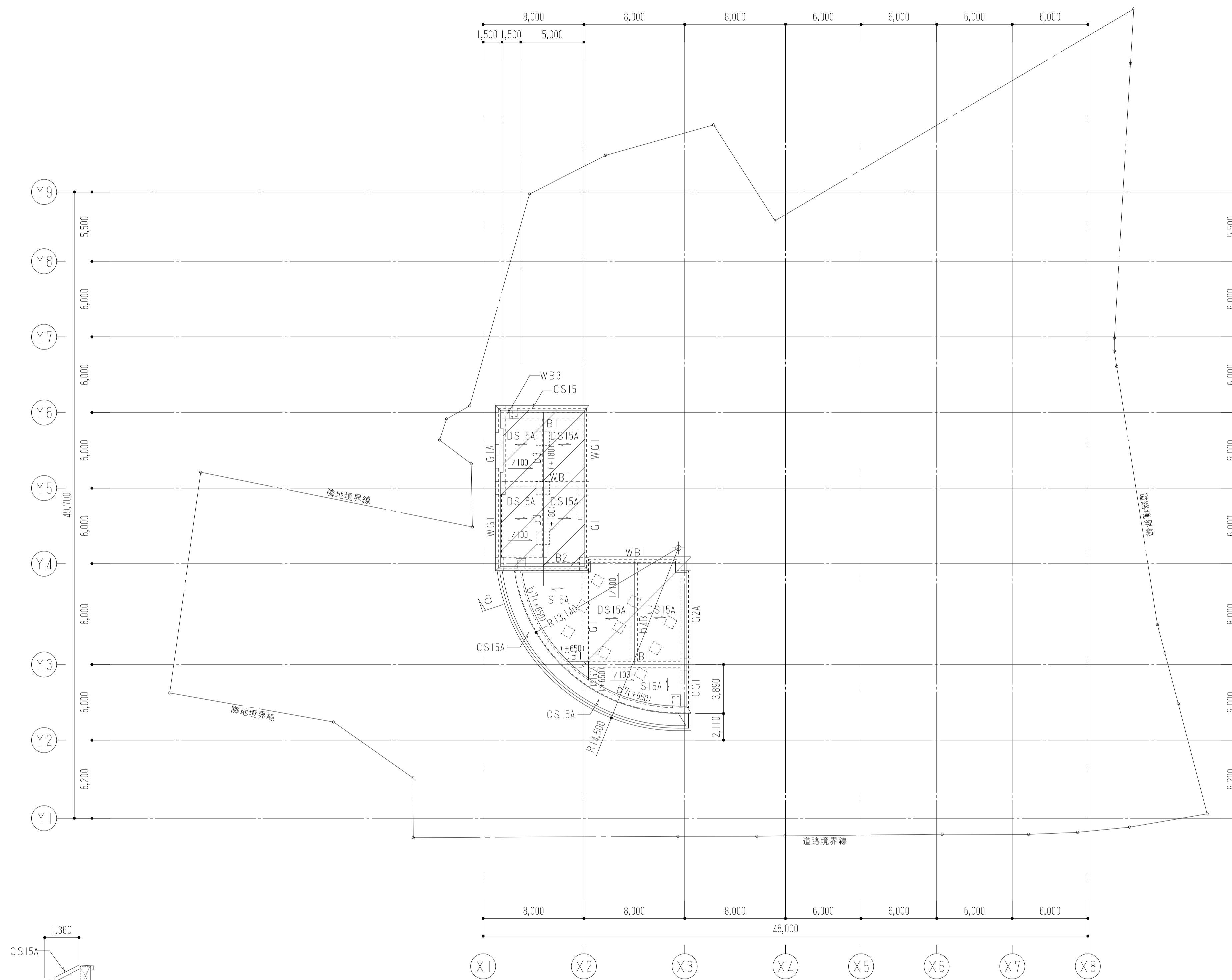
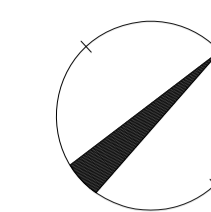


5階梁伏図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)



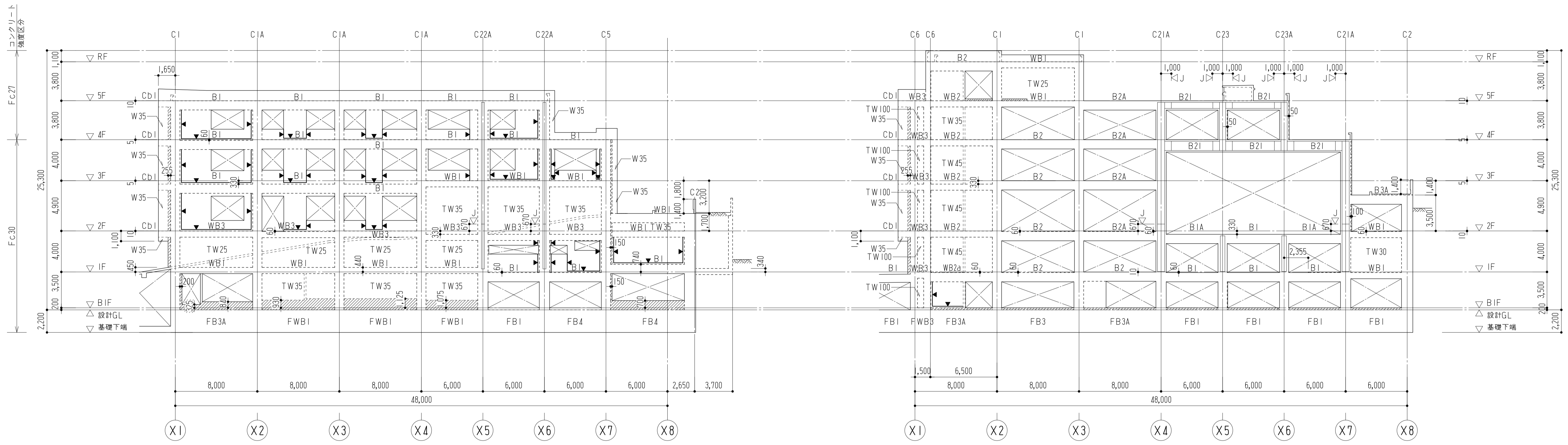
a-a断面図
注記) *寸法は意匠図による

- 共通事項
- 特記なき限り下記とする。
1. 壁はW18とする。
 2. スラブはDS15とする。
 3. ▼印は構造スリットを示す。
 4. 梁天端レベルは下記とする。
大 梁 : FL-10
小 梁 : 梁天端-スラブ天端
(***) : FLからの高さ
 5. スラブ天端レベル
無印 : SL=FL-10
斜線 : SL=FL+140
点線 : 勾配スラブ
 6. スラブ短辺方向はY方向↑とする。
→印は、スラブ短辺方向を示す。
 7. 斜線印は増打ちコンクリートを示す。
 8. (L)内数値は、FLからの高さ(m)を示す。
 9. □印は、設備架台基礎を示す。



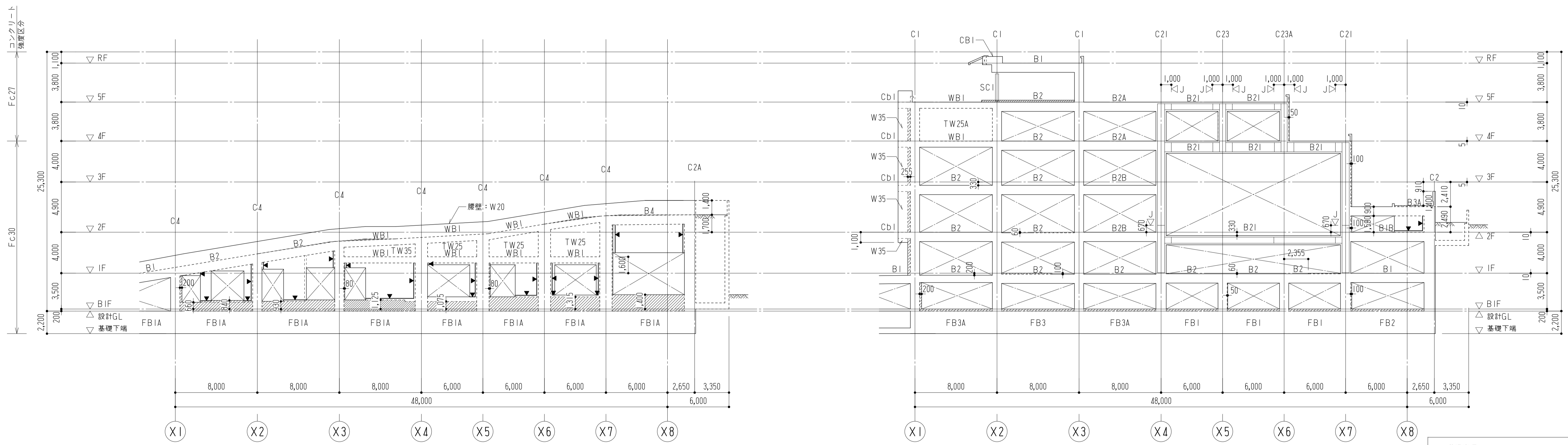
屋根伏図 縮尺=1:200 (A1) 1:400 (A3)

- 共通事項
- 特記なき限り下記とする。
1. 壁はW18とする。
 2. スラブはDS15とする。
 3. ▼印は構造スリットを示す。
 4. 梁天端レベルは下記とする。
大 梁 : FL±0
小 梁 : 梁天端=スラブ天端
(***) : FLからの高さ
 5. スラブ天端レベル
無印 : SL=FL+80~±0
斜線 : SL=FL+210~+150
 6. スラブ短辺方向はY方向↓とする。
→印は、スラブ短辺方向を示す。
 7. 斜線印は増打ちコンクリートを示す。
 8. ⊕印内数値は、FLからの高さ(m)を示す。
 9. □印は、設備架台基礎を示す。



Y2 通り軸組図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)

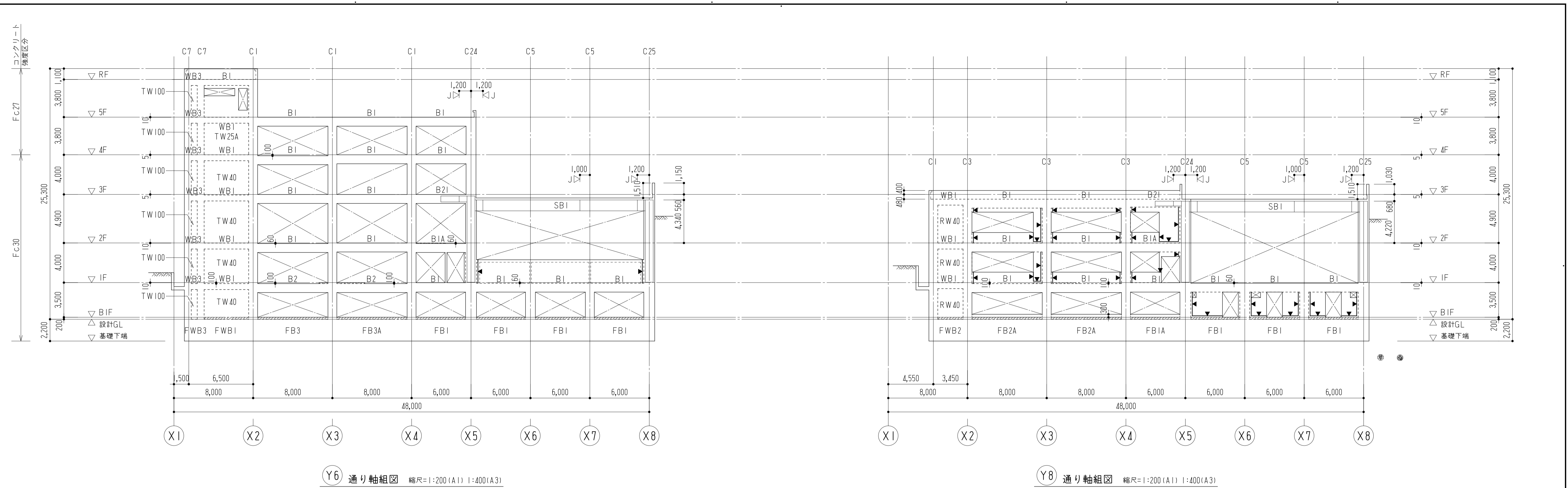
Y4 通り軸組図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)



Y1 通り軸組図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)

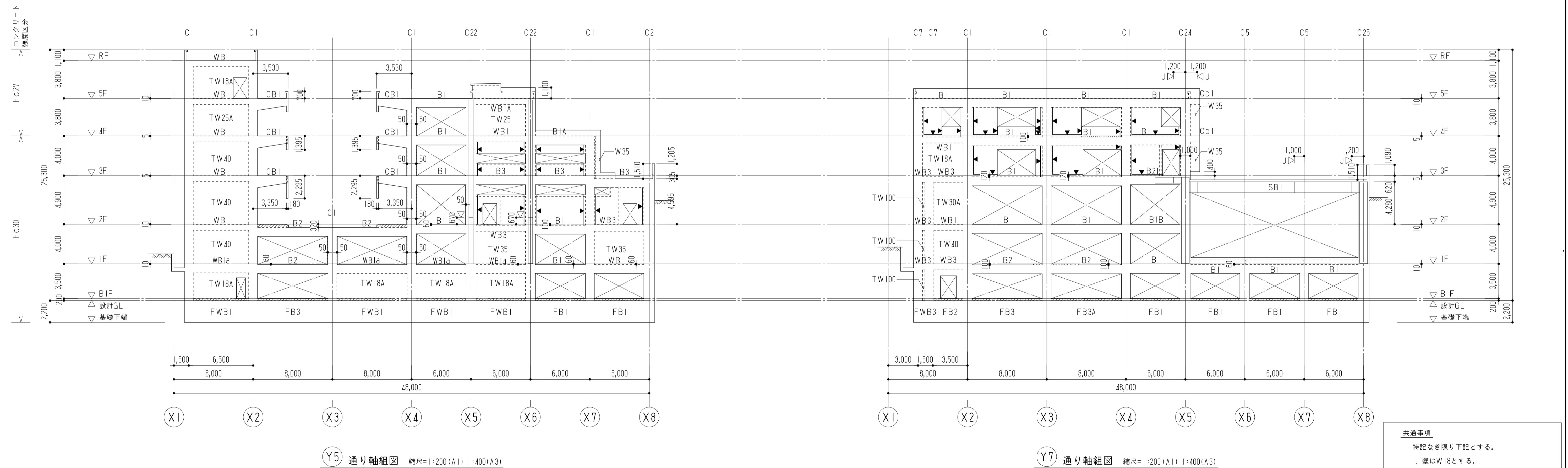
Y3 通り軸組図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)

- 共通事項
 特記なき限り下記とする。
 1. 壁はW18とする。
 2. ▼印は構造スリットを示す。
 3. 斜線印は増打ちコンクリートを示す。
 4. ◁▷印はJOINT位置を示す。



Y6 通り軸組図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)

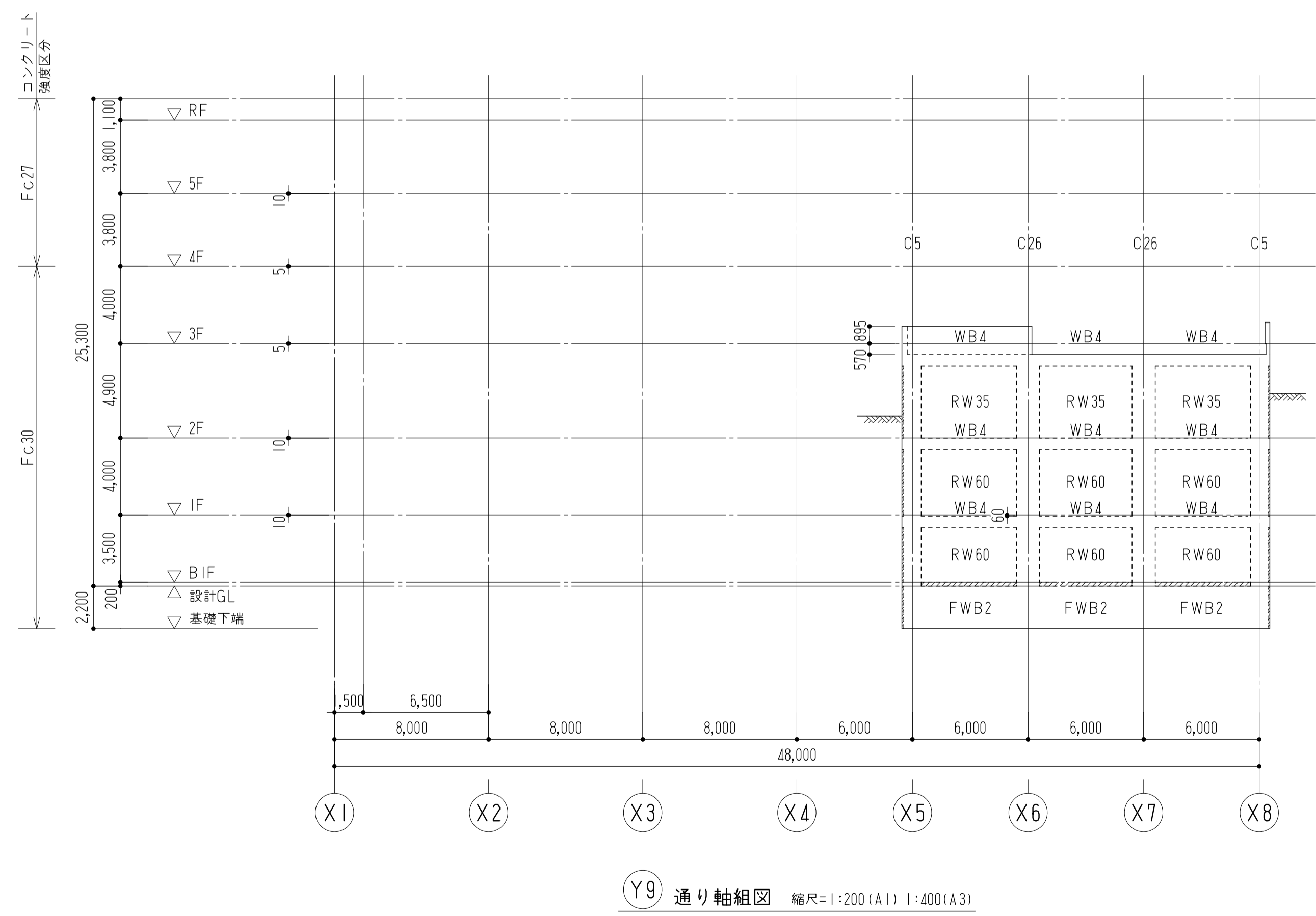
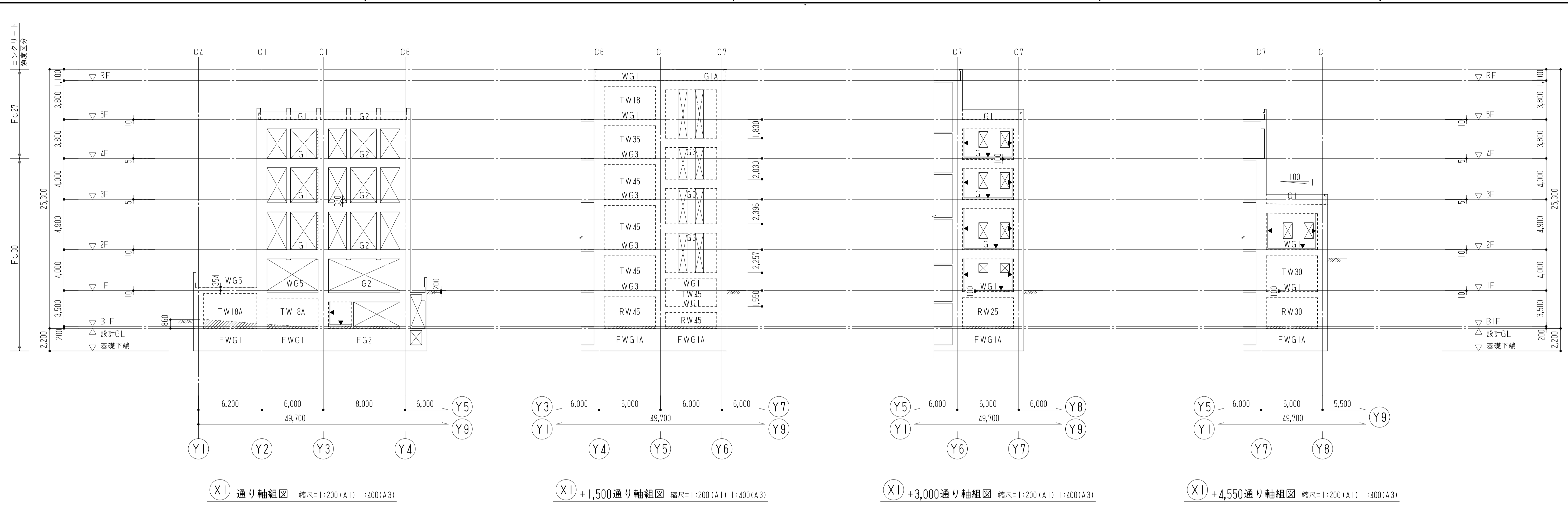
Y8 通り軸組図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)



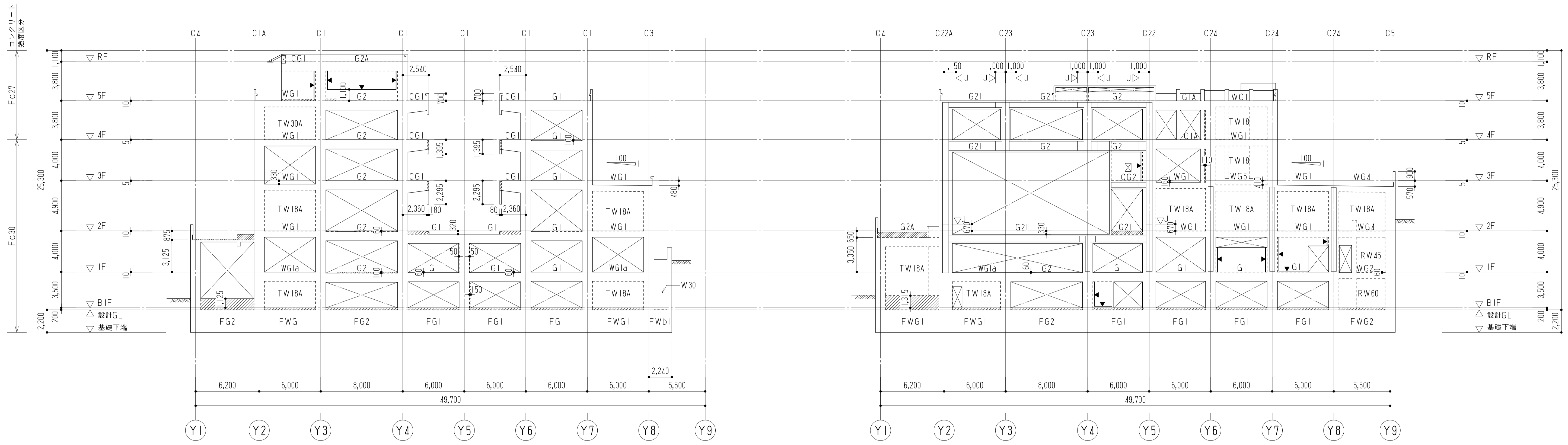
Y5 通り軸組図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)

Y7 通り軸組図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)

- 共通事項
- 特記なき限り下記とする。
 1. 壁はW18とする。
 2. ▼印は構造スリットを示す。
 3. 印は増打ちコンクリートを示す。
 4. $\triangleleft J$印はJOINT位置を示す。

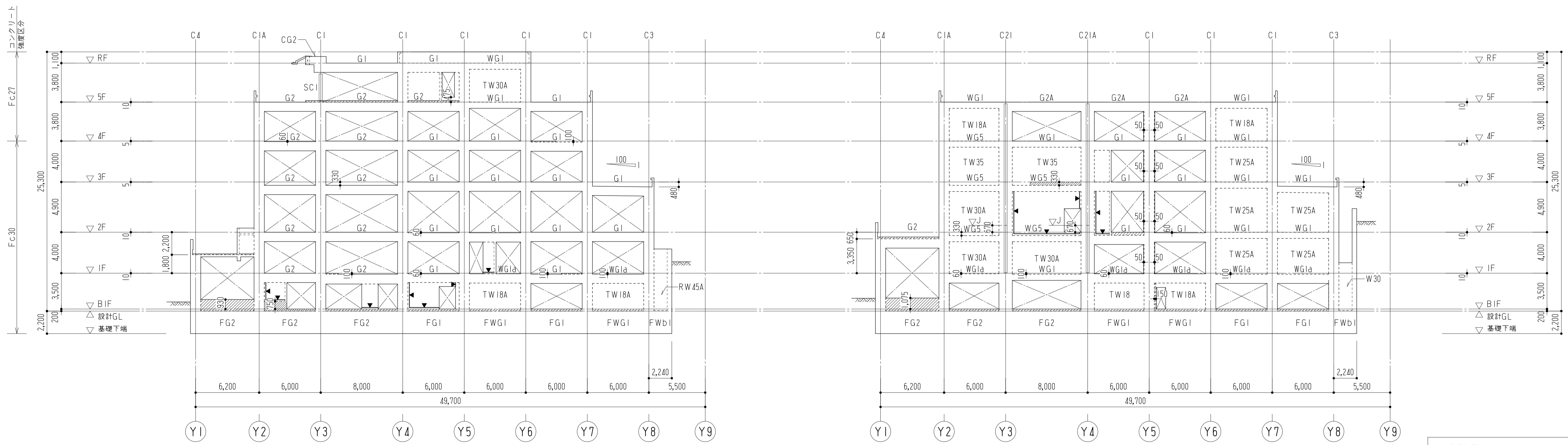


共通事項
 特記なき限り下記とする。
 1. 壁はW18とする。
 2. ▼印は構造スリットを示す。
 3. 印は増打ちコンクリートを示す。
 4. KJ印はJOINT位置を示す。



(X3) 通り軸組図 縮尺=1:200 (A1) 1:400 (A3)

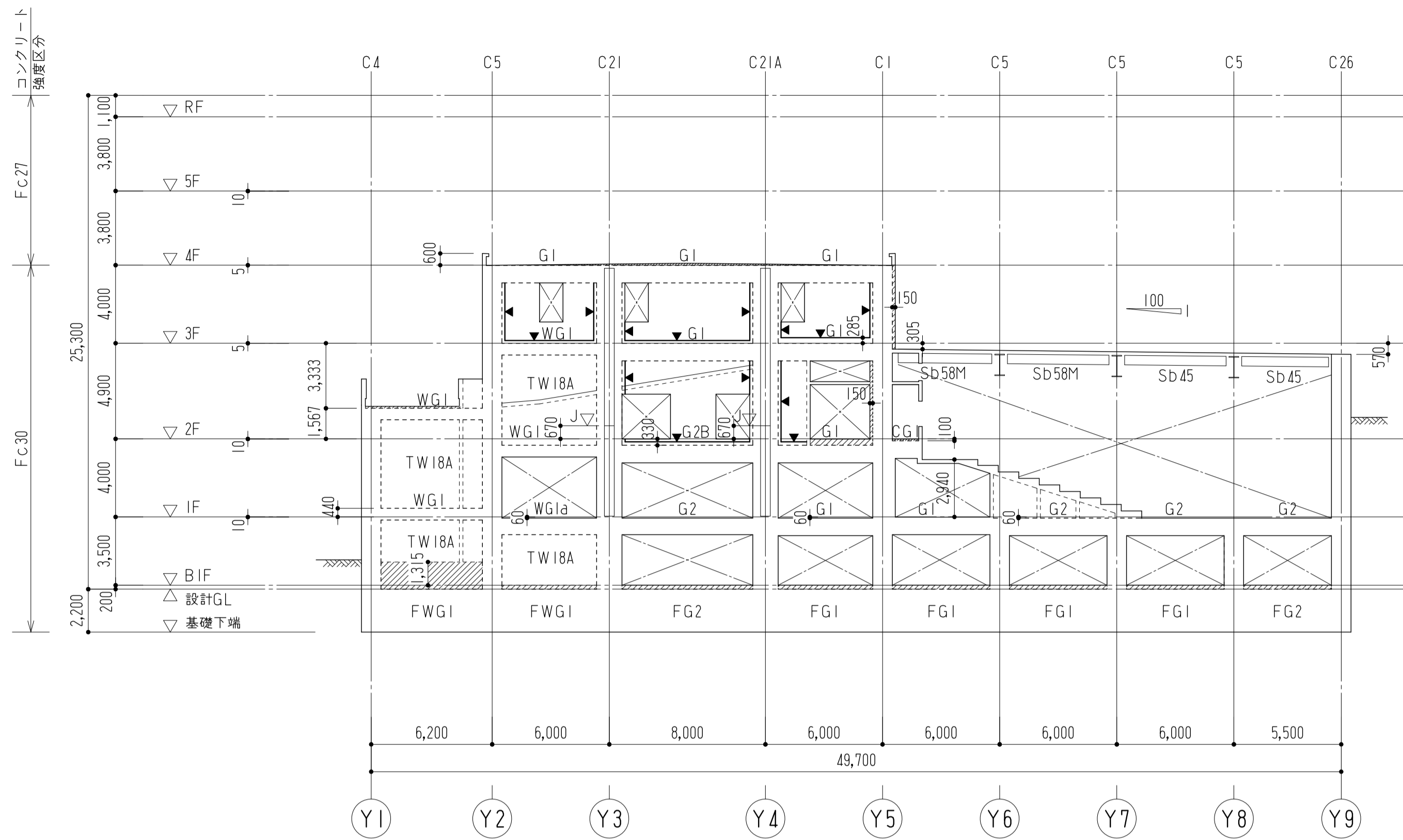
(X5) 通り軸組図 縮尺=1:200 (A1) 1:400 (A3)



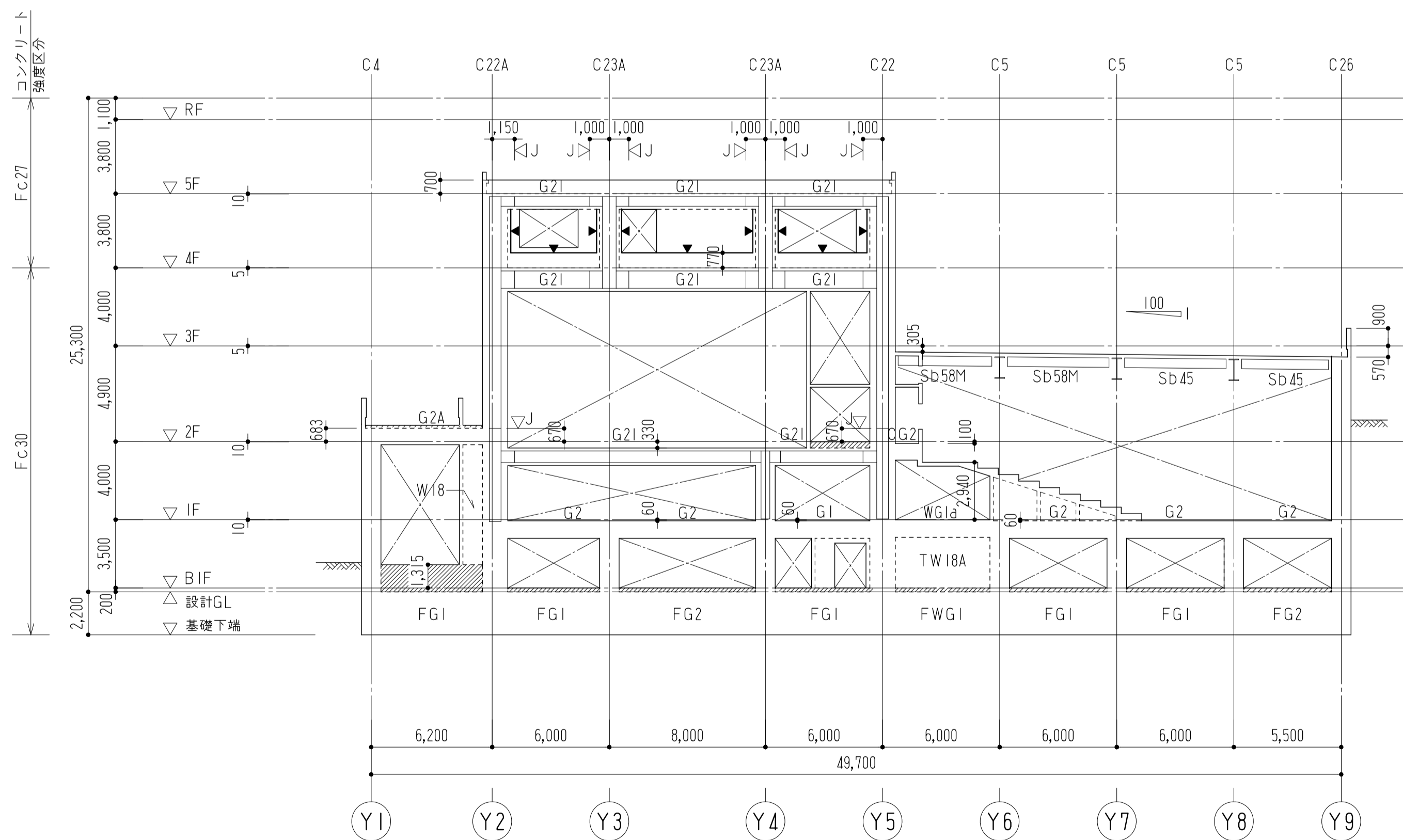
(X2) 通り軸組図 縮尺=1:200 (A1) 1:400 (A3)

(X4) 通り軸組図 縮尺=1:200 (A1) 1:400 (A3)

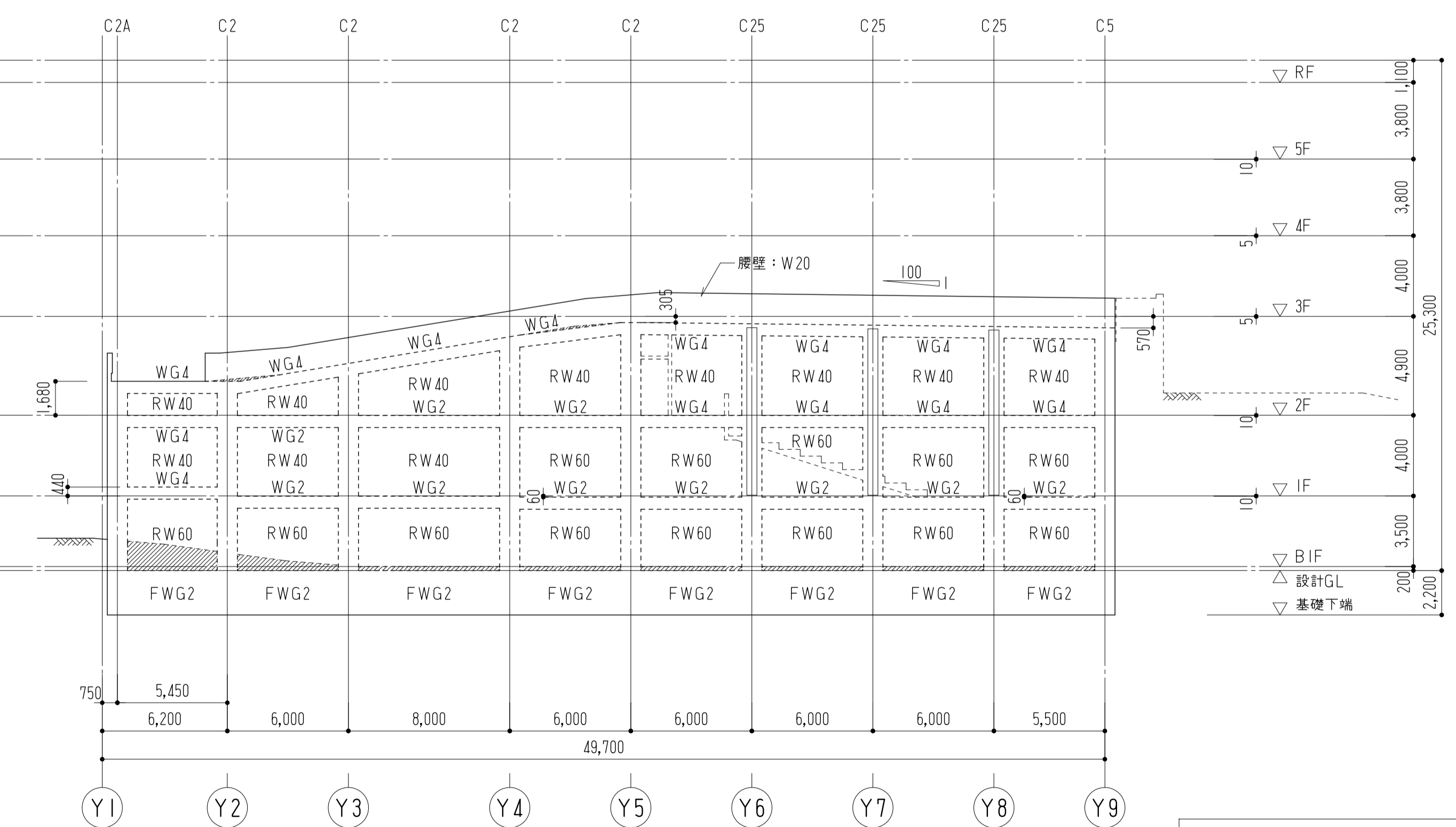
- 共通事項
 特記なき限り下記とする。
 1. 壁はW18とする。
 2. ▼印は構造スリットを示す。
 3. 印は増打ちコンクリートを示す。
 4. KJ印はJOINT位置を示す。



(X7) 通り軸組図 縮尺=1:200 (A1) 1:400 (A3)



(X6) 通り軸組図 縮尺=1:200 (A1) 1:400 (A3)



(X8) 通り軸組図 縮尺=1:200 (A1) 1:400 (A3)

- 共通事項
- 特記なき限り下記とする。
 1. 壁はW18とする。
 2. ▼印は構造スリットを示す。
 3. 斜線印は増打ちコンクリートを示す。
 4. KJ印はJOINT位置を示す。

共通事項) 特記なき限り 1. 鉄骨材質 ○印: SM490A 無印: SS400 2. 鉄筋材質 D29...SD390 D25...SD345 D13...SD295A 3. 図中の数字は、主筋の並び本数を示す。 4. パネルゾーンのHOOPは□-D13@100とする。 5. 打増し形状寸法は建築図による。 補強要領はS-10図による。

柱断面表 (1) 縮尺=1:30

階	Fc	符 号	C1 (C1A)	C2	C2A	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	
5	27	断 面											
		鉄 骨	X Y	— —						— —	— —		
		主 筋		22-D25						14-D25	14-D25		
		HOOP	タイプ	□ - D13@100	A					□ - D13@100	□ - D13@100	A	
		T.HOOP	タイプ	—						—	—		
備 考													
4	27	断 面											
		鉄 骨	X Y	— —						— —	— —		
		主 筋		28-D25						20-D25	20-D25		
		HOOP	タイプ	□ - D13@100	A					□ - D13@100	□ - D13@100	A	
		T.HOOP	タイプ	—						—	—		
備 考													
3	30	断 面											
		鉄 骨	X Y	— —						— —	— —		
		主 筋		28-D29					20-D29	20-D29	20-D29		
		HOOP	タイプ	□ - D13@100	A				□ - D13@100	□ - D13@100	□ - D13@100	A	
		T.HOOP	タイプ	(X: 1-D13@100) G	—				—	—	—		
備 考													
2	30	断 面	同上						同上	同上			
		鉄 骨	X Y	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —		
		主 筋		20-D29	24-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29				
		HOOP	タイプ	□ - D13@100	□ - D13@100	□ - D13@100	□ - D13@100	□ - D13@100	□ - D13@100				
		T.HOOP	タイプ	—	—	—	—	—	—				
備 考													

共通事項) 特記なき限り 1. 鉄骨材質 ○印: SM490A 無印: SS400 2. 鉄筋材質 D29...SD390 D25...SD345 D13...SD295A 3. 図中の数字は、主筋の並び本数を示す。 4. パネルゾーンのHOOPは□-D13@100とする。 5. 打増し形状寸法は建築図による。 補強要領はS-10図による。

柱断面表 (2) 縮尺=1:30

階	Fc	符 号	C1 (C1A)	C2	C2A	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9		
I	30	断 面												
		鉄 骨	X Y	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —			
		主 筋		28-D29	20-D29	24-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29		
		HOOP タイプ		□ - D13@100 A	□ - D13@100 A	□ - D13@100 A	□ - D13@100 A	□ - D13@100 A	□ - D13@100 A	□ - D13@100 A	□ - D13@100 A	□ - D13@100 A		
		T.HOOP タイプ		—	—	—	— Y : 2-D13@100 G	—	—	—	—	— Y : 1-D13@100 G		
備 考														
BI	30	断 面	同上		同上		同上		同上					
		鉄 骨	X Y	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	
		主 筋			20-D29		20-D29		20-D29		20-D29	12-D25	12-D25 + 2-D16	
		HOOP タイプ			□ - D13@100 A		□ - D13@100 A		□ - D13@100 A		□ - D13@100 A	□ - D13@100 A	□ - D13@100 A	
		T.HOOP タイプ			X : 1-D13@100 G								— Y : 2-D13@100 F	
備 考														

共通事項) 特記なき限り 1. 鉄骨材質 ○印: SM490A, STK490 2. 鉄筋材質 D29...SD390 D25...SD345 D10~D16...SD295A 3. 図中の数字は、主筋の並び本数を示す。 4. パネルゾーン内のHOOBは□-D13@100とする。 5. 打増し形状寸法は建築図による。 補強要領はS-10図による。

柱断面表 (3) 縮尺=1:30

階	Fc	符号	C21	C21A	C22,C22A	C23,C23A	C24	C25	C26	SC1	鉄骨柱脚詳細図 縮尺=1:30							
5	27	断面	() 内はC22Aを示す。															
		鉄骨											X		Y		○ - 318.5×10.3	
		主筋											—		—		—	
		HOOB											タイプ		—		—	
		T.HOOB											タイプ		—		—	
備考	—		—		—		ベースプレート	B,R-19		アンカーボルト	4-M24 L=600 (SS400)							
4	27	断面	() 内はC22Aを示す。															
		鉄骨											X		Y		—	
		主筋											—		—		—	
		HOOB											タイプ		—		—	
		T.HOOB											タイプ		—		—	
備考	—		—		—		ベースプレート	B,R-19		アンカーボルト	4-M24 L=600 (SS400)							
3	30	断面	() 内はC22Aを示す。															
		鉄骨											X		Y		—	
		主筋											—		—		—	
		HOOB											タイプ		—		—	
		T.HOOB											タイプ		—		—	
備考	—		—		—		ベースプレート	B,R-19		アンカーボルト	4-M24 L=600 (SS400)							
2	30	断面	() 内はC22Aを示す。															
		鉄骨											X		Y		—	
		主筋											—		—		—	
		HOOB											タイプ		—		—	
		T.HOOB											タイプ		—		—	
備考	—		—		—		ベースプレート	B,R-28		アンカーボルト	4-M20 L=400 (ABR400) ダブルナット							

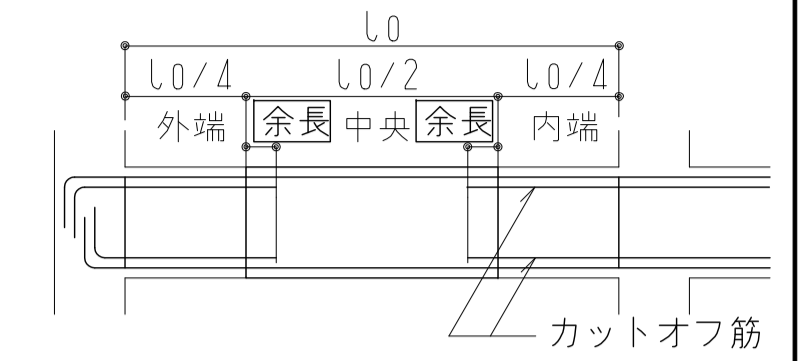
共通事項) 特記なき限り 1. 鉄骨材質 ○印: SM490A, STK490 2. 鉄筋材質 D29...SD390 D25...SD345 D10~D16...SD295A 3. 図中の数字は、主筋の並び本数を示す。 4. パネルゾーンのHOOPは□-D13@100とする。 5. 打増し形状寸法は建築図による。 補強要領はS-10図による。

柱断面表 (4) 縮尺=1:30

階	Fc	符号	C21	C21A	C22,C22A	C23,C23A	C24	C25	C26	SC1	
30	I	柱頭									
		鉄骨	X: HY-600x300x16x22 Y: —	X: HY-600x300x16x22 Y: —	X: HY-600x300x16x22 Y: —	X: HY-600x300x16x22 Y: —	X: BH-800x400x28x36 Y: —	X: BH-800x400x28x36 Y: —	X: — Y: —	X: — Y: —	
		主筋	20-D29+2-D16	20-D29+2-D16	24-D29+2-D16	20-D29+2-D16	20-D29+2-D16	20-D29+2-D16	20-D29+2-D16	20-D29	
		HOOP	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	
		T.HOOP	タイプ	タイプ	タイプ	タイプ	タイプ	タイプ	タイプ	タイプ	
備考											
30	I	柱脚									
		鉄骨	X: — Y: —	X: — Y: —	X: — Y: —	X: — Y: —	X: — Y: —	X: — Y: —	X: — Y: —	X: — Y: —	
		主筋	20-D29+2-D16	20-D29+2-D16	28-D29+2-D16	20-D29+2-D16	20-D29+2-D16	20-D29+2-D16	20-D29+2-D16	20-D29	
		HOOP	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	
		T.HOOP	タイプ	タイプ	タイプ	タイプ	タイプ	タイプ	タイプ	タイプ	
備考											
BI	30	断面									
		鉄骨	X: — Y: —	X: — Y: —	X: — Y: —	X: — Y: —	X: — Y: —	X: — Y: —	X: — Y: —	X: — Y: —	
		主筋	20-D29	20-D29	28-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	
		HOOP	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	タイプ □-D13@100 A	
		T.HOOP	タイプ X: 1-D13@100 G — -	タイプ X: 1-D13@100 G — -	タイプ X: 1-D13@100 G — -	タイプ X: 1-D13@100 G — -	タイプ X: 1-D13@100 G — -	タイプ X: 1-D13@100 G — -	タイプ X: 1-D13@100 G — -	タイプ X: 1-D13@100 G — -	
備考											

階	Fc	符号	B1	B1A, (B1B)	B2	B2A, (B2B)	B3	B3A	B4			
R		断面	全断面	全断面		全断面		全断面				
			▽RFL									
			上端筋	5-D25		5-D25						
			下端筋	4-D25		5-D25						
			ST, タイプ	□-D13@200	A	□-D13@200	A					
27	5	断面	全断面	全断面		他端・中央	(X4)通り端					
▽5FL												
上端筋			4-D29		5-D29	5-D29	5-D29	7-D29				
下端筋			4-D29		5-D29	5-D29	5-D29	5-D29				
ST, タイプ			□-D13@200	A	□-D13@200	A	□-D13@100	A				
30	4	断面	SRC柱取付端		中央・他端	端部	中央					
▽4FL			同上					同上				
上端筋			4-D29	4-D29	4-D29	7-D29	5-D29					
下端筋			4-D29	4-D29	4-D29	5-D29	5-D29					
ST, タイプ				□-D13@150	A	□-D13@200	A					
3	3	断面	全断面		他端・中央	(X4)通り端	全断面	(X7)通り端	中央・他端	端部	中央	
▽3FL			同上		同上							
上端筋						5-D29	7-D29	7-D29	9-D29	7-D29	7-D29	5-D29
下端筋						5-D29	5-D29	5-D29	7-D29	7-D29	5-D29	5-D29
ST, タイプ						□-D13@100	A	□-D13@200	A	□-D13@100	A	□-D13@150

カットオフ筋 余長



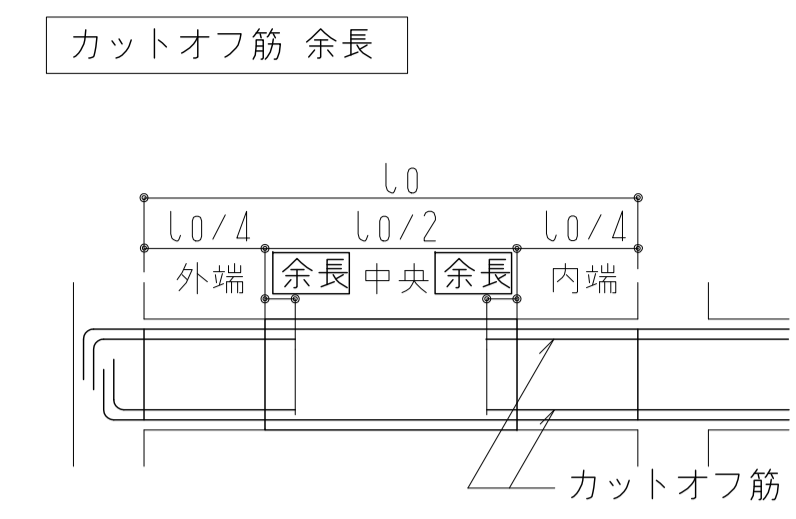
符号	余長
3B3A	40d
上記以外	15d

※ () 内はB2Bを示す。

※寸法はスロープ勾配による。

端部余長 L0/4+40d

階	Fc	符 号	B1		B1A, (B1B)		B2		B2A, (B2B)		B3	B3A	B4	
			全断面	SRC柱取付端	中央・他端	端 部	中 央	他端・中央	(X4)通り端					
2	▽2FL	断 面												
			上端筋	4-D29	4-D29	4-D29	7-D29	5-D29	5-D29	7-D29				
			下端筋	4-D29	4-D29	4-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29				
			ST, タイプ	□-D13@200	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@100	□-D13@100				
			中ST, タイプ	-	-	-	-	-	-	-				
30	▽1FL	断 面	同上											
			上端筋			8-D29	5-D29			7-D29				
			下端筋			5-D29	5-D29			5-D29				
			ST, タイプ			□-D13@200	□-D13@200			□-D13@200				
			中ST, タイプ			-	-			-				
備考			B1Aのハンチ端は、X4,X7通り端のみとする。			端部余長 L0/4+35d								



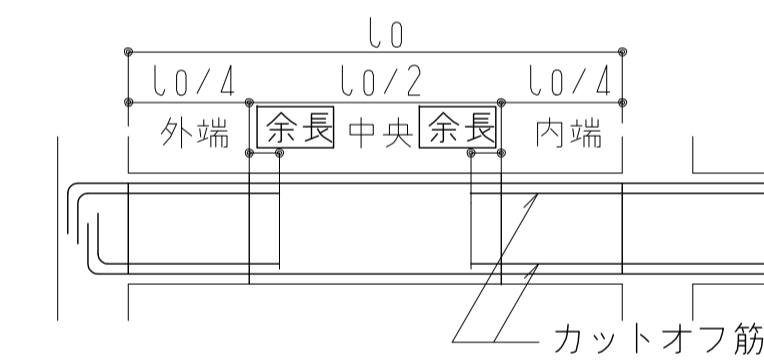
符 号	余 長
B2	35d
上記以外	15d

大梁断面表 (3) 縮尺=1:30

共通事項 特記なき限り、鉄筋材質 D29:SD390,D25:SD345,D10~D13:SD295A 2. 腹筋 4-D13, 中止め筋 D10@1,000 3. ハンチタイプはS-42図参照の事 4. ST.タイプは、片側スラブ付:B, 両側スラブ付:Cとしても可とする。

階	Fc	符 号	WB1, (WB1a)	WB2	WB3	WB4	CBI	階	Fc	符 号	WB1, (WB1a)	WB2, (WB2a)	WB3	WB4	CBI								
R	30	▽RFL	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	2	▽2FL	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面								
			断面																				
			上端筋	3-D25		5-D25					5-D25		3-D29	4-D29		5-D29	6-D29						
			下端筋	3-D25		5-D25					3-D25	A	3-D29	4-D29		5-D29	6-D29						
			ST. タイプ	□-D13@200	A	□-D13@150	A				□-D13@200	-	□-D13@200	□-D13@200		□-D13@150	□-D13@100	A					
中ST. タイプ	-	-	1-D13@150	G	-	-	-	-	1-D13@150	G	-	-											
ハンチタイプ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
備考	腹筋: 2-D13		腹筋: 2-D13		腹筋: 2-D13		腹筋: 2-D13		腹筋: 2-D13(4-D13)		腹筋: 2-D13(4-D13)		腹筋: 2-D13	腹筋: 4-D29 (定着長40d)									
5	30	▽5FL	全断面	全断面	全断面	元端	先端	全断面	1	▽1FL	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面								
			断面									同上	同上	同上									
			上端筋	3-D29	4-D29	5-D29	7-D29				5-D29					4-D29							
			下端筋	3-D29	4-D29	5-D29	5-D29				5-D29	A				4-D29							
			ST. タイプ	□-D13@200	A	□-D13@200	A				□-D13@150	A	□-D13@200	-		□-D13@200	A						
中ST. タイプ	-	-	-	-	1-D13@150	G	-	-	-	-													
ハンチタイプ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-										
備考	腹筋: 2-D13	腹筋: 2-D13	腹筋: 2-D13	腹筋: 6-D13	腹筋: 2-D13		腹筋: 2-D13		腹筋: 2-D13		腹筋: 2-D13		腹筋: 2-D13										
4	30	▽4FL	断面	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上								
			上端筋																				
			下端筋																				
			ST. タイプ																				
			中ST. タイプ																				
備考																							
3	30	▽3FL	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上								
			断面	同上	同上	同上										同上							
			上端筋				4-D29																
			下端筋				4-D29																
			ST. タイプ				□-D13@200									A							
備考				腹筋: 2-D13																			

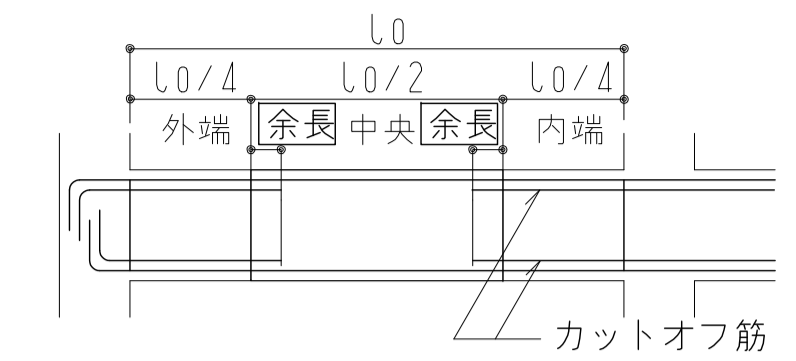
カットオフ筋 余長



符 号	余 長
特記外	15d

階	Fc	符 号	G1		G1A		G2		G2A			G3		G4		
			全断面		全断面				(Y3) 通り端	中 央		(Y4) 通り端				
R		断面														
			上端筋	5-D25		5-D25				7-D25			5-D25		5-D25	
			下端筋	4-D25		4-D25				5-D25			5-D25		5-D25	
			ST. タイプ	□-D13@200		□-D13@150				□-D13@150						
			中ST. タイプ	-		-				-						
ハンチタイプ	-		-				-									
備考																
27		断面	全断面		(Y5) 通り端	中央・他端		端部	中 央		端部	中 央		全断面		
			上端筋	4-D29		6-D29	6-D29	10-D29	6-D29	9-D29	5-D29	6-D29				
			下端筋	4-D29		4-D29	4-D29	6-D29	6-D29	5-D29	5-D29	6-D29				
			ST. タイプ	□-D13@200		□-D13@150	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100				
中ST. タイプ	-		-	-	I-D13@100	I-D13@100	-	-	-							
ハンチタイプ	-		タイプA		-		-		-							
備考					端部余長 L0/4+25d		端部余長 L0/4+40d									
5		断面	全断面		(Y5) 通り端	中央・他端		端部	中 央		端部	中 央		全断面		
			上端筋	4-D29		6-D29	6-D29	10-D29	6-D29	9-D29	5-D29	6-D29				
			下端筋	4-D29		4-D29	4-D29	6-D29	6-D29	5-D29	5-D29	6-D29				
			ST. タイプ	□-D13@200		□-D13@150	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100				
中ST. タイプ	-		-	-	I-D13@100	I-D13@100	-	-	-							
ハンチタイプ	-		タイプA		-		-		-							
備考					端部余長 L0/4+25d		端部余長 L0/4+40d									
4		断面	同上		同上		同上		同上		同上		同上			
			上端筋	4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		
			下端筋	4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		
			ST. タイプ	□-D13@200		□-D13@150		□-D13@100		□-D13@100		□-D13@100		□-D13@100		
			中ST. タイプ	-		-		I-D13@100		I-D13@100		-		-		
備考					端部余長 L0/4+25d		端部余長 L0/4+40d									
30		断面	同上		同上		同上		同上		同上		同上			
			上端筋	4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		
			下端筋	4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		
			ST. タイプ	□-D13@200		□-D13@150		□-D13@100		□-D13@100		□-D13@100		□-D13@100		
			中ST. タイプ	-		-		I-D13@100		I-D13@100		-		-		
備考					端部余長 L0/4+25d		端部余長 L0/4+40d									
3		断面	同上		同上		同上		同上		同上		同上			
			上端筋	4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		
			下端筋	4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		4-D29		
			ST. タイプ	□-D13@200		□-D13@150		□-D13@100		□-D13@100		□-D13@100		□-D13@100		
			中ST. タイプ	-		-		I-D13@100		I-D13@100		-		-		
備考					端部余長 L0/4+25d		端部余長 L0/4+40d									

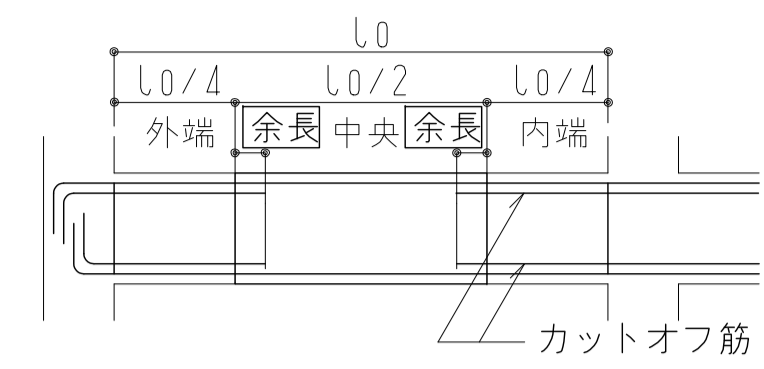
カットオフ筋 余長



符 号	余 長
5G2A	40d
5~3G2	25d
上記以外	15d

階	Fc	符 号	G1		G1A		G2		G2A,(G2B)		G3	G4	
			全断面				端 部	中 央	他 端・中 央	(Y2)通り端			
2	30	断面	▽2FL		断面		断面		断面		断面		
			全断面		断面		断面		断面		断面		
			上端筋	4-D29		10-D29		6-D29		7-D29		7-D29	
			下端筋	4-D29		6-D29		6-D29		5-D29		5-D29	
			ST. タイプ	□-D13@200		□-D13@100		□-D13@100		□-D13@100(150)		□-D13@200	
			中ST. タイプ	-		1-D13@100		-		-		-	
ハンチタイプ		-		-		-		タイプB		-			
備考				端部余長 L0/4+25d									
1	30	断面	▽1FL		同上		同上		同上		全断面		
			全断面		同上		同上		同上		全断面		
			上端筋									3-D25	
			下端筋									3-D25	
			ST. タイプ									□-D13@200	
			中ST. タイプ									-	
備考													

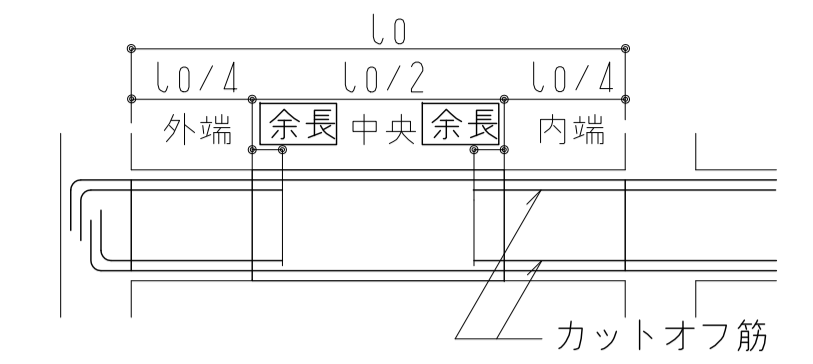
カットオフ筋 余長



符 号	余 長
2G2	25d
上記以外	15d

階	Fc	符号	WG1	WG2	WG3	WG4	WG5	階	Fc	符号	WG1	WG2	WG3	WG4	WG5					
R	27	▽RFL	全断面						2	▽2FL	全断面									
			断面																	
			上端筋	3-D25								上端筋	3-D29	4-D29	4-D29	6-D29	5-D29			
			下端筋	3-D25								下端筋	3-D29	4-D29	4-D29	6-D29	5-D29			
			ST. タイプ	□-D13@200	A							ST. タイプ	□-D13@200	A	□-D13@200	A	□-D13@100	A	□-D13@200	A
			中ST. タイプ	—	-							中ST. タイプ	—	-	—	-	—	-	2-D13@200	G,H
			ハンチタイプ	—								ハンチタイプ	—							
			備考	腹筋: 2-D13								備考	腹筋: 2-D13		腹筋: 2-D13	腹筋: 4-D29 (定着長40d)	腹筋: 2-D13			
			5FL									5FL								
			5	30	▽5FL	全断面							30	▽IFL	全断面					
断面																				
上端筋	3-D29							上端筋												
下端筋	3-D29							下端筋												
ST. タイプ	□-D13@200	A						ST. タイプ												
中ST. タイプ	—	-						中ST. タイプ												
ハンチタイプ	—							ハンチタイプ												
備考	腹筋: 2-D13							備考												
4FL								4FL												
4	30	▽4FL	全断面							30	▽IFL	全断面								
断面			同上																	
上端筋				4-D29	5-D29			上端筋												
下端筋				4-D29	5-D29			下端筋												
ST. タイプ				□-D13@200	A	□-D13@200	A	ST. タイプ												
中ST. タイプ				—	-	2-D13@200	G,H	中ST. タイプ												
ハンチタイプ				—		—		ハンチタイプ												
備考				腹筋: 2-D13		腹筋: 2-D13		備考												
3FL								3FL												
3			30	▽3FL	全断面							30	▽IFL	全断面						
断面	同上	同上				同上		断面	同上											
上端筋					4-D29			上端筋												
下端筋					4-D29			下端筋												
ST. タイプ					□-D13@200	A		ST. タイプ												
中ST. タイプ					—	-		中ST. タイプ												
ハンチタイプ					—			ハンチタイプ												
備考								備考												

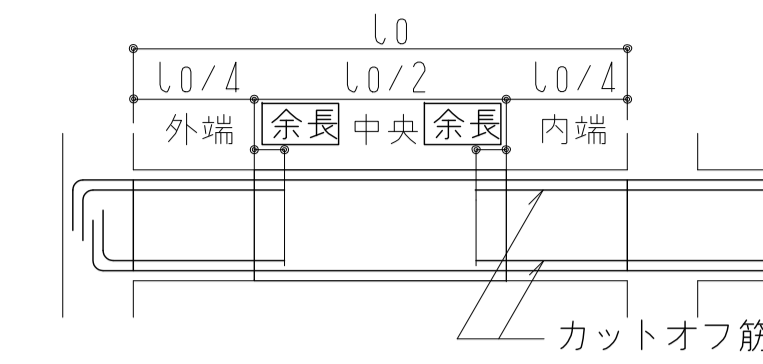
カットオフ筋 余長



符号	余長
特記外	15d

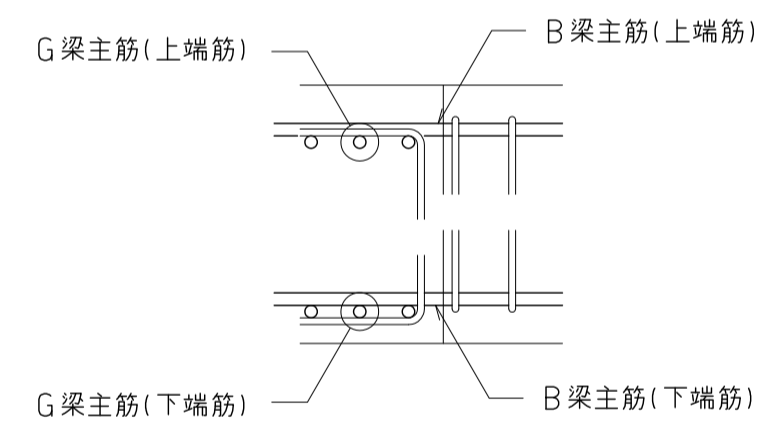
階	Fc	符号	CG1		CG2		階	Fc	符号	CG1		CG2			
			全断面		全断面					元端	先端	元端	先端		
R	27	▽RFL					2	▽2FL	断面						
			上端筋	7-D25		5-D25				上端筋	7-D29	5-D29	8-D29	6-D29	
			下端筋	5-D25		3-D25				下端筋	5-D29	5-D29	4-D29	4-D29	
			ST,タイプ	□-D13@150		□-D13@200				ST,タイプ	□-D13@200		□-D13@200		
			中ST,タイプ	-		-				中ST,タイプ	-		2-D13@200		
ハンチタイプ	-		-		ハンチタイプ	-		-							
備考	-		腹筋:2-D13		備考	腹筋:6-D13	腹筋:2-D13	腹筋:6-D13	腹筋:2-D13						
5	27	▽5FL			同上		30	▽IFL	断面	同上		同上			
			上端筋	10-D29	7-D29	上端筋									
			下端筋	5-D29	5-D29	下端筋									
			ST,タイプ	□-D13@150		-				ST,タイプ					
			中ST,タイプ	-		-				中ST,タイプ					
備考	腹筋:6-D13	腹筋:2-D13			備考										
4	30	▽4FL			同上		30	▽3FL	断面	同上		同上			
			上端筋	10-D29	7-D29	上端筋				6-D29	4-D29				
			下端筋	5-D29	5-D29	下端筋				4-D29	4-D29				
			ST,タイプ	□-D13@150		-				ST,タイプ	□-D13@150		-		
			中ST,タイプ	1-D13@150		-				中ST,タイプ	-		-		
備考	腹筋:6-D13	腹筋:2-D13			備考										
3	30	▽3FL			同上		30	▽2FL	断面						
			上端筋	6-D29		4-D29				上端筋	7-D29	5-D29	8-D29	6-D29	
			下端筋	4-D29		4-D29				下端筋	5-D29	5-D29	4-D29	4-D29	
			ST,タイプ	□-D13@150		-				ST,タイプ	□-D13@200		□-D13@200		
			中ST,タイプ	-		-				中ST,タイプ	-		2-D13@200		
備考	-		タイプA		備考	腹筋:6-D13	腹筋:2-D13	腹筋:6-D13	腹筋:2-D13						

カットオフ筋 余長



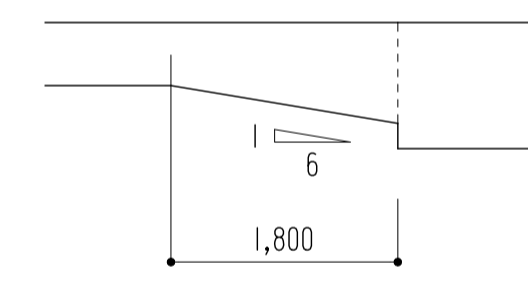
符号	余長
特記外	15d

大梁主筋位置図

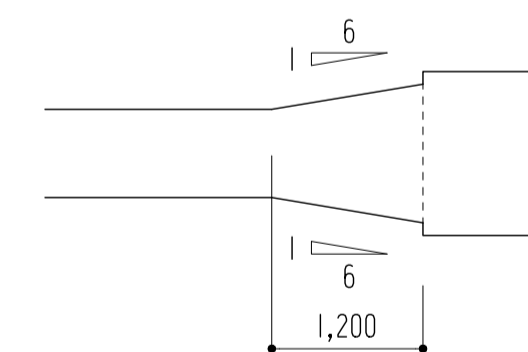


ハンチタイプ

タイプA



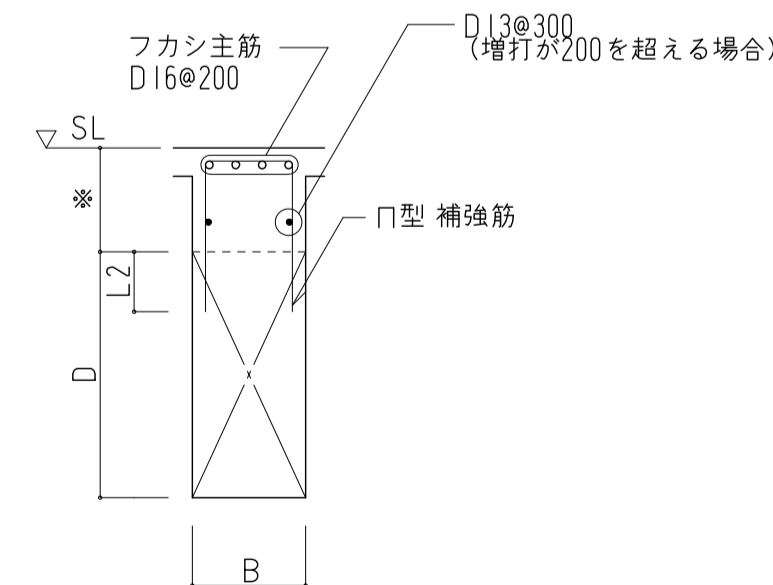
タイプB



ハンチ起点のスターラップはダブルとする。

大梁増打配筋要領

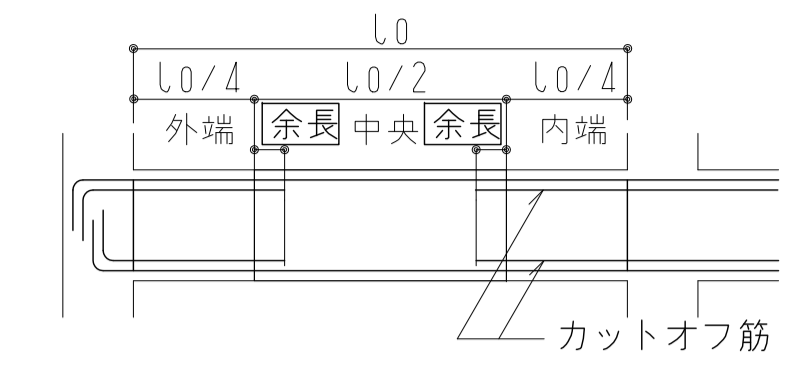
注) 増打ち部厚さが200以下の場合、S-10図参照の事



□型補強筋は、梁スターラップと同径・同ピッチとする。

階	Fc	符号	B2I	SBI	G2I	階	Fc	符号	B2I	SBI	G2I
R	27	▽RFL				2	30	▽2FL	全断面 補助筋: D16 900 600		全断面 補助筋: D16 900 600
		断面						断面			
		鉄骨						鉄骨	(HY)-600×300×16×25	(HY)-600×300×16×25	
		上端筋						上端筋	4-D29+1-D16	4-D29+1-D16	
		下端筋						下端筋	4-D29+1-D16	4-D29+1-D16	
ST. タイプ				ST. タイプ	□-D13@200	□-D13@200					
中ST. タイプ				中ST. タイプ							
備考				備考							
5	27	▽5FL	全断面 補助筋: D16 900 600		全断面 補助筋: D16 900 600	1	30	▽IFL			
		断面			断面						
		鉄骨	(HY)-600×300×16×25		(HY)-600×300×16×28			鉄骨			
		上端筋	4-D29+1-D16		4-D29+1-D16			上端筋			
		下端筋	4-D29+1-D16		4-D29+1-D16			下端筋			
ST. タイプ	□-D13@200	A	□-D13@200	ST. タイプ							
中ST. タイプ		-		中ST. タイプ							
備考		端部断面は(BH)-600×300×16×25としても可。		備考							
4	30	▽4FL	同上		全断面 補助筋: D16 900 600	3	30	B2I (3階) RC→SRC切替え要領図 縮尺=1:30			
		断面			断面						
		鉄骨			(HY)-600×300×16×32			鉄骨			
		上端筋			4-D29+1-D16			上端筋			
		下端筋			4-D29+1-D16			下端筋			
ST. タイプ			□-D13@200	ST. タイプ							
中ST. タイプ				中ST. タイプ							
備考				備考							
3	30	▽3FL	他端・中央 (X5) 通り端 補助筋: D16 900 600	全断面 1,100 400		3	30	B2I (3階) RC→SRC切替え要領図 縮尺=1:30			
		断面			断面						
		鉄骨	(HY)-600×300×16×25	(全断面) (BH)-1,100×400×22×40	鉄骨						
		上端筋	6-D29	4-D29+1-D16	上端筋						
		下端筋	6-D29	4-D29+1-D16	下端筋						
ST. タイプ	□-D13@200	A	□-D13@200	ST. タイプ							
中ST. タイプ		-		中ST. タイプ							
備考				備考							

カットオフ筋 余長



符号	余長
特記外	15d

小梁断面表 縮尺=1:30 共通事項 特記なき限り 1. 鉄骨材質 主筋: D25, D22, ... SD345 ST: D10~D16, ... SD295A 3. ST, タイプは片側スラブ付: B, 両側スラブ付: Cとしても可とする。 2. 腹筋 2-D13, 中止め筋 D10@1,000 4. 鉄骨材質は、無印: SS400 ○印: SM490Aとする。

符 号	b1 (b1A) <b1B>			b2		b2A		b3			b3A		b3B		b4 (b4C)		b4A	b4B	
	他 端	中 央	連続端	全断面	b1梁端	中央・他端	他 端	中 央	連続端	全断面	他 端	中 央	他端・中央	連続端	全断面	端 部	中 央		
断 面																			
上 端 筋	4-D22	4-D22	6-D22	4-D22	6-D22	4-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D25	7-D25	5-D25	5-D25	5-D25		
下 端 筋	4-D22	6-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	7-D25		
ST, タイプ	□-D13@200			□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200			□-D13@200	□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200		
中ST, タイプ	-			-	-	-	-			-	-		-		-	-	-		
備 考																			
符 号	b5		b6		b7			b8		b9		b10		Cb1	Sb58M	Sb45	b11		
	他 端	中 央	全断面	他 端	中 央	連続端	他 端	中 央	他端・中央	連続端	端 部	中 央	全断面	全断面	全断面	中 央			
断 面																			
鉄 骨	-		-	-			-		-		-		-	H - 588×300×12×20	H - 450×200×9×14	-			
上 端 筋	4-D25	4-D25	3-D25	4-D22	4-D22	8-D22	3-D22	3-D22	4-D22	6-D22	6-D25	6-D25	3-D22	-	-	3-D19			
下 端 筋	4-D25	6-D25	3-D25	4-D22	6-D22	4-D22	5-D22	5-D22	4-D22	4-D22	6-D25	8-D25	3-D22	-	-	3-D19			
ST, タイプ	□-D13@200		□-D13@200	□-D13@100			□-D13@200		□-D13@200		□-D13@150		□-D13@200	-	-	□-D10@200			
中ST, タイプ	-		-	-			-		-		-		-	-	-	-			
備 考	腹筋: 4-D13		腹筋: 4-D13	腹筋: 4-D16 (定着長40d)			腹筋: 4-D13		腹筋: 4-D13		腹筋: 4-D13								

特記なき限り下記による。

鉄骨梁断面表

- 鉄骨材質は、無印: SS400 ○印: SM490Aとする。
- H, T, BはF10TもしくはS10T (但し、屋外部は溶融亜鉛メッキ品(F8T)とする。)
- S, R及びG, Rは、母材と同材質とする。
- スタッドボルトは、スラブが取付く梁に設置する。

部 材	継手タイプ	継 手						備 考
		フランジ			ウェブ			
		外) S, R	内) S, R	HTB	S, R (G, R)	HTB		
(HY) - 600×300×16×25	A	S, (R)-19	2S, (R)-19	9×2-M20	2S, (R)-12	6×2-M20	B21	
(HY) - 600×300×16×28	A	S, (R)-19	2S, (R)-22	9×2-M20	2S, (R)-12	6×2-M20	G21	
(HY) - 600×300×16×32	A	S, (R)-19	2S, (R)-22	9×2-M20	2S, (R)-16	6×2-M20	G21	
(BH) - 1,100×400×22×40	A	S, (R)-28	2S, (R)-28	16-M22	2S, (R)-16	14-M22	SB1	
H - 588×300×12×20	B	-	-	-	G, R - 12	6-M20	Sb58M ウェブボルト@70	
H - 450×200×9×14	B	-	-	-	G, R - 9	5-M20	Sb45 ウェブボルト@70	

特記なき限り下記による。

鉄骨柱断面表

- 鉄骨材質は、無印: SS400 ○印: SM490Aとする。
- H, T, BはF10TもしくはS10T (但し、屋外部は溶融亜鉛メッキ品(F8T)とする。)
- S, R及びG, Rは、母材と同材質とする。
- スタッドボルトは、スラブが取付く梁に設置する。

部 材	継手タイプ	継 手						備 考
		フランジ			ウェブ			
		外) S, R	内) S, R	HTB	S, R (G, R)	HTB		
(HY) - 600×300×16×22	A	S, (R)-16	2S, (R)-19	4×2-M20	2S, (R)-12	8×2-M20	C21, C21A, C22, C22A	
(BH) - 600×300×25×28	C	S, (R)-16	2S, (R)-19	4×2-M20	2S, (R)-19	4×3-M20	C23, C23A	
(BH) - 700×300×25×32	C	S, (R)-19	2S, (R)-22	4×2-M20	2S, (R)-19	6×2-M20	C23, C23A	
(BH) - 800×400×28×36	-	-	-	-	-	-	C24, C25	

鉄骨継手タイプ

タイプ

フランジ

ウェブ

外: SR - t × B × L
内: 2SRs - t × B × L

外: SR - t
内: 2SRs - t

HTB mw × nw

HTB mw × nw

ボルトピッチ及び縁端距離

注記) 鉄骨断面表の備考欄に特記がある場合を除く。

ボルト径	ボルトピッチ P (mm)	縁端距離 e (mm)
M22	60	40
M20	60	40

継 手

Sb58M, Sb45取合い詳細図 S=1:20

A, BOLT 6-M22 (ダブルナット) 定着長35d

アンカーボルト付ベースプレート コンクリート打込み

B, R-25 (SM490A)

材質: アンカーボルト SNR490B

符 号	Σa	a1	a1	Σb	b1	b2
Sb58M	650	200	125	450	175	50
Sb45	500	175	75	350	125	50

*フランジは、タイプAと同じ。

スタッドボルト設置要領

*スラブの取付く鉄骨梁のみスタッドボルトを設ける。

シングル

ダブル

スタッドボルト	
300 ≤ B	2-16 # @ 300
250 ≤ B < 300	2-16 # @ 300
B ≤ 200	1-16 # @ 300

スラブ断面表 (注) 1) CS、FCS表示は片持ちスラブ、FS表示は基礎スラブを示す。
2) パーサポートは鋼製パーサポート(独立型)とし、スラブ下端面が直上の場合は防錆型を使用する。
3) パーサポートの配置はスラブ端部は梁側から100前後、その他は900以内とする。

符号	タイプ	t (t1~t2)	短辺方向			長辺方向			備考
			中間部(片持ちスラブ)		周辺部	中間部		周辺部	
			端部(元端)	中央部(先端)		端部	中央部		
S15	B	150	上端筋 D10,D13@200	—	—	—	—		
			下端筋 D10,D13@200	—	—	—	—		
S15A	A	150	上端筋 D13@100	D13@200	—	D13@200	—		
			下端筋 D13@200	—	—	D13@200	—		
S15B	B	150	上端筋 D13@200	—	—	D13@200	—		
			下端筋 D13@200	—	—	D13@200	—		
S15C	B	150	上端筋 D13@200	—	—	D13@200	—		
			下端筋 D10,D13@200	—	—	D10,D13@200	—		
S18	B	180	上端筋 D10,D13@200	—	—	D10,D13@200	—		
			下端筋 D10,D13@200	—	—	D10,D13@200	—		
S20	B	200	上端筋 D13@150	—	—	D10,D13@200	—		
			下端筋 D13@150	—	—	D10,D13@200	—		
			上端筋						
			下端筋						
CS15	C	150	上端筋 D13@150	—	—	D10@200	—		
			下端筋 D13@150	—	—	D10@200	—		
CS15A	C	150	上端筋 D13@100	—	—	D10@200	—	S-49図参照	
			下端筋 D13@200	—	—	D10@200	—		
CS16	C	160	上端筋 D13@200	—	—	D10@200	—		
			下端筋 D13@200	—	—	D10@200	—		
CS20	C	200	上端筋 D13@100	—	—	D10@200	—		
			下端筋 D13@200	—	—	D10@200	—		
			上端筋						
			下端筋						
FS65	B	650	上端筋 D25@150	—	—	D25@150	—		
			下端筋 D25@150	—	—	D25@150	—		
FS55	B	550	上端筋 D25@150	—	—	D25@150	—		
			下端筋 D25@150	—	—	D25@150	—		

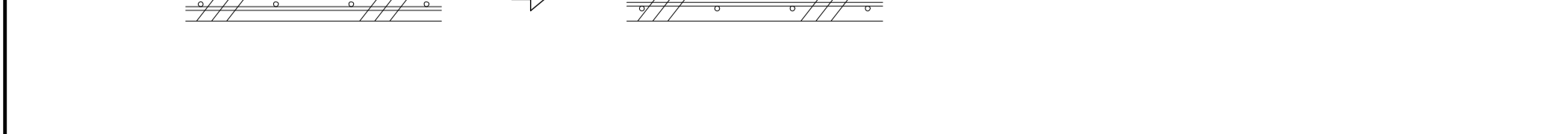
デッキスラブ断面表

*デッキスラブはS-16図「ニューフェローデッキ設計標準仕様書」を参照の事。

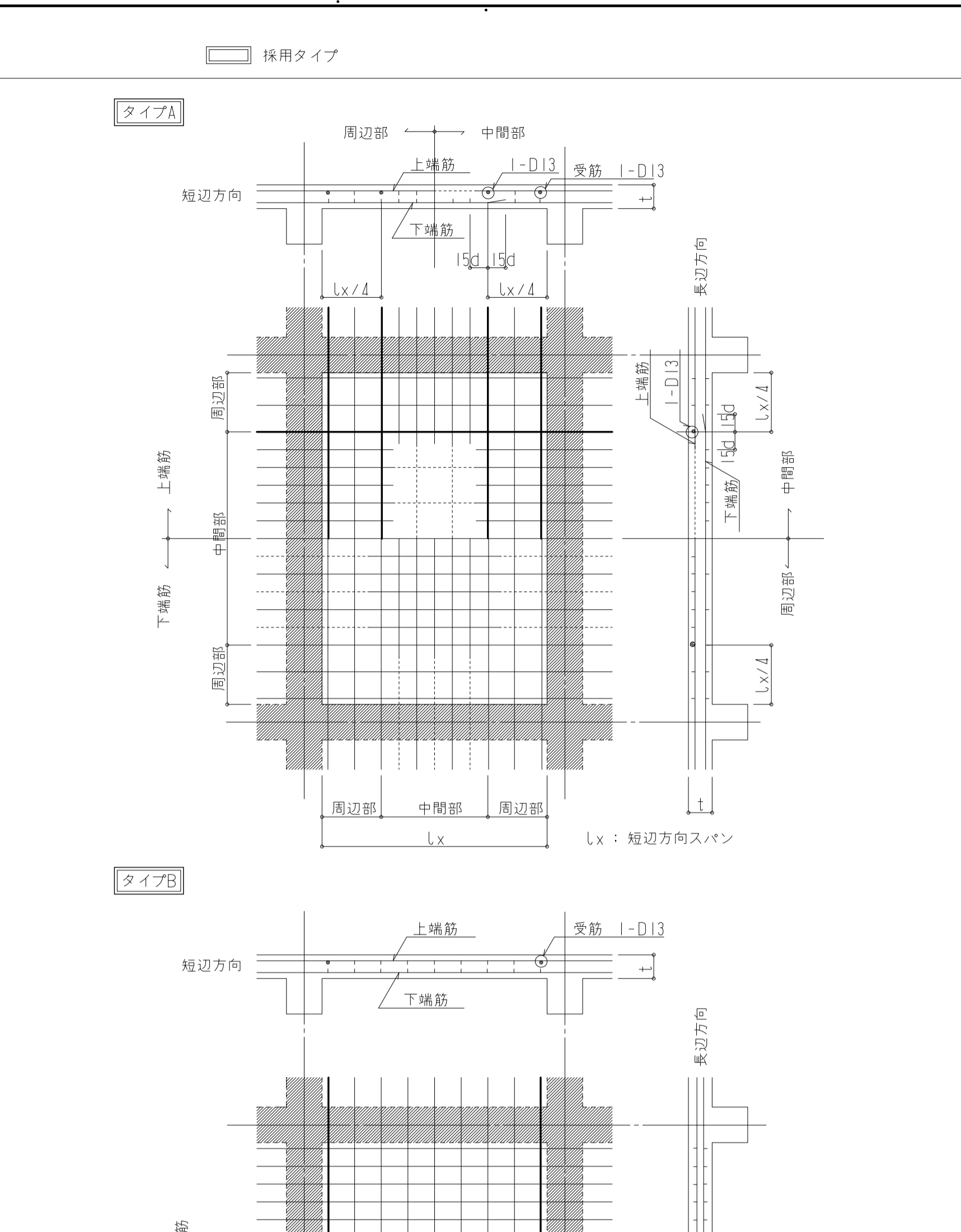


10. 合成デッキスラブの耐火補強筋

以下の場合、合成デッキスラブの溝部分に耐火補強筋D13を配筋するものとする。
1) デッキプレートを単独支持とする場合
2) デッキプレートを2スパン連続支持とするが、スパンが不均等スパンの場合 (スパンの比が3:2程度より不均等となる場合)

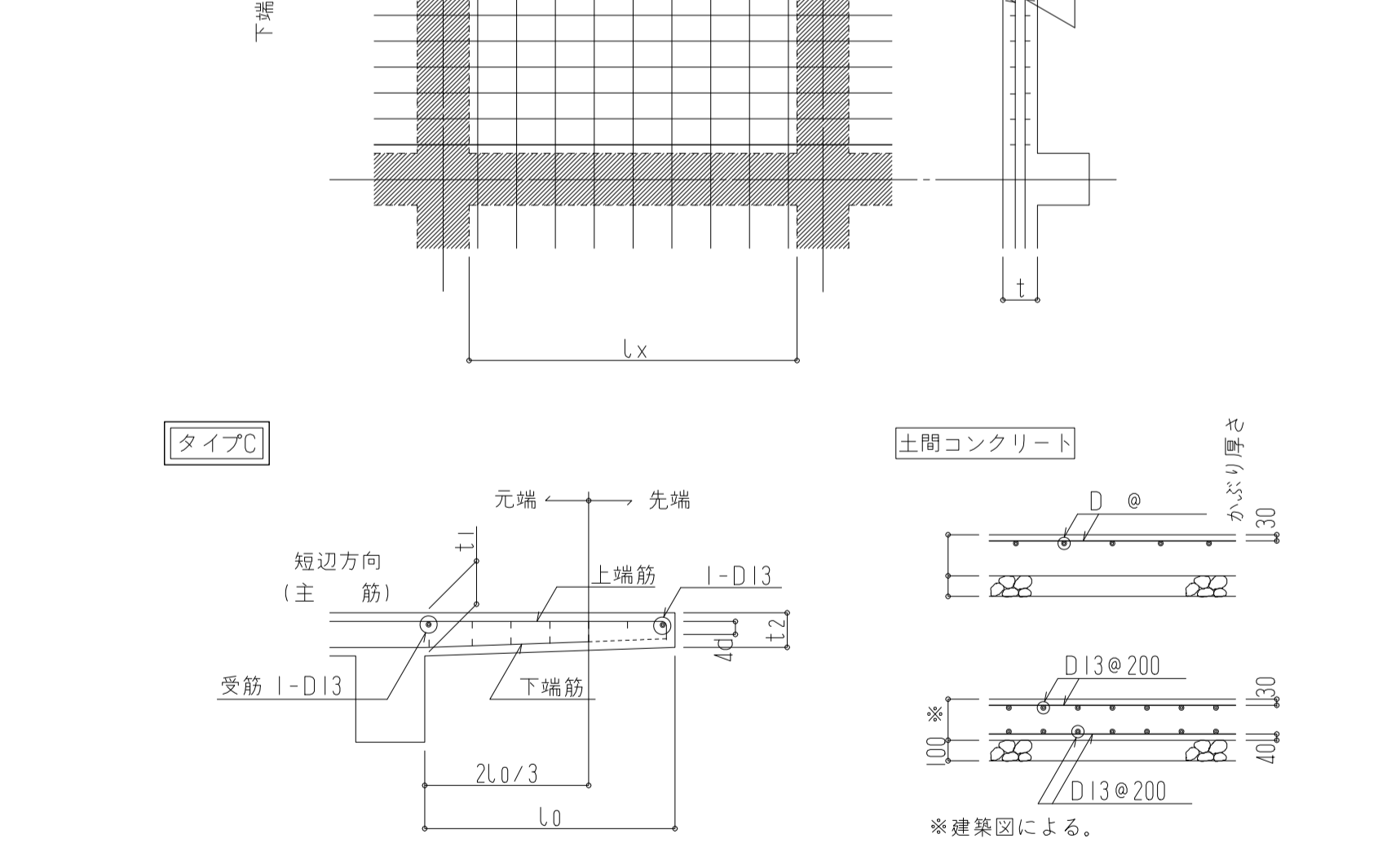


* FS符号のスラブについては、下図の様に配筋を変更しても可とする。



デッキスラブ断面表

*デッキスラブはS-16図「ニューフェローデッキ設計標準仕様書」を参照の事。



10. 合成デッキスラブの耐火補強筋

以下の場合、合成デッキスラブの溝部分に耐火補強筋D13を配筋するものとする。
1) デッキプレートを単独支持とする場合
2) デッキプレートを2スパン連続支持とするが、スパンが不均等スパンの場合 (スパンの比が3:2程度より不均等となる場合)



* FS符号のスラブについては、下図の様に配筋を変更しても可とする。

配筋基準 (注) 採用タイプ

1. スラブ (注) 基礎スラブは除く

(1) 余長・継手範囲 (注) 1) Lx:短辺方向有効スパン 2) 主筋の継手範囲 3) 片持ちスラブ主筋は原則として継手を設けない 4) 周辺部の主筋の継手は任意の場所に設けてよい

(2) 定着 (注) 1) *印寸法が200以上とれない場合は梁幅Bの2/3以上の長さとする

周辺固定スラブ, 片持ちスラブ

2. 基礎スラブ (注) 1) Lx:短辺方向有効スパン 2) 主筋の継手範囲

タイプA 地反力、水圧が支配的な場合
タイプB 地反力、水圧を受けない場合

3. 土間コンクリート (1) 周辺躯体との取合い (2) 梁上部補強筋 (3) 末端部 (注) 目地割付け詳細図は建築図による

4. スラブ受筋 (注) 受筋D13(配筋筋)を利用してよい


5. スラブ開口補強 (1) 300×300以下の場合 (2) 700×700以下の場合 (3) 開口が連続する場合

6. スラブ亀裂防止 (1) 屋上階出隅部 (2) 片持ちスラブ出隅部(RCの腰壁、たれ壁がない場合) (3) 片持ちスラブ入隅部

7. 間仕切壁との取合い (注) 1) 補強筋:5-D10@200 2) 上端筋の下に配筋

8. 底 (注) 1) L0が750以下の場合 (2) L0が1,000以下の場合

9. スラブの段差部 (スラブ筋がD13以下の場合に限る。) (1) 段差がt以内の場合 (2) 段差がtをこえ2t以内の場合

壁断面表 (注) TW表示は耐力壁、W表示は非耐力壁を示す。土圧壁断面は設計図による。外壁の場合、S1を外側とする。  採用タイプ

縦断面	タイプA	タイプB	タイプC	タイプD	タイプE	C.B. (間仕切壁)	
符号	TW18	TW18A	TW25	TW25A	TW30	TW30A	
タイプ	C	C	C	C	C	C	
壁厚 t	180	180	250	250	300	300	
目地ふかし厚 S1	20 (外)	20 (外)	20 (外)	20 (外)	20 (外)	20 (外)	
目地ふかし厚 S2	—	—	—	—	—	—	
縦筋	D13@200	D13@200	D16@150	D16@150	D16@150	D16@150	
横筋	D13@200	D13@100	D16@100	D19@150	D16@150	D19@150	
幅止め筋	D10@1,000	D10@1,000	D10@900	D10@900	D10@900	D10@900	
符号	TW35	TW35A	TW40	TW45	TW100		
タイプ	C	C	C	C	C		
壁厚 t	350	350	400	450	1,000		
目地ふかし厚 S1	20 (外)	20 (外)	20 (外)	20 (外)	20 (外)		
目地ふかし厚 S2	—	—	—	—	—		
縦筋	D19@200	D19@150	D22@200	D22@200	D22@100		
横筋	D19@100	D19@150	D22@100	D22@100	D22@100		
幅止め筋	D10@1,000	D10@900	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000		
符号	W15	W18	W20	W30	W35	KW20 RW25 (RW25A)	
タイプ	B	C	B	C	C	C B	
壁厚 t	150	180	200	300	350	200 250	
目地ふかし厚 S1	—	20 (外)	20	—	20 (外)	—	
目地ふかし厚 S2	—	—	20	—	—	—	
縦筋	D10@200	D10,D13@200	壁壁 (車路部) 下図参照	D16@200	D13@150	D13@150	D16@150 (D16@200)
横筋	D10@200	D10,D13@200		D16@200	D13@150	D13@200	D16@100 (D16@200)
幅止め筋	D10@1,000	D10@1,000		D10@1,000	D10@900	D10@900	D10@900 (D10@1000)
符号	RW30	RW35	RW40	RW40A	RW45	RW45A	RW60
タイプ	C	C	C	C	C	C	C
壁厚 t	300	350	400	400	450	450	600
目地ふかし厚 S1	—	—	—	—	—	—	—
目地ふかし厚 S2	—	—	—	—	—	—	—
縦筋	D16@150	D19@150	D19@150	D19@150	D22@200	D22@150	D19@150
横筋	D16@150	D19@150	D19@150	D19@100	D22@100	D22@150	D19@150
幅止め筋	D10@900	D10@900	D10@900	D10@900	D10@900	D10@900	D10@900

配筋基準

1. 壁筋の定着 (土圧壁筋は10参照)

(1) 柱・梁への定着
柱の場合

梁の場合

* L2 かつ中心線を越える

耐力壁筋が柱・梁主筋の外側の場合

* L2 かつ柱中心線を越える

(2) 非耐力壁の隅角部・交差部の定着

受筋: D13以上で縦筋と同径

2. 手摺の配筋
(注) 1) 縦筋:D10@200ダブル H≦1,200
横筋:D10@200ダブル
2) 梁に対する定着は、片持スラブに準ずる。
3) 特記なき寸法は建築図による。

3. パラペットの配筋
(注) 1) 縦筋:D10@200ダブル H≦1,000
横筋:D10@200ダブル
2) 特記なき寸法は建築図による。
3) *印は丸環用補強筋(丸環の両側に入れる)。

4. 片持スラブと壁交差部の定着

5. ドライエリア擁壁の定着と継手
(注) 土に接する側の縦筋は継手長さをL1+5dとする。

6. 間仕切コンクリートブロック壁の定着
(1) RCスラブ・壁への定着
主筋の定着

配筋筋の定着

(2) 隅角部・交差部の定着
(溶接以外の継手は不可)

ブロック厚	一般	腰壁・袖壁
100*	L=2,500	—
120	L=3,000	L=1,320
150	L=3,500	L=1,600
180	L=4,200*	L=1,600

* 地盤からの高さ10m以下かつ3階建以下の部分に限り使用することができる。
** ただし地下階に限る。

構造スリット 縮尺=1:30

腰壁 (車路部) 配筋詳細図 縮尺=1:30

構造スリットは「スリットン」(品質適合証第TC0045-1号)同等品とし、必要な耐火性能は建築図による。

7. 壁打継ぎ部の配筋
打継ぎ面上部の鉄筋間隔保持
コンクリート打設前に1段目の横筋を配筋し、かつ幅止め筋の間隔を保持する。

8. ひび割れ誘発目地部の配筋

9. 開口補強筋
(1) 開口補強筋

耐力壁(TW)開口補強筋

符号	縦筋		横筋		斜筋
	H	a	W	b	c
TW18A	H≦600	2-D13	W≦600	2-D13	2-D13
TW18A	H>600	4-D13	W>600	6-D13	6-D13
RW45	H>600	4-D22	W>600	4-D22	6-D22

非耐力壁(W)開口補強筋
a,bは壁筋より1サイズ上の径の鉄筋とし、cは不要

(2) 外壁ひび割れ防止筋 (開口補強筋に加えて配筋する)

目地のある場合
垂直目地 収縮ひび割れ防止筋 (壁筋と同径6本、L=1,200)

目地のない場合
収縮ひび割れ防止筋 (壁筋と同径6本、L=1,200)

開口補強筋 45°

eが200以下の場合a・D・C筋不要
壁厚t>200の場合は斜筋Cを配筋してもよい。

10. ひびわれ誘発目地 KCJW工法 GBRC 性能証明 第08-24号

ノッチ目地の場合

台形目地の場合

目地による断面欠損率 = (a1・t1 + a2・t2 + 75) / (t1 + t2)
a1, a2: ノッチ目地 1.5
台形目地 1.0

11. 土圧壁筋の定着
(1) 柱への定着
柱主筋の内側の場合

柱主筋の外側の場合

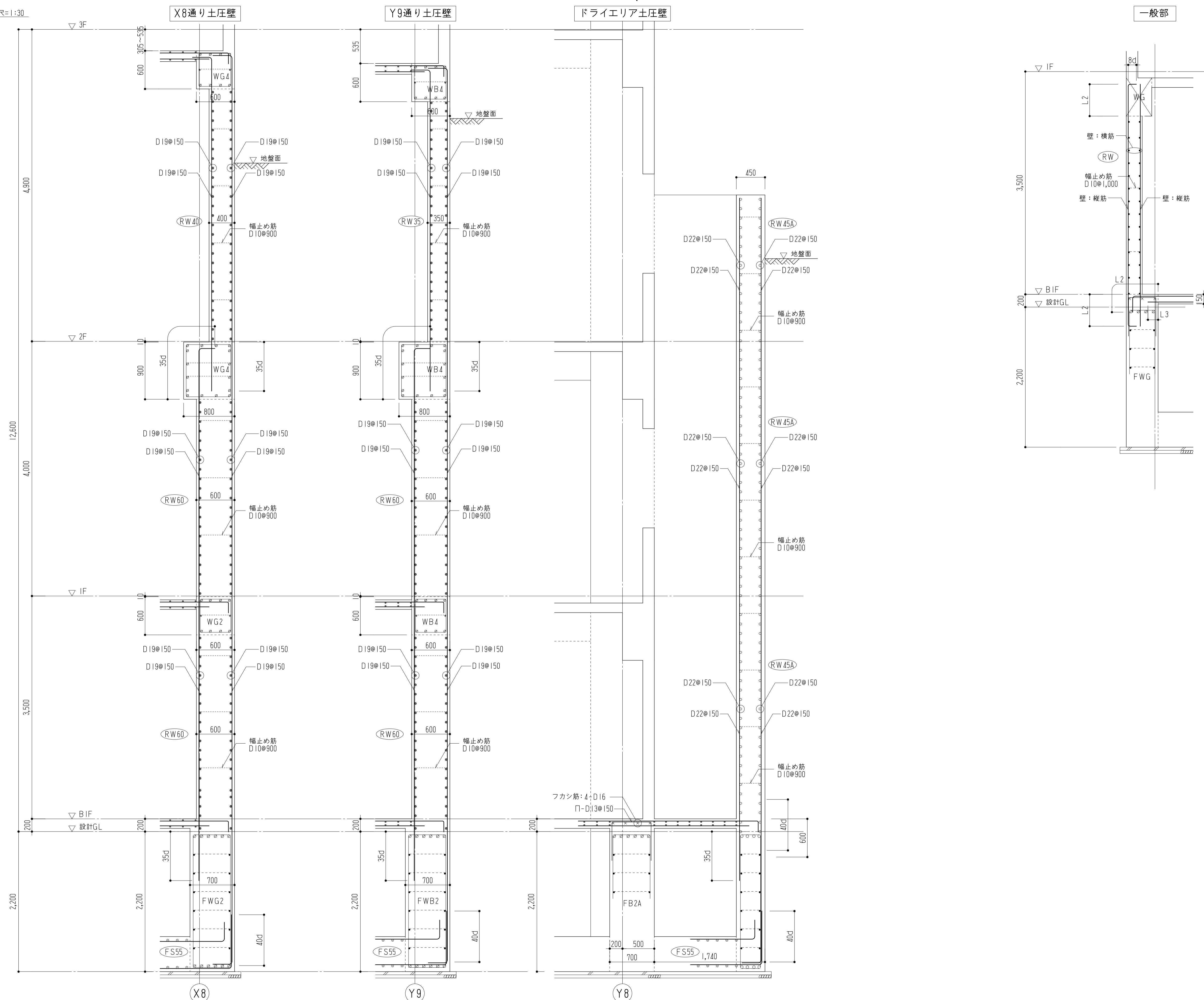
(2) 梁への定着
梁主筋の内側の場合

梁主筋の外側の場合

受筋: D13以上で縦筋と同径

12. 土圧壁筋の継手範囲

継手範囲
土に接する側の鉄筋
室内側の鉄筋

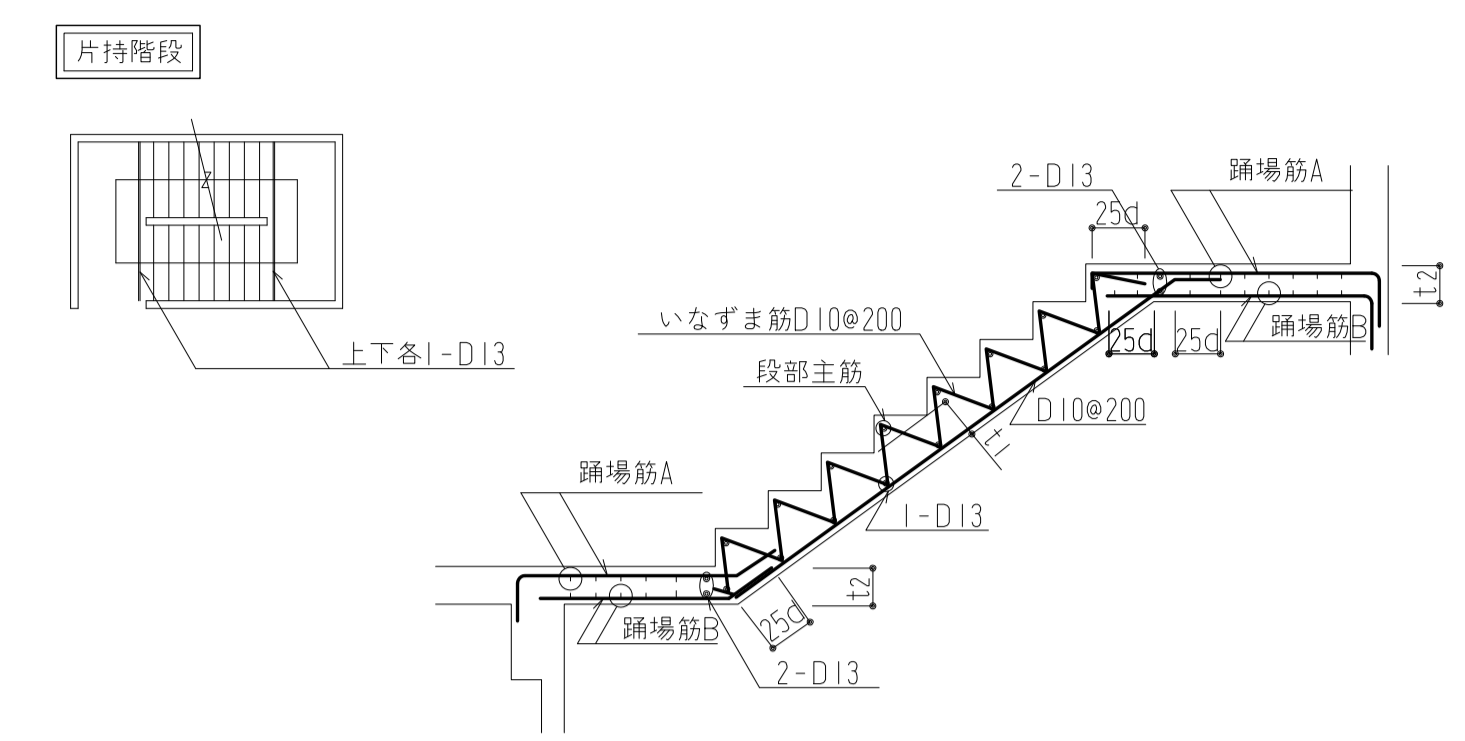


設計者		法適合確認欄	
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第274929号 西 謙一	構造設計一級建築士 第1417号 西 謙一	

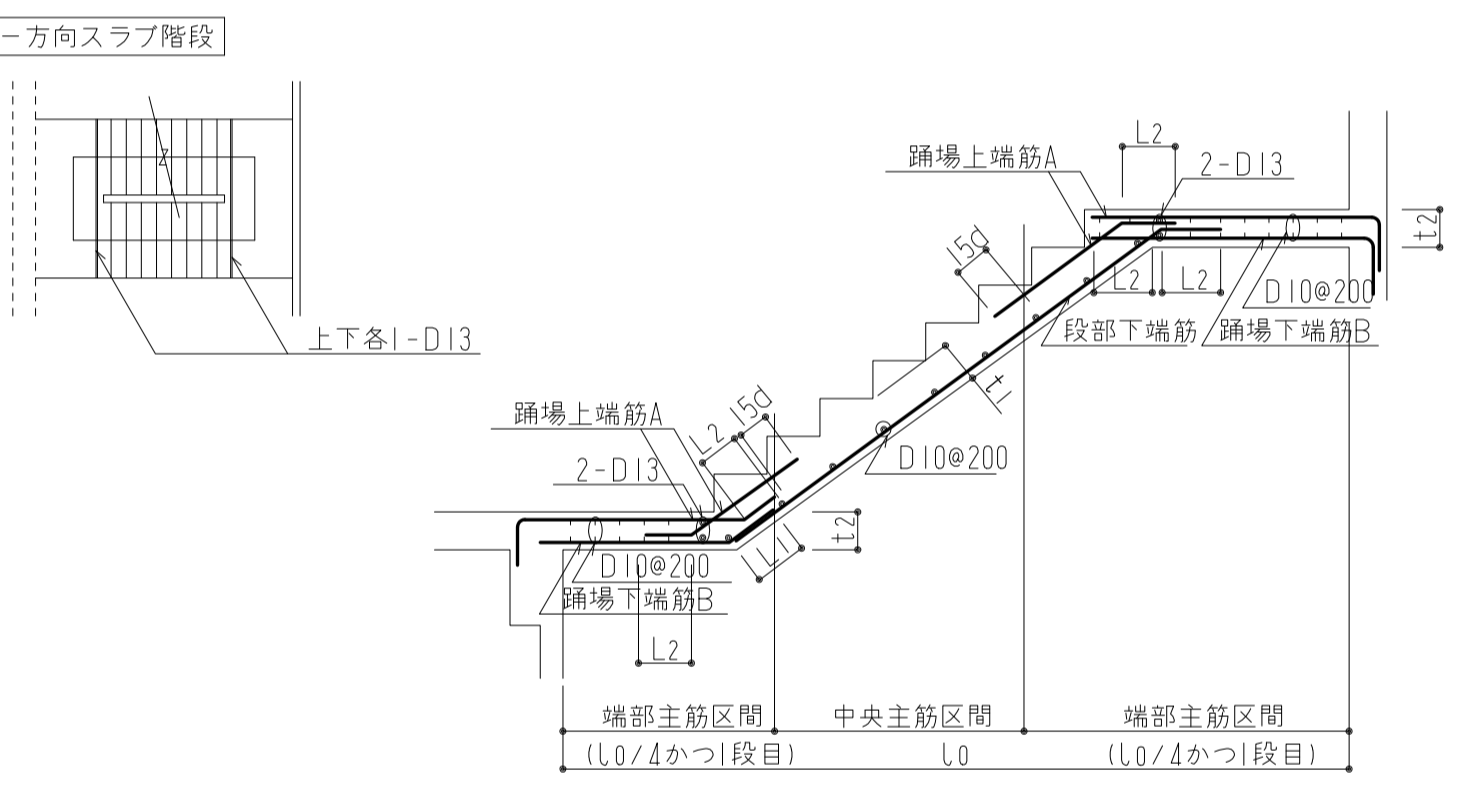
設計番号 160795 216026	図面番号 S - 47
縮尺 30	日付 2019.02.28

階段詳細図

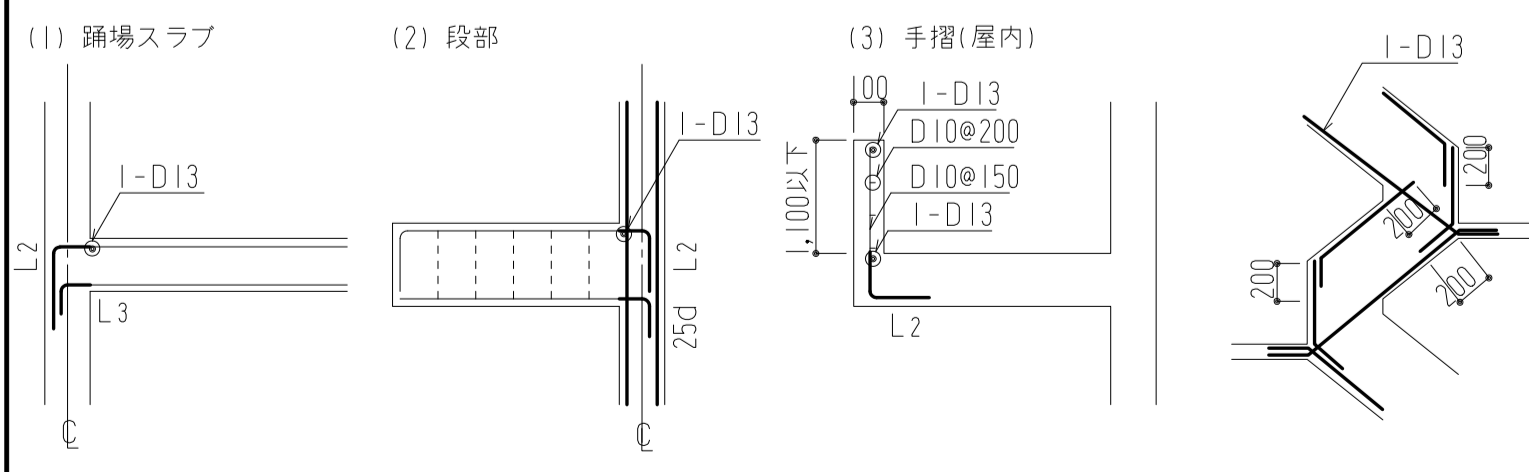
(注) 1) 特記なき寸法は建築図による。
2) 特記なき補強筋、受筋、定着長さ等は、構造図 配筋基準共通事項および配筋基準による。



符号	段部		踊場		備考
	スラブ厚t1	段部主筋	スラブ厚t2	踊場筋	
	150	4×2-D13	150	D13@100	タイプB
階段1・階段2	150	2-D13	150	D13@100	タイプA



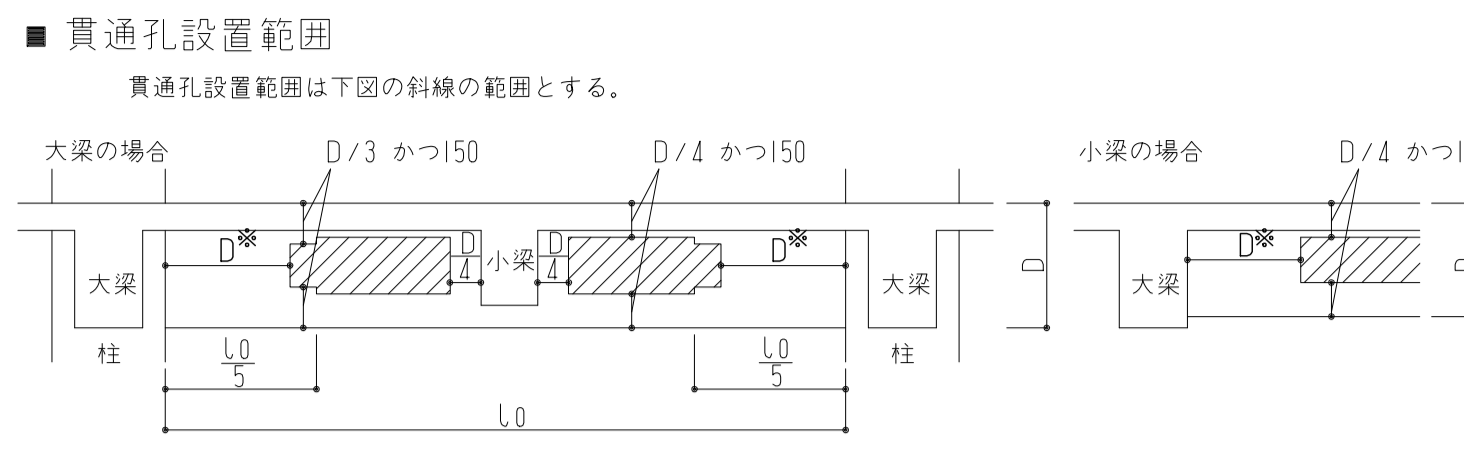
符号	段部		踊場		備考
	スラブ厚t1	下端筋	スラブ厚t2	上端筋 A 下端筋 B	



梁貫通孔補強

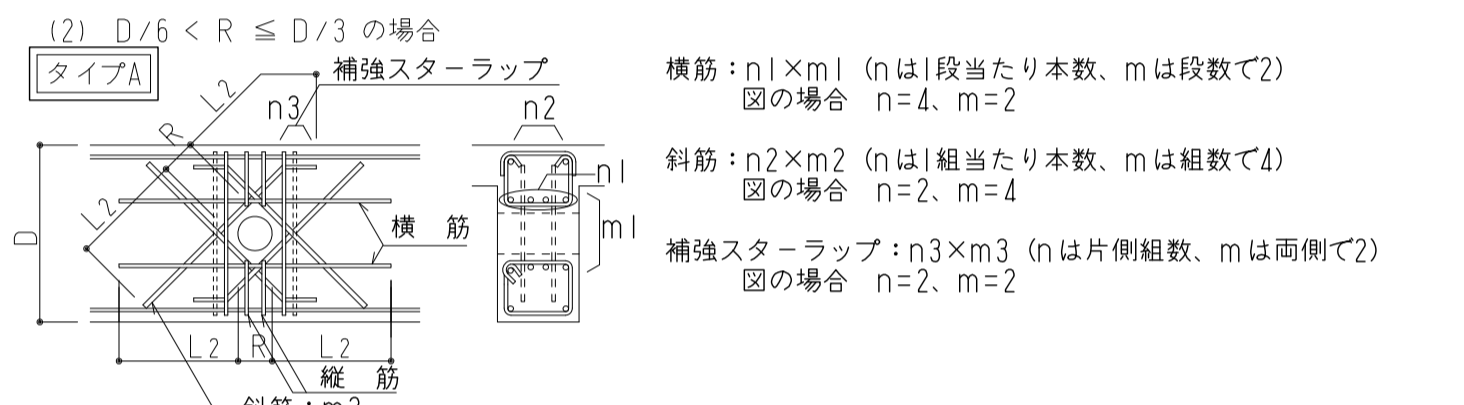
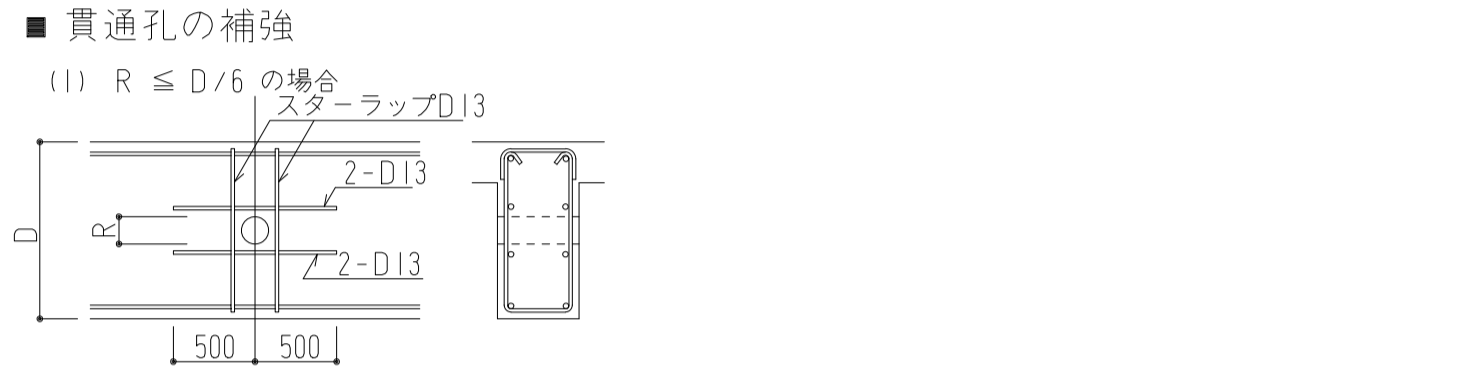
ここでは基本原則を示し、実際の補強詳細は施工図により設計担当者との協議の上決定すること。

RC造の場合

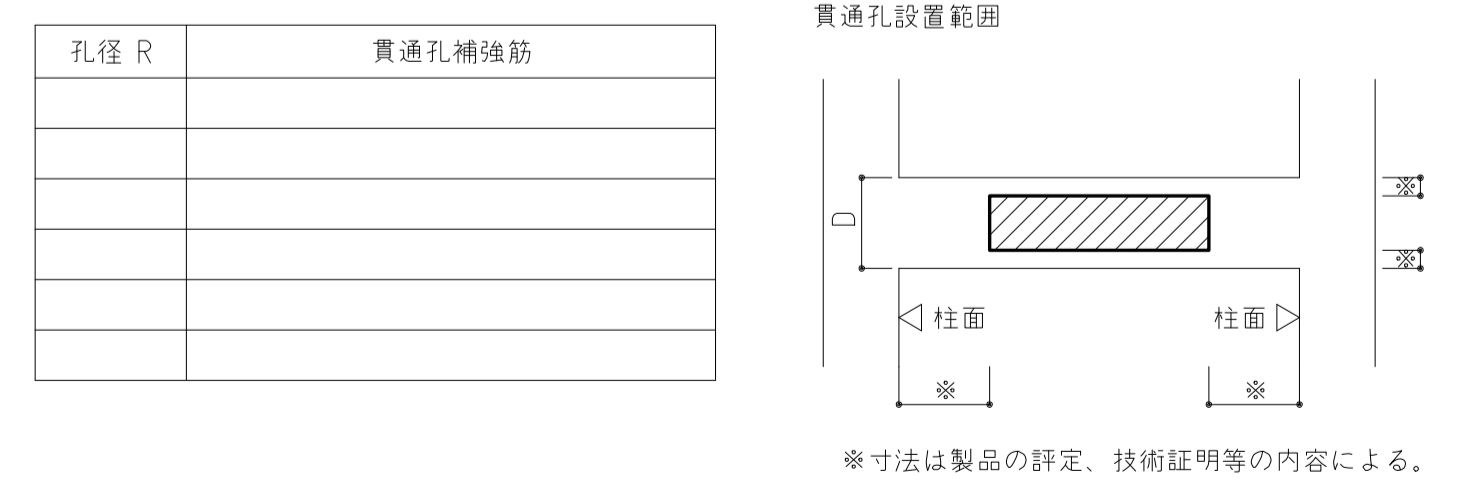
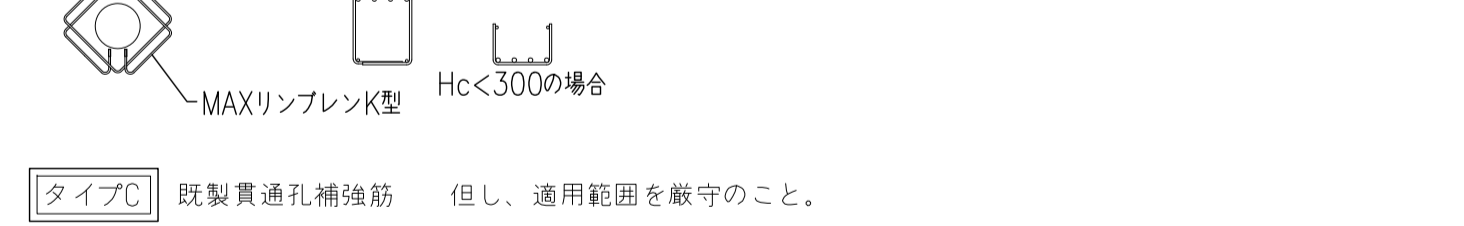
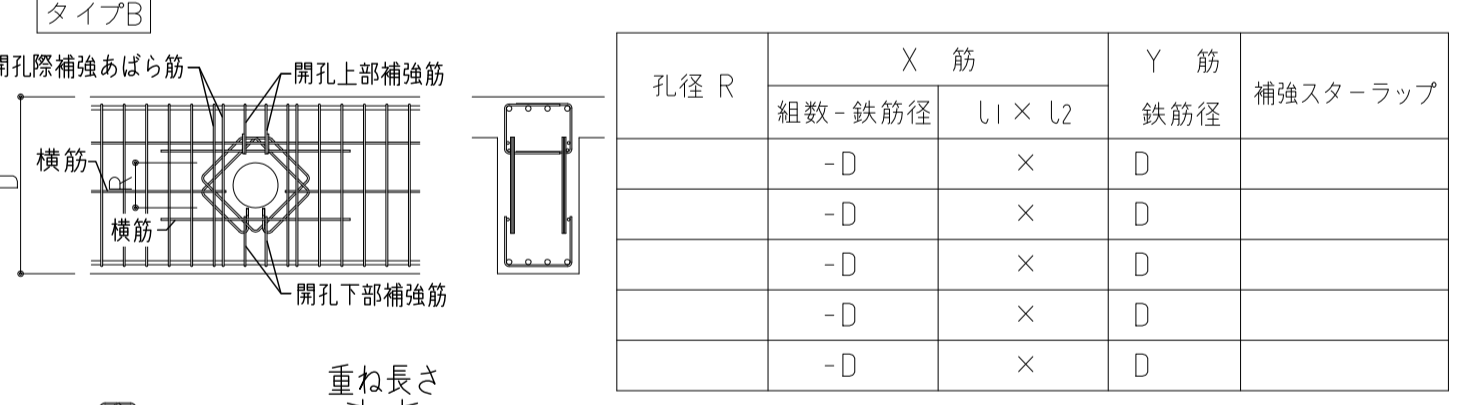


■ 貫通孔設置範囲
貫通孔設置範囲は下図の斜線の範囲とする。

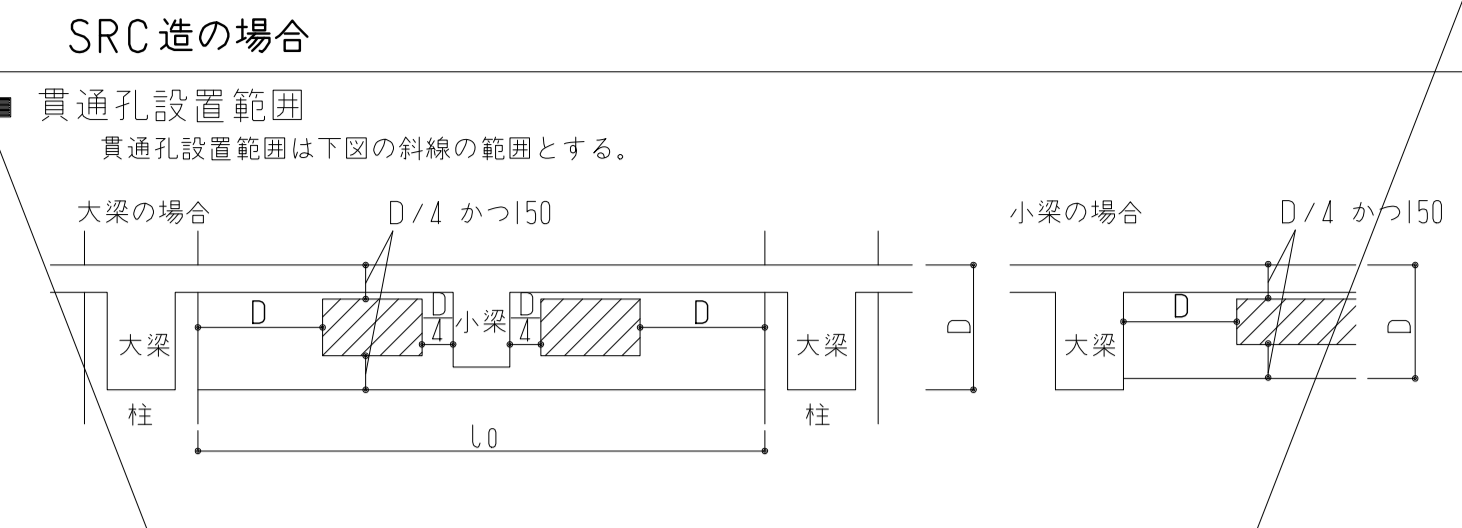
■ 貫通孔の間隔
(注) 1) 孔の形状は円形とする。
2) 孔径RはD/3以下とする。(但し大梁端部からL0/5の範囲に貫通孔を設置する場合はD/5以下とする。)
3) 孔径RがD/4以上あるとき1本の梁に設ける孔数は3個以下とする。
4) D≧600でR≦100の場合補強不要
5) D<600でR≦50の場合補強不要
基礎梁において、孔径Rが300φ以下でかつ貫通孔の補強をタイプAとした場合は寸法をD/2とすることができる。



符号	孔径 R	縦筋	横筋	斜筋	補強スターラップ
基礎梁	600φ	□-D13@100	2×2-D19	2×4-D19	2×2-□-D13
〃	300φ	□-D13@100	2×2-D19	2×4-D19	2×2-□-D13

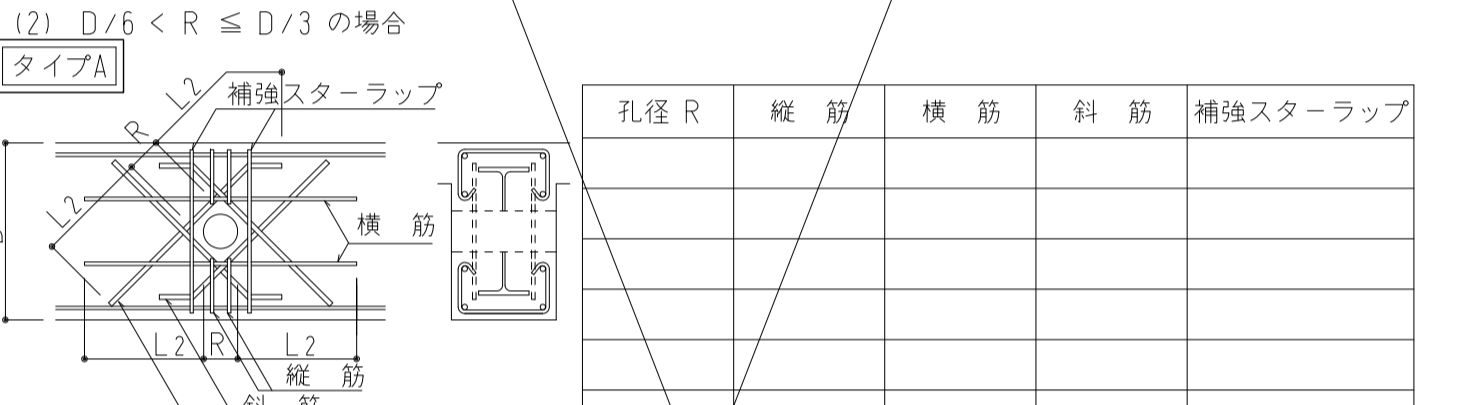
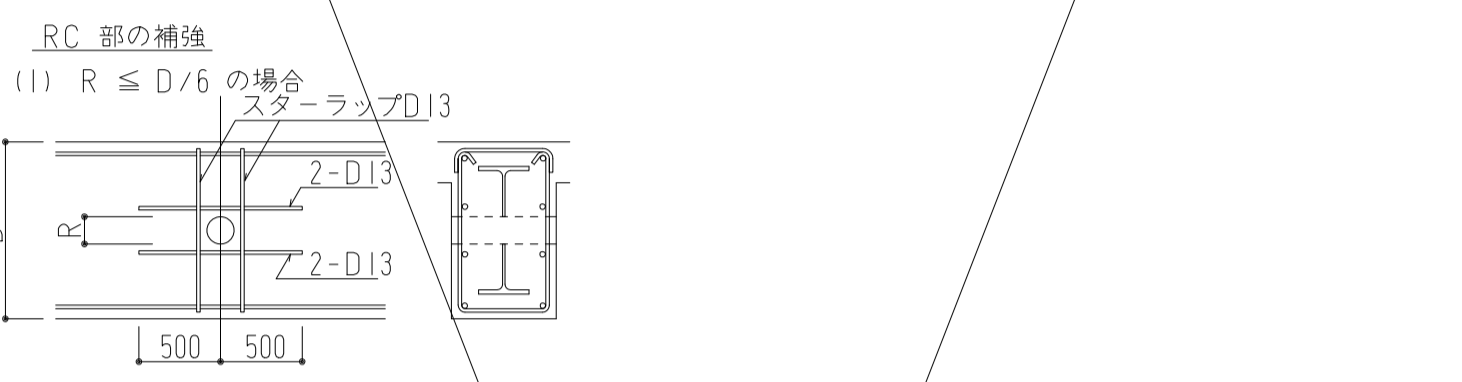


SRC造の場合

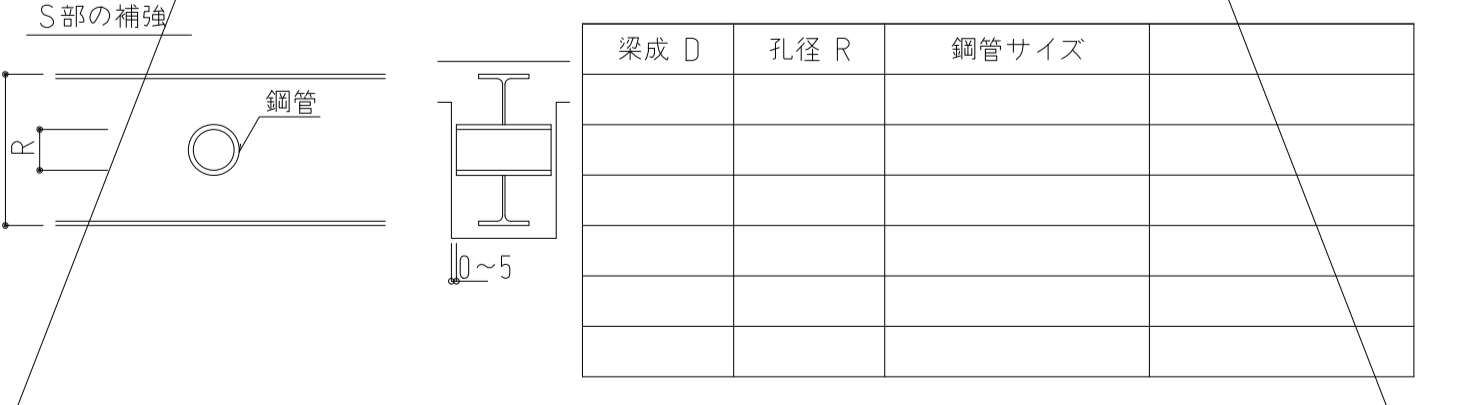
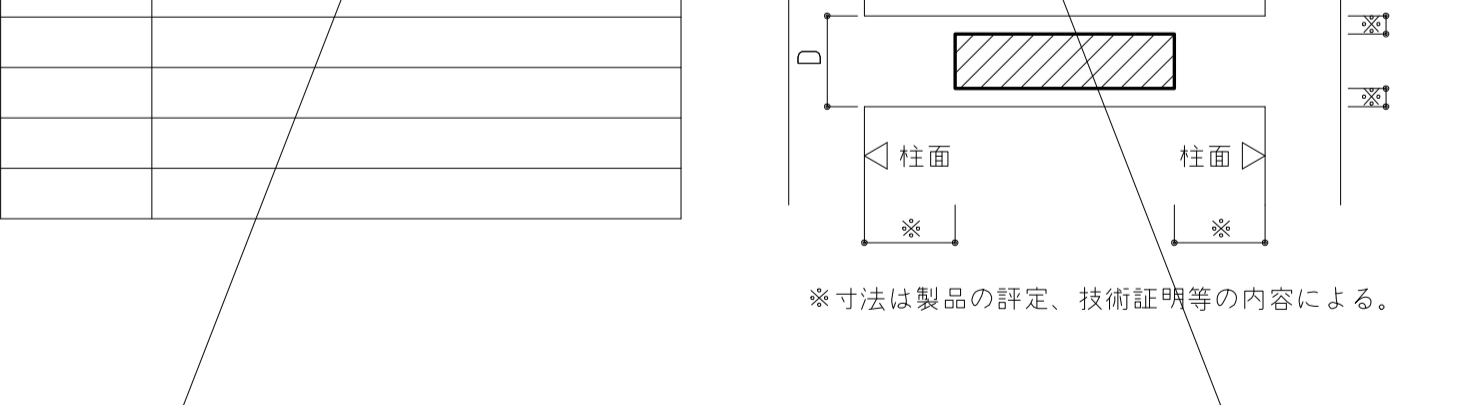
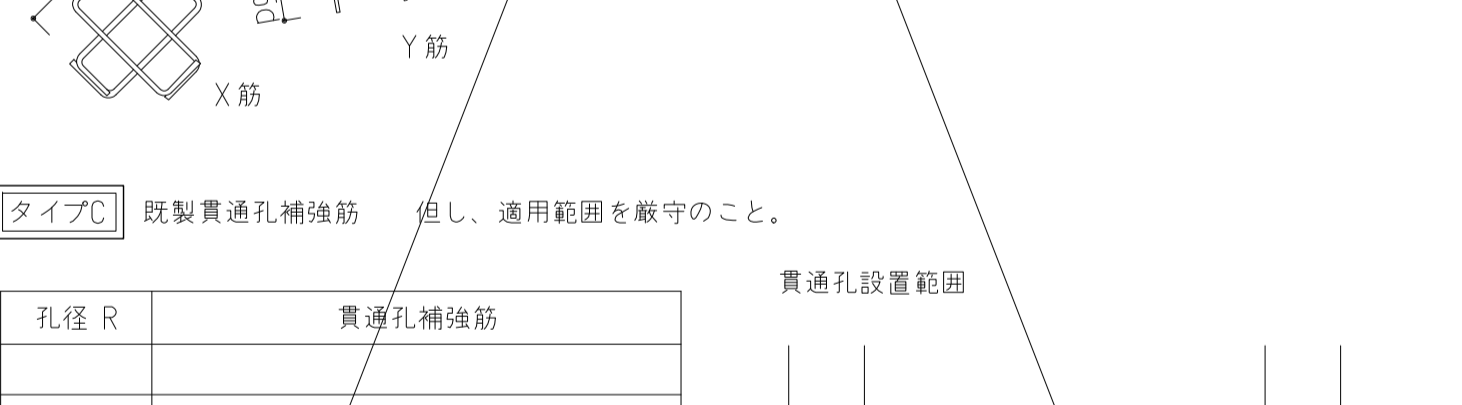


■ 貫通孔設置範囲
貫通孔設置範囲は下図の斜線の範囲とする。

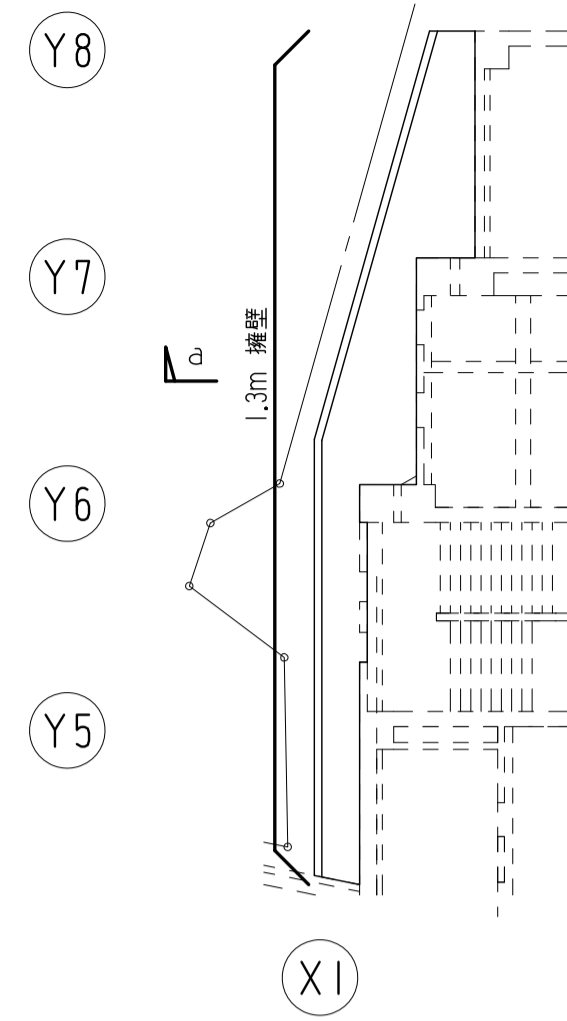
■ 貫通孔の間隔
(注) 1) 孔の形状は円形を原則とする。
2) 孔径RはD/3以下、かつ鉄骨梁成の1/2以下とする。
3) D≧600でR≦100の場合補強不要
D<600でR≦50の場合補強不要
4) 1本の梁に設ける貫通孔の数は制限しないが、設計担当者との協議のこと。
5) 鉄骨梁のジョイント部分は貫通孔設置不可。



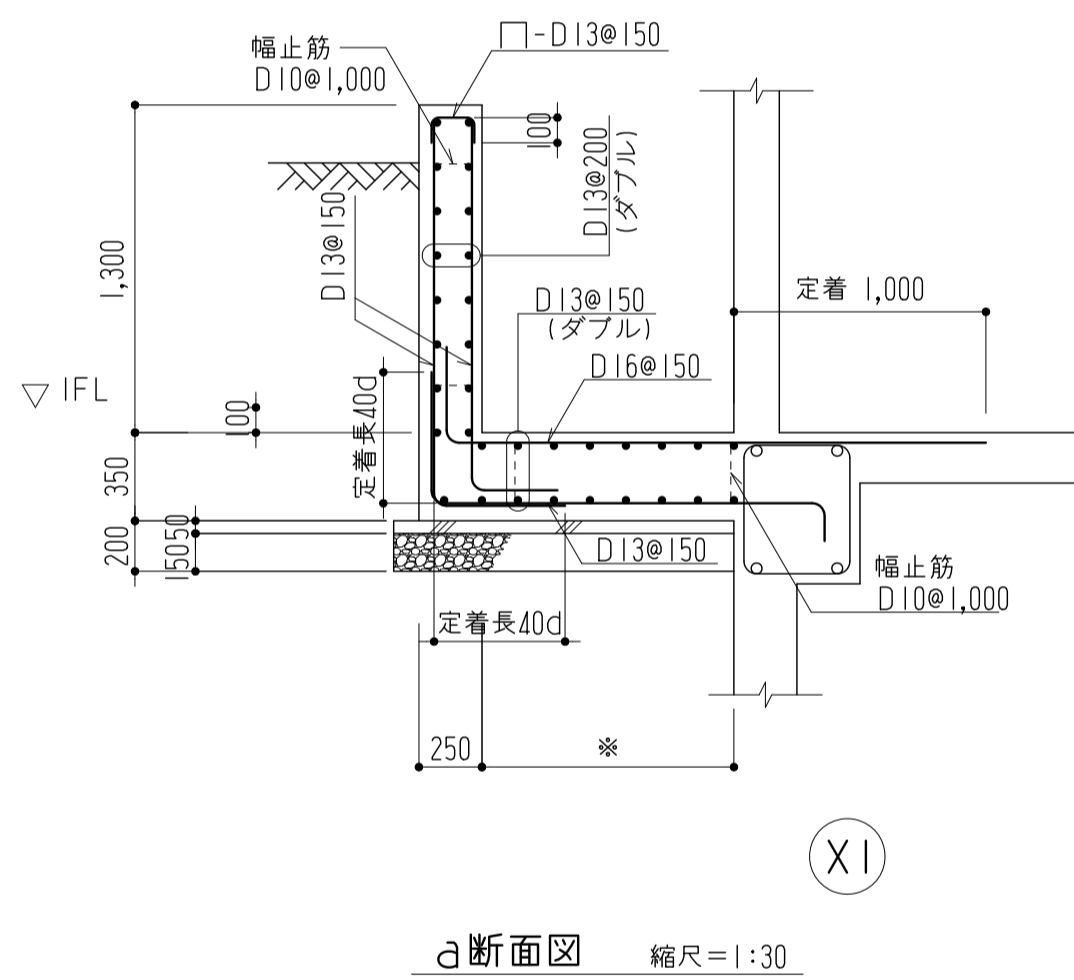
孔径 R	縦筋	横筋	斜筋	補強スターラップ



西側通路詳細図 縮尺=1:200,30

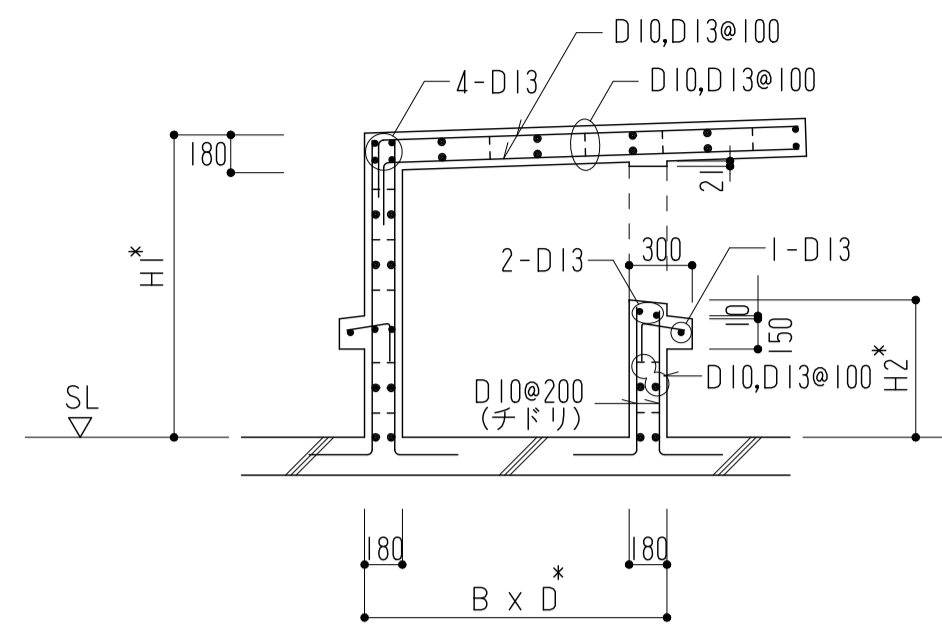


西側通路 (IFLレベル) 縮尺=1:200



a断面図 縮尺=1:30

設備配管立上り 配筋図 縮尺=1:30

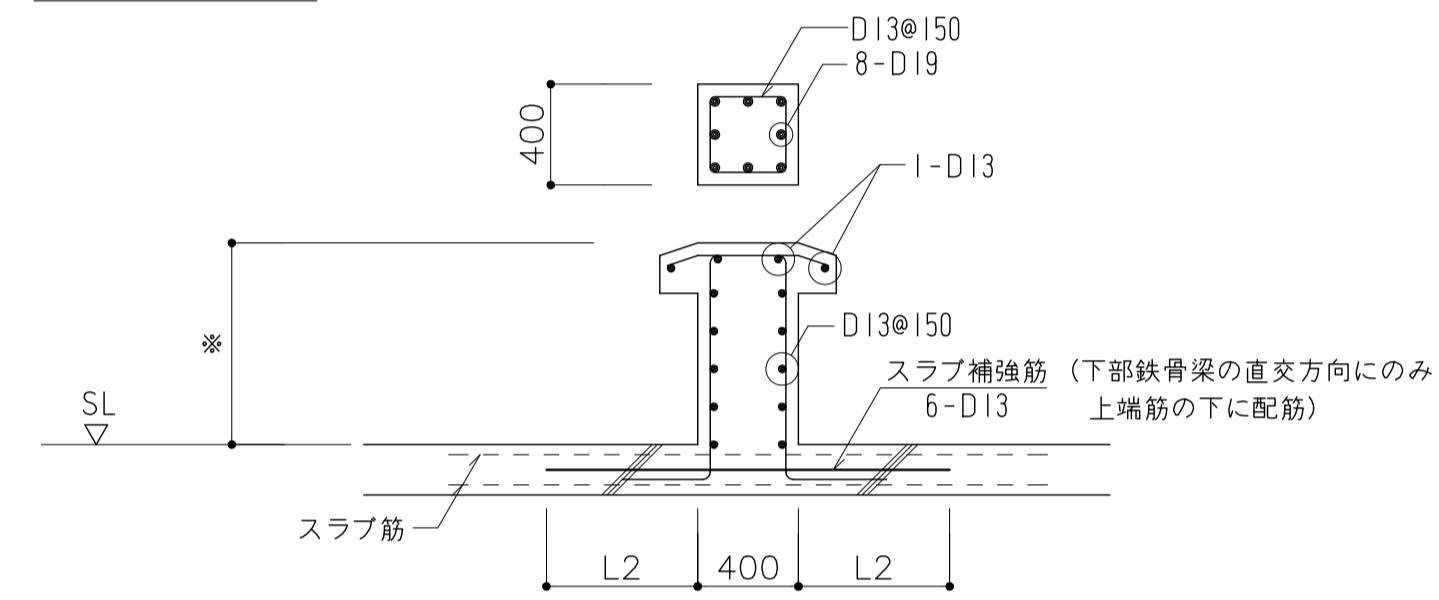


注記) 1,*印寸法及び配置・箇所数は、建築図による。

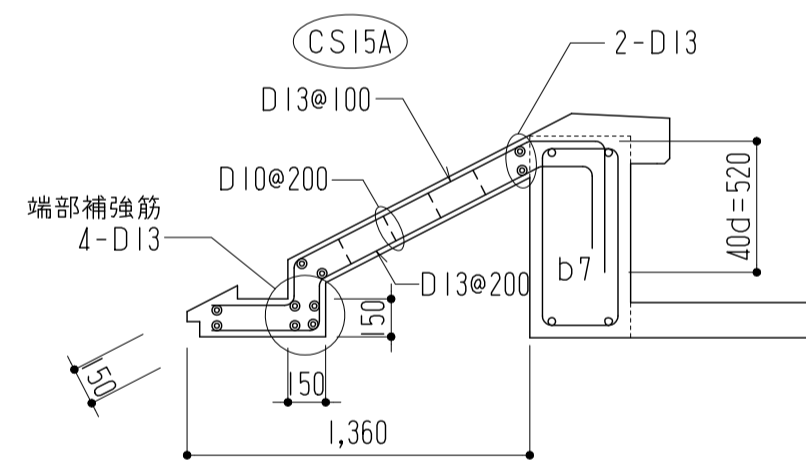
設備基礎 配筋図 縮尺=1:30

注記) 1,*印寸法及び形状・配置は、建築図及び設備図参照の事

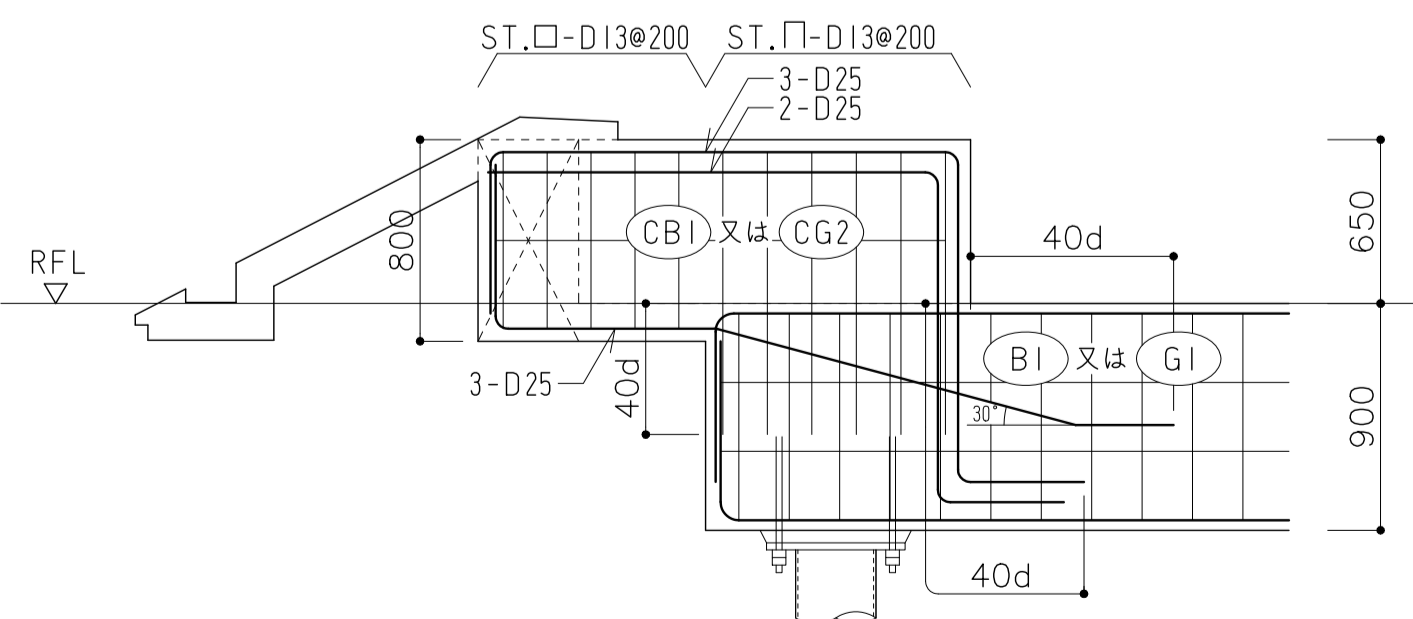
設備架台用基礎

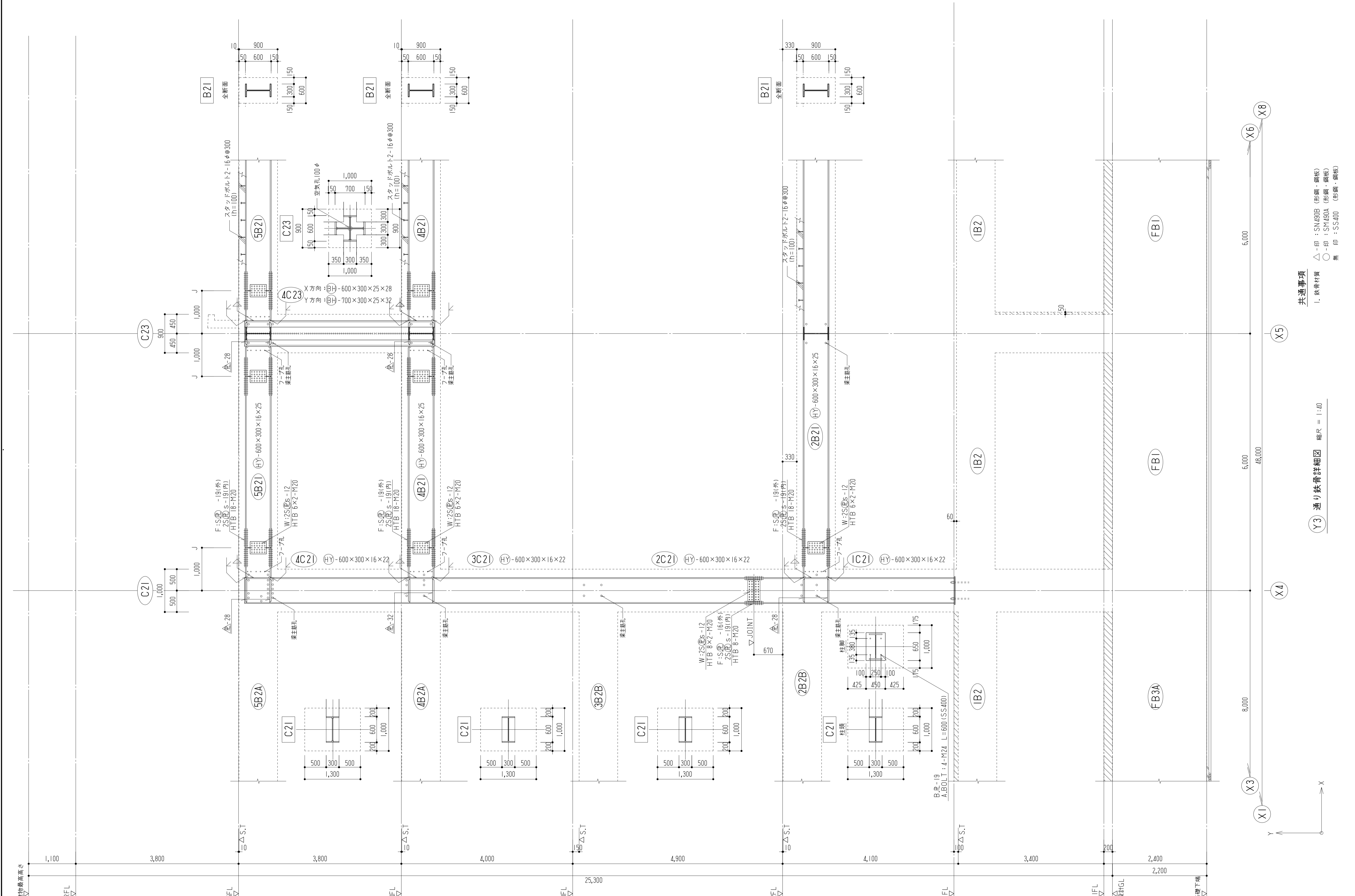


レストラン庇 (R階) 配筋詳細図 縮尺=1:30



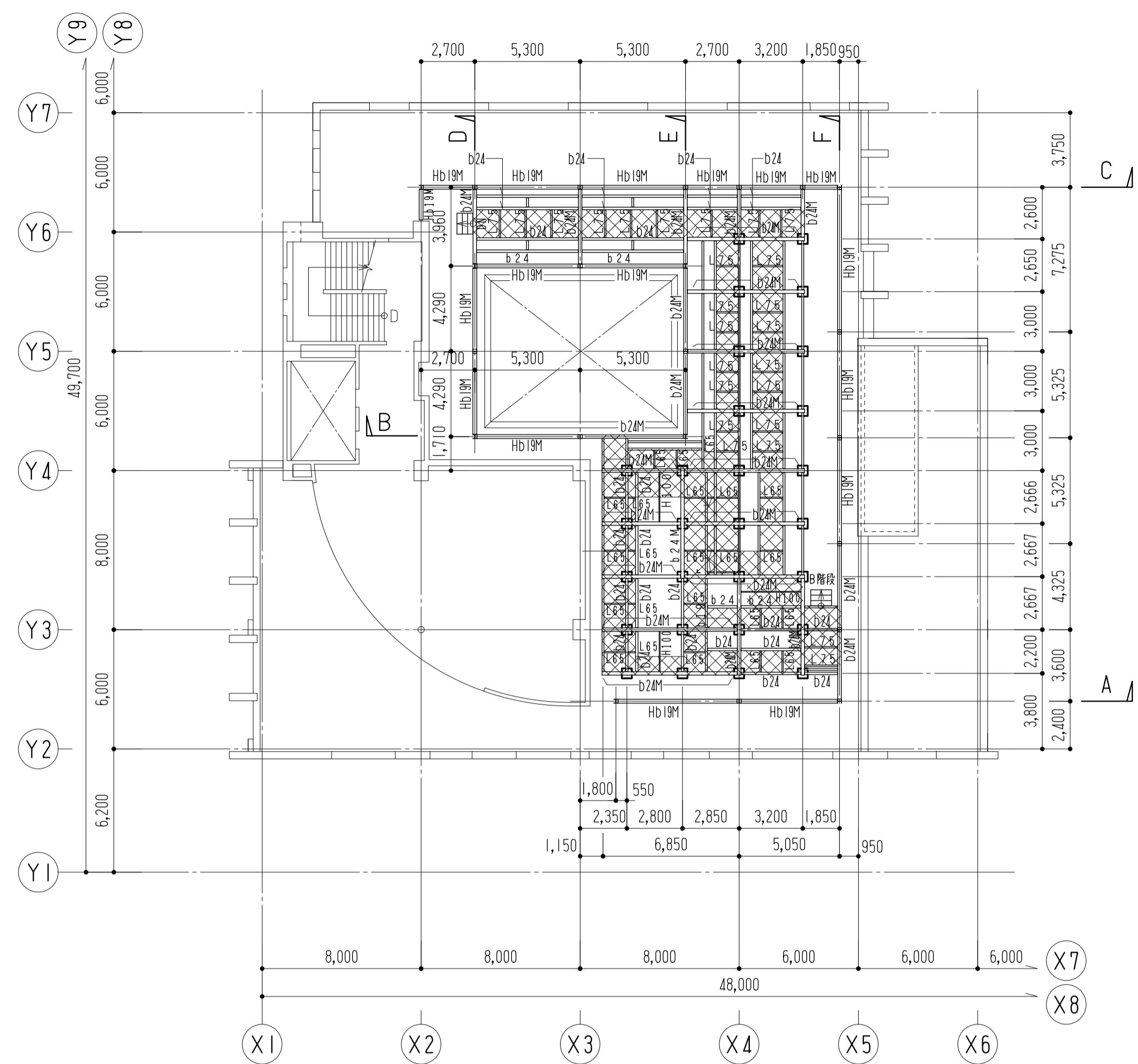
屋根CBI、CG2配筋納り図 縮尺=1:30





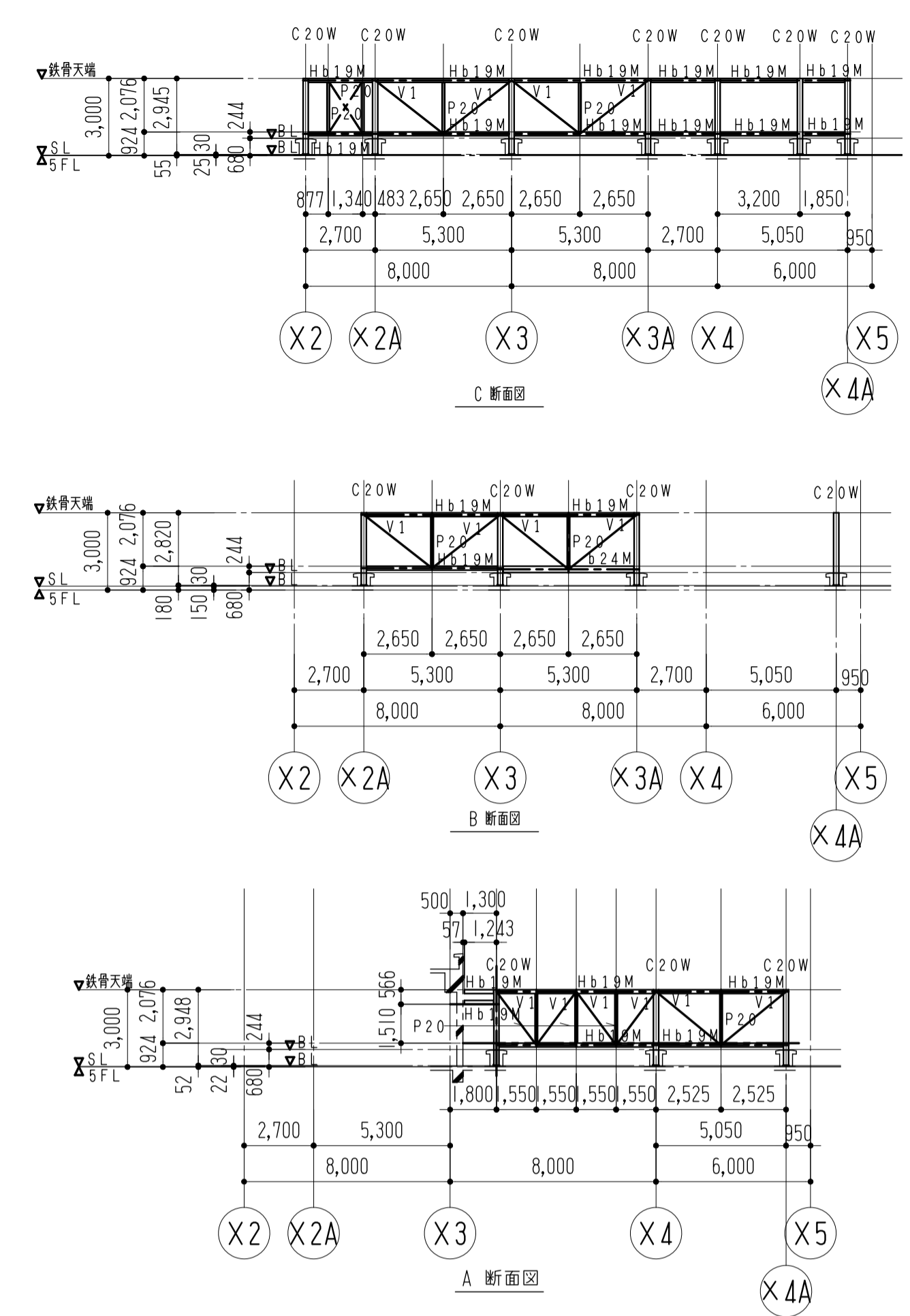
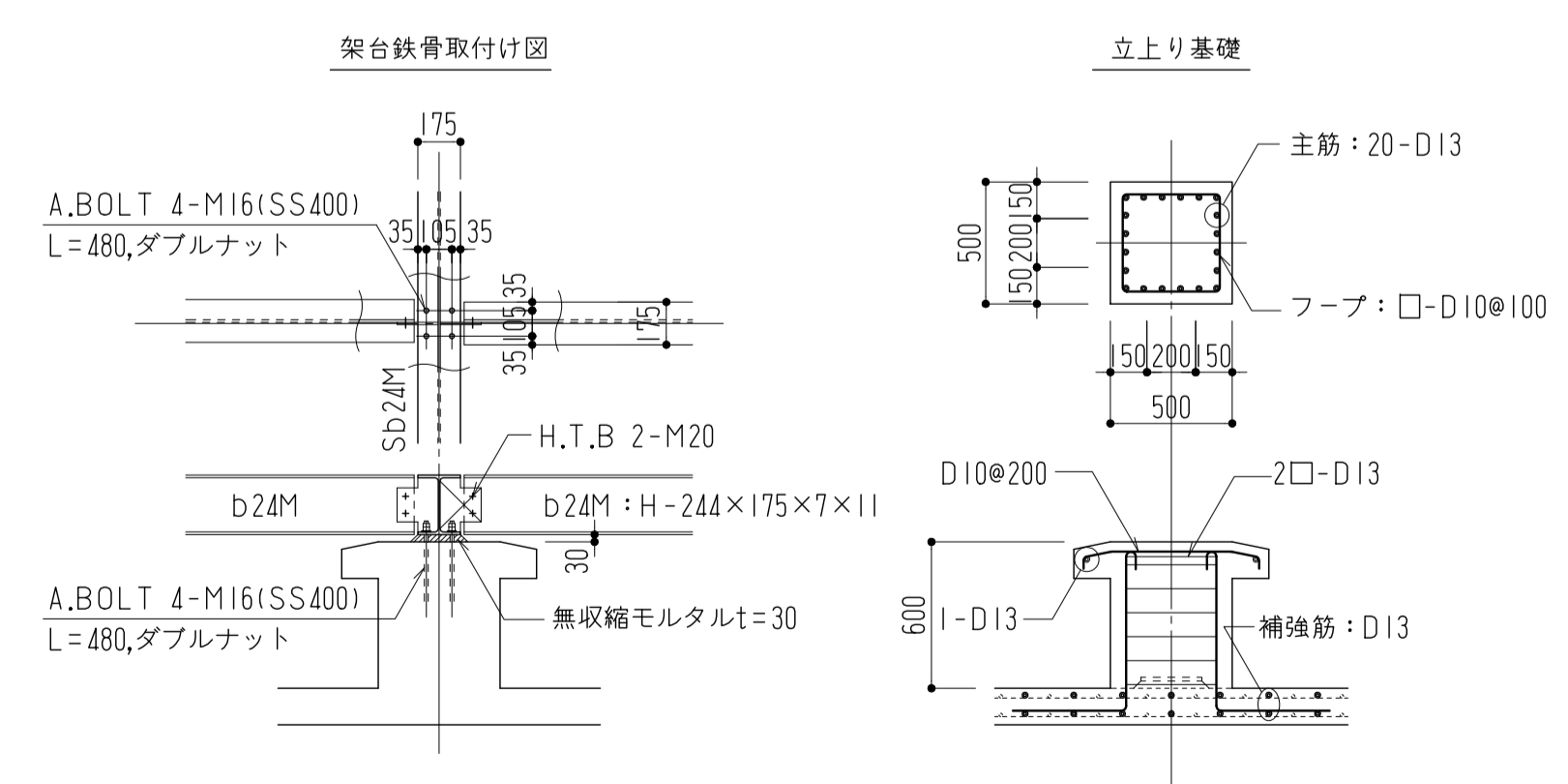
共通事項
 △ 印 : SNA90B (形鋼・鋼板)
 ○ 印 : SMA90A (形鋼・鋼板)
 ● 印 : SS400 (形鋼・鋼板)

Y3 通り鉄骨詳細図 縮尺 = 1:40



設備架台・目隠壁受け鉄骨梁伏図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)
 注記) 特記なき限り下記とする。
 1. 梁符号は、b19とする。
 2. 印はファイフロア(根太:L-75×75×6@600)又は、ファイフロアとする。

架台鉄骨取付け及び立上り基礎詳細図 縮尺=1:30



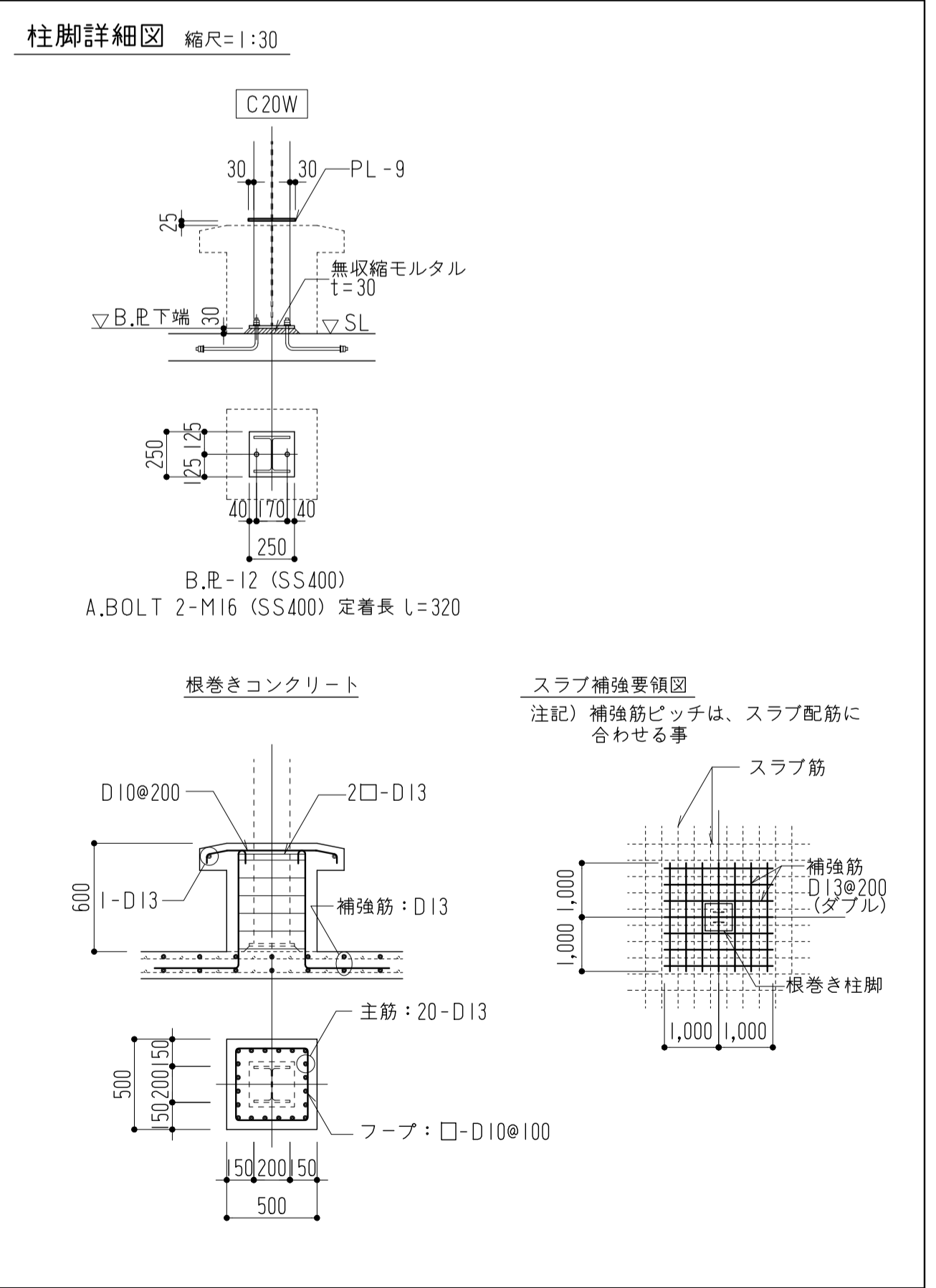
鉄骨小梁断面表 特記なき限り 1.鉄骨材質はSS400とし、溶融亜鉛メッキ仕上げとする。 2.H.T.Bは溶融亜鉛メッキホルトFTとする。

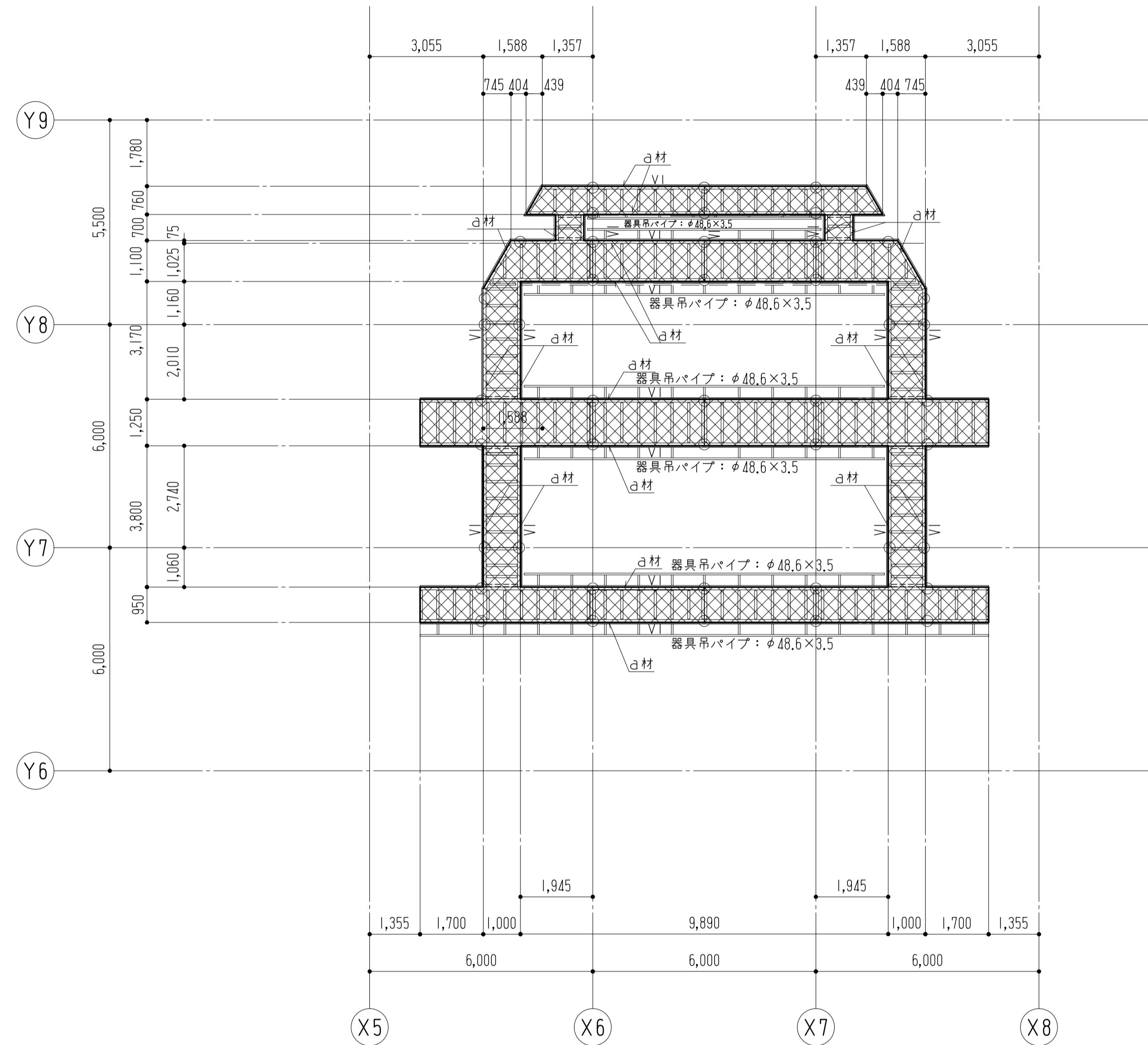
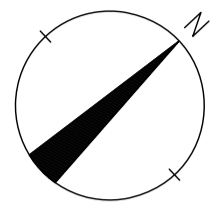
符号	部材	継手					備考
		継手タイプ	フランジ		ウェブ		
			外) S,R	内) S,R	HTB	S,R (G,R)	HTB
C20W	H - 200 x 200 x 8 x 12	—	—	—	—	—	—
P20	H - 200 x 100 x 5.5 x 8	A	—	—	—	(6)	2-M16
b24M	H - 244 x 175 x 7 x 11	A	—	—	—	(9)	2-M20
b24	H - 248 x 124 x 5 x 8	A	—	—	—	(6)	3-M16
b19	H - 198 x 99 x 4.5 x 7	A	—	—	—	(6)	2-M16
Hb19M	H - 194 x 150 x 6 x 9	A	—	—	—	(12)	2-M20
VI	L - 65 x 65 x 6	B	—	—	—	(9)	3-M16
L75	L - 75 x 75 x 9	—	—	—	—	—	横使い、水抜き孔 φ15 @ 1200
L65	L - 65 x 65 x 6	—	—	—	—	—	—

鉄骨継手タイプ		ボルトピッチ及び縁端距離	
タイプ	A	B	
	10 ee	ee	
	G,Rと同厚	$\theta \geq 30^\circ$	

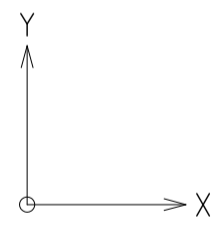
ボルト径	フランジ	ウェブ	縁端距離 e (mm)
M22	60	80	40
M20	60	70	40
M16	60	60	40

注記) 鉄骨断面表の備考欄に特記がある場合を除く。



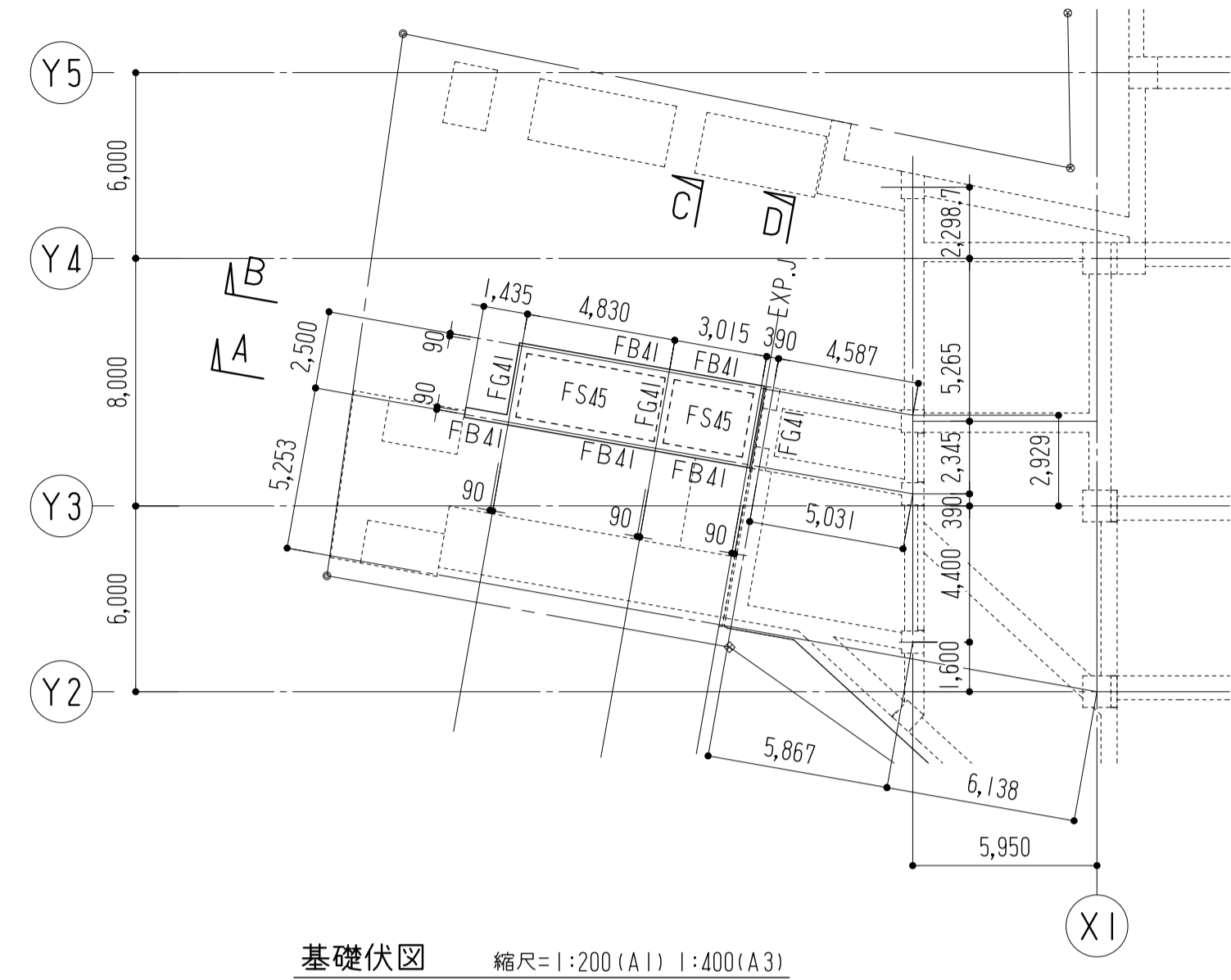
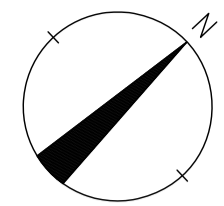


a材: (土台) [-150×75×6.5×10
 o: (吊材) [-150×75×6.5×10
 c材: (根太) L-65×65×6 @450
 VI: (斜材) L-65×65×6
 [Hatched Pattern]: エキスパンドメタル XG21 (工場溶接)
 ※特記無き部材は、c材 (根太) を示す。

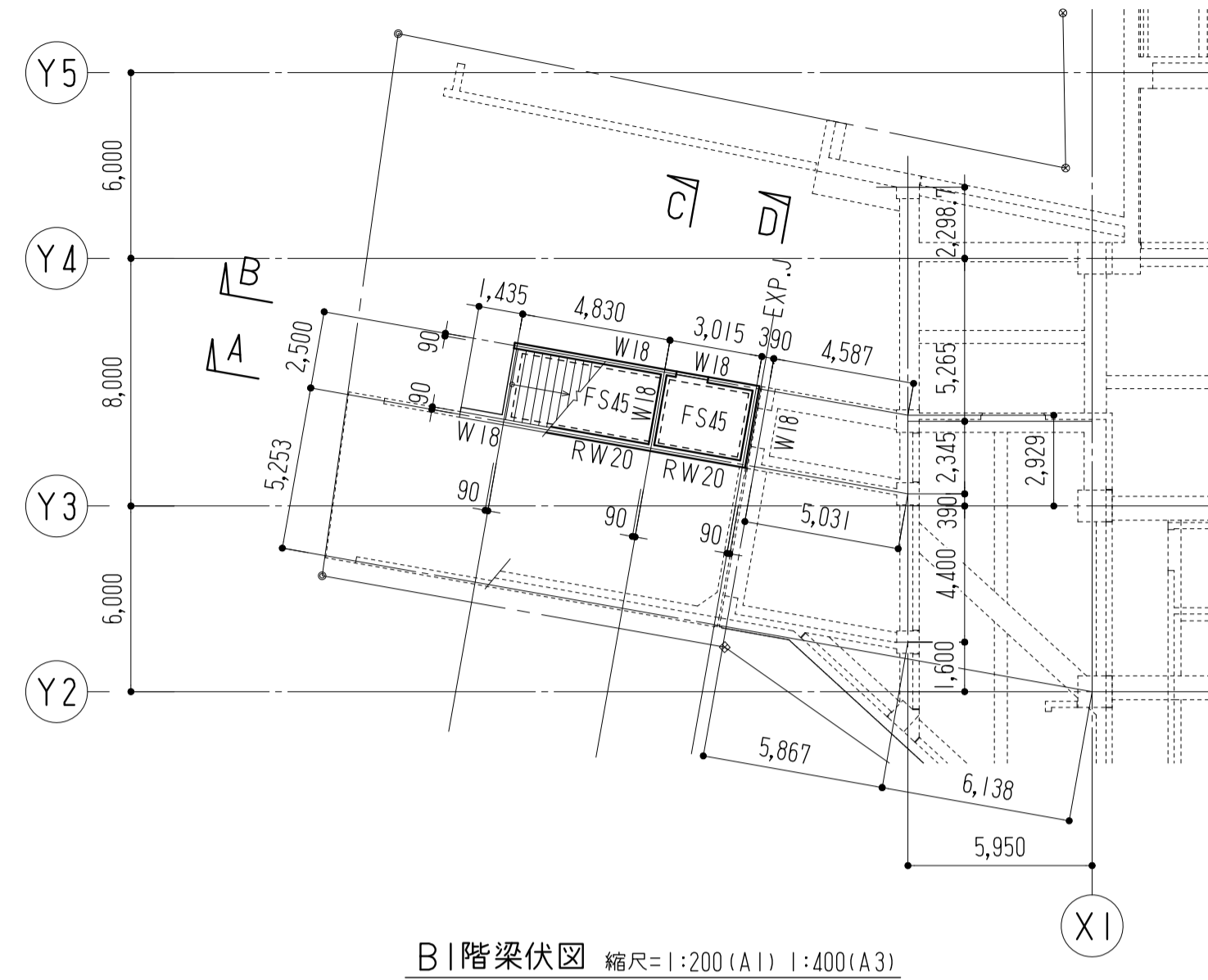


キャットウォーク梁伏図 縮尺=1:100 (A1) 1:200 (A3)

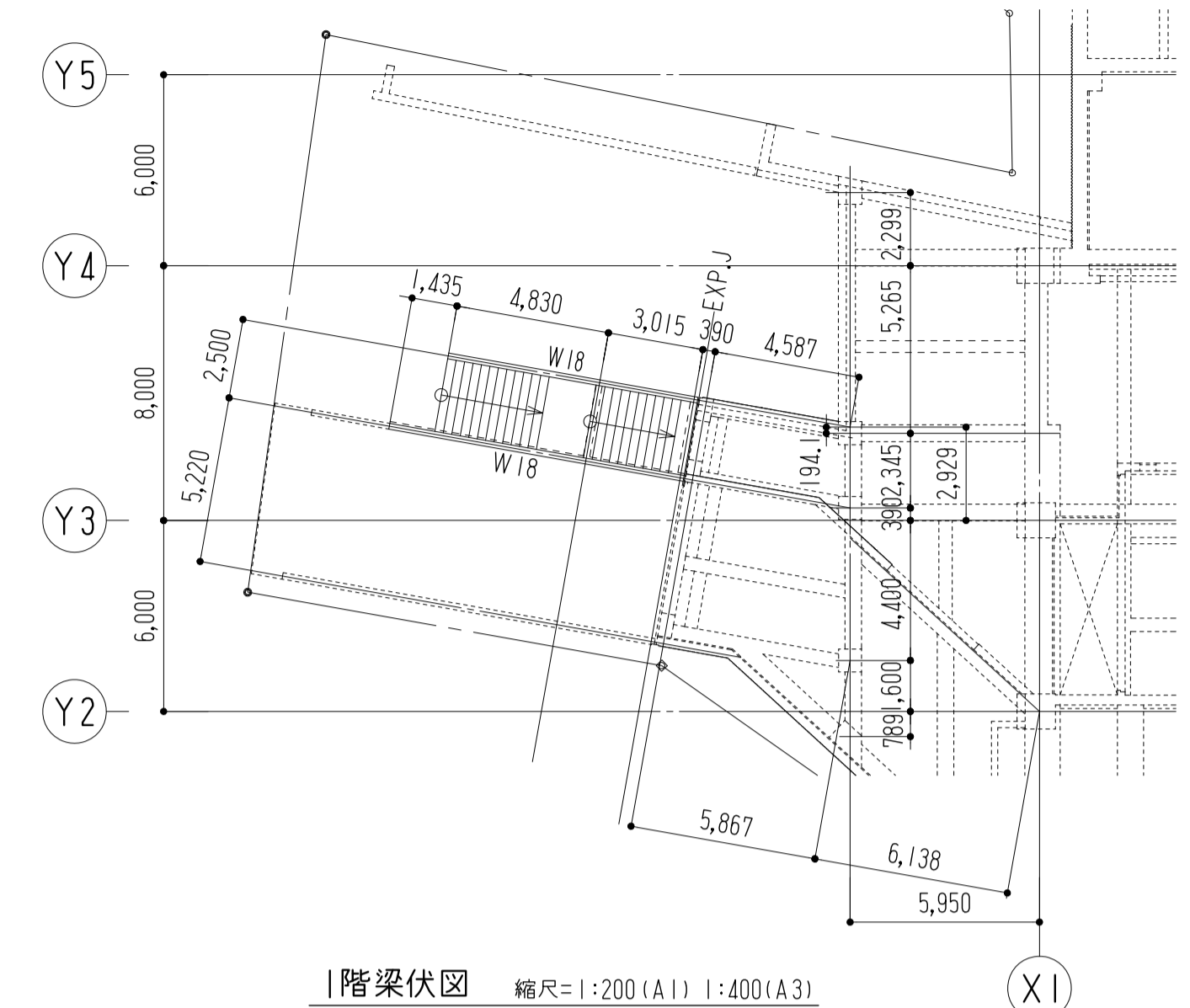
設計者		法適合確認欄	
一級建築士 第199758号 永廣 正邦	一級建築士 第274929号 西 謙一	構造設計一級建築士 第1417号 西 謙一	



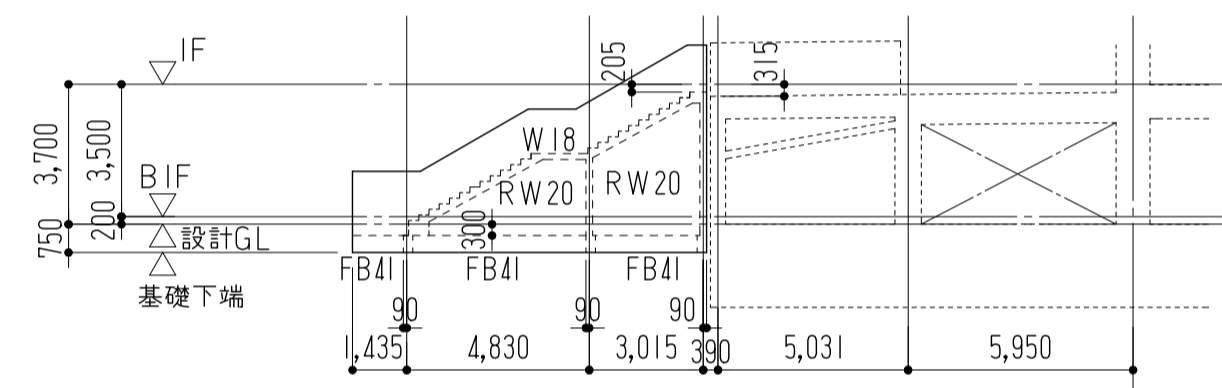
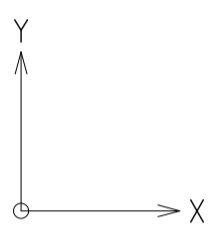
基礎伏図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)



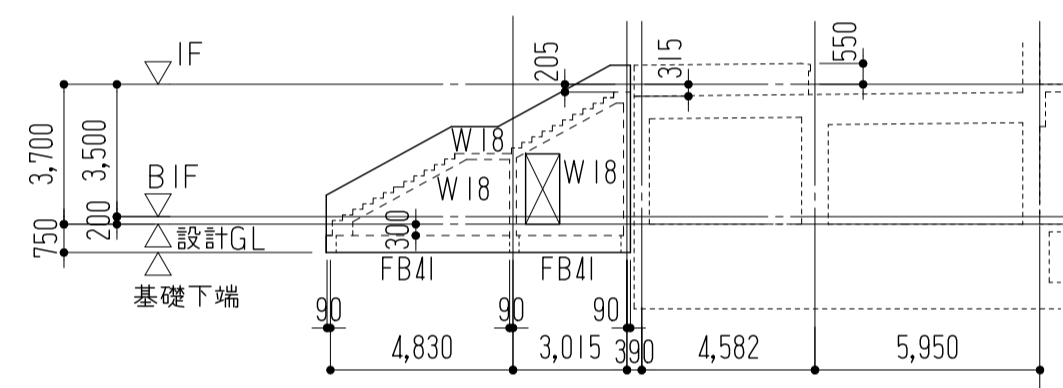
B1階梁伏図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)
注記) 1,FS45スラブ天端は、BIFL-500とする。



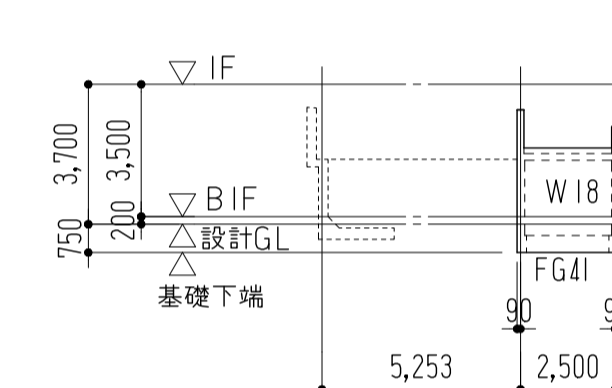
I階梁伏図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)



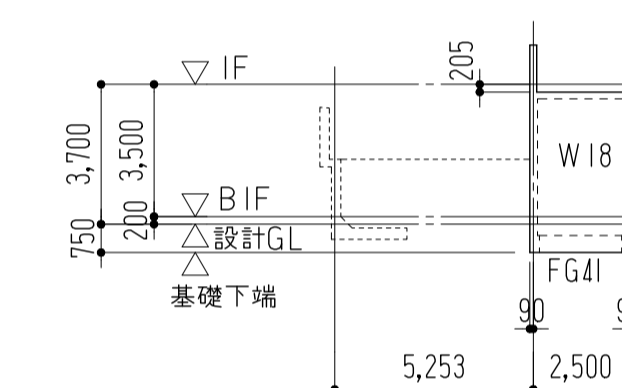
A断面図



B断面図



C断面図



D断面図

基礎梁断面表 縮尺=1:30

符号	FB41,FG41
断面	全断面 断面図 (500, 450, 300)
上端筋	3-D16
下端筋	3-D16
ST. タイプ	□-D13@200 A
中ST. タイプ	-
備考	

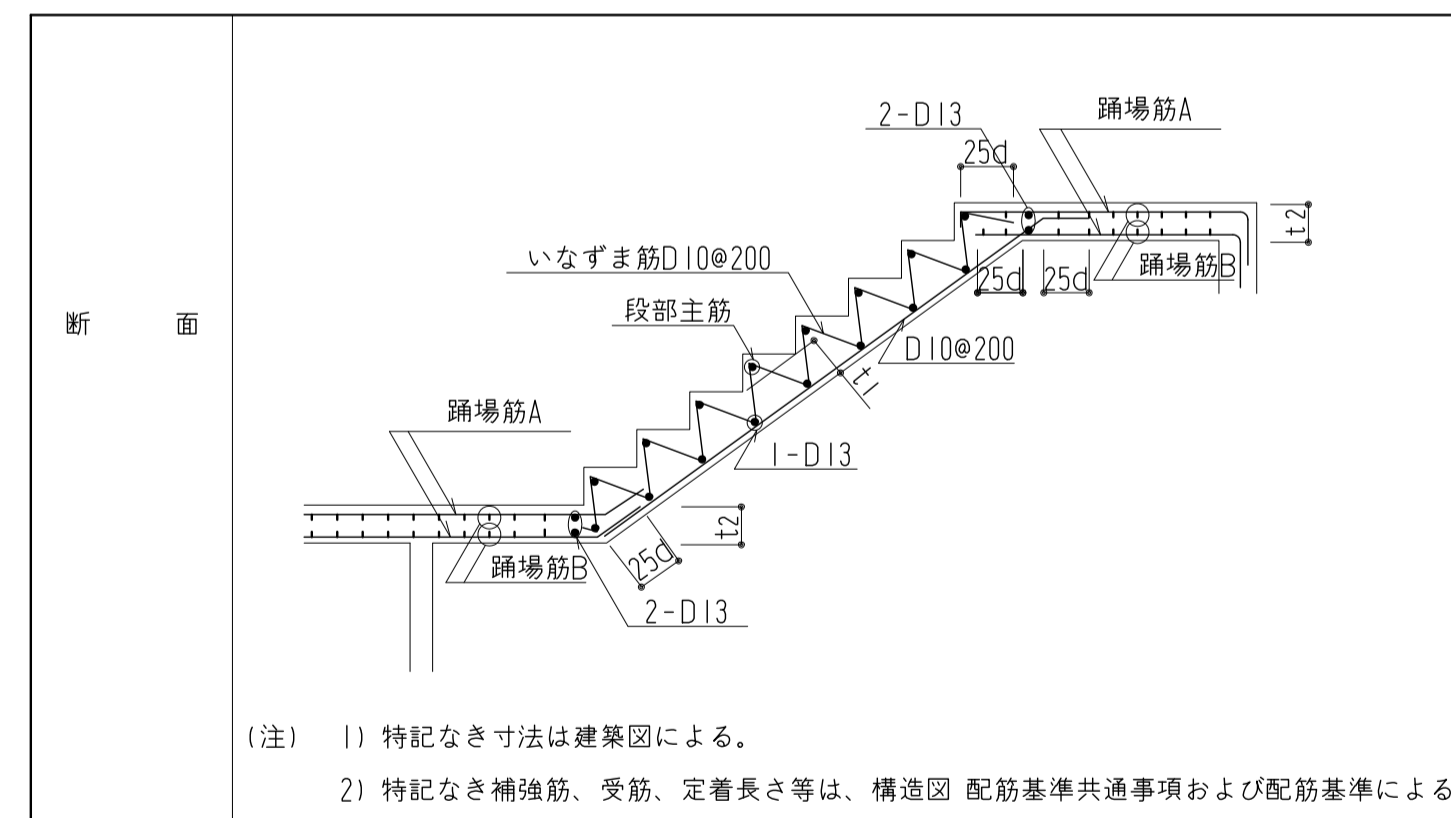
壁断面表 縮尺=1:30

符号	W18	RW20
断面	(外) (内) 断面図 (20, 80)	(外) (内) 断面図 (20, 200)
縦筋	D10,D13@200 (ダブル)	外 D13@100 内 D13@200
横筋	D10,D13@200 (ダブル)	D13@200 (ダブル)
幅止め筋	D10@1,000	D10@1,000
目地ふかし厚	20 (外)	20 (外)
備考		

耐力版断面表 縮尺=1:30

符号	FS45
断面	断面図 (450)
短辺方向	D16@200 (ダブル)
長辺方向	D16@200 (ダブル)
幅止め筋	D10@1,000
備考	

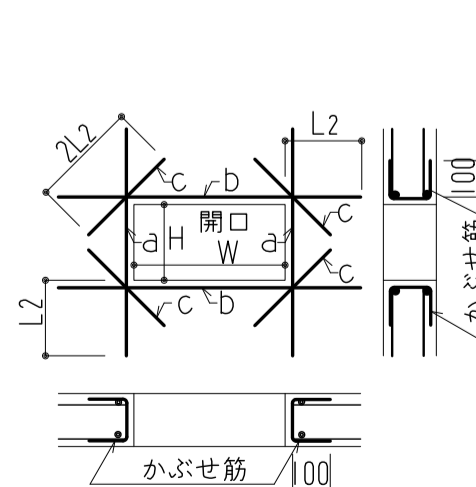
階段詳細図 縮尺=1:30



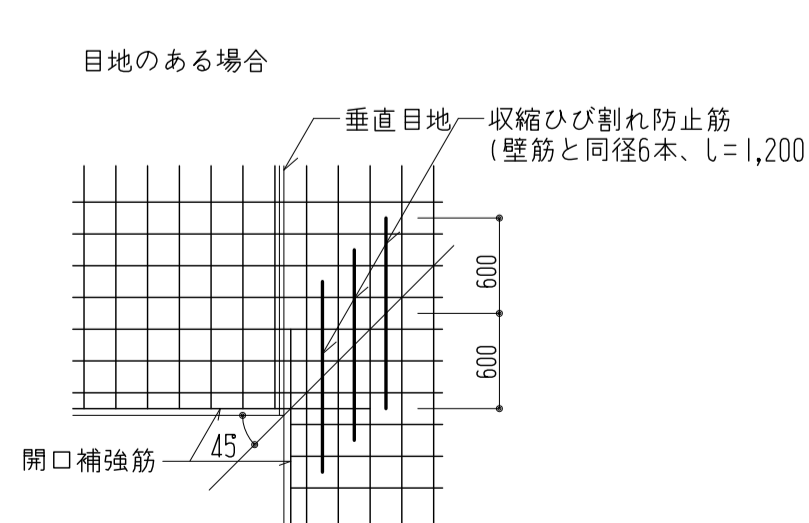
共通事項

- 特記なき限り 1. 鉄筋材質 D10~D16:SD295A
- 2. コンクリート FC24
- 3. 支持層は、細砂層とし、長期許容地耐力は、fa=200 kN/m とする。

(1) 開口補強筋



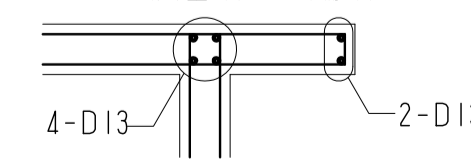
(2) 外壁ひび割れ防止筋 (開口補強筋に加えて配筋する)



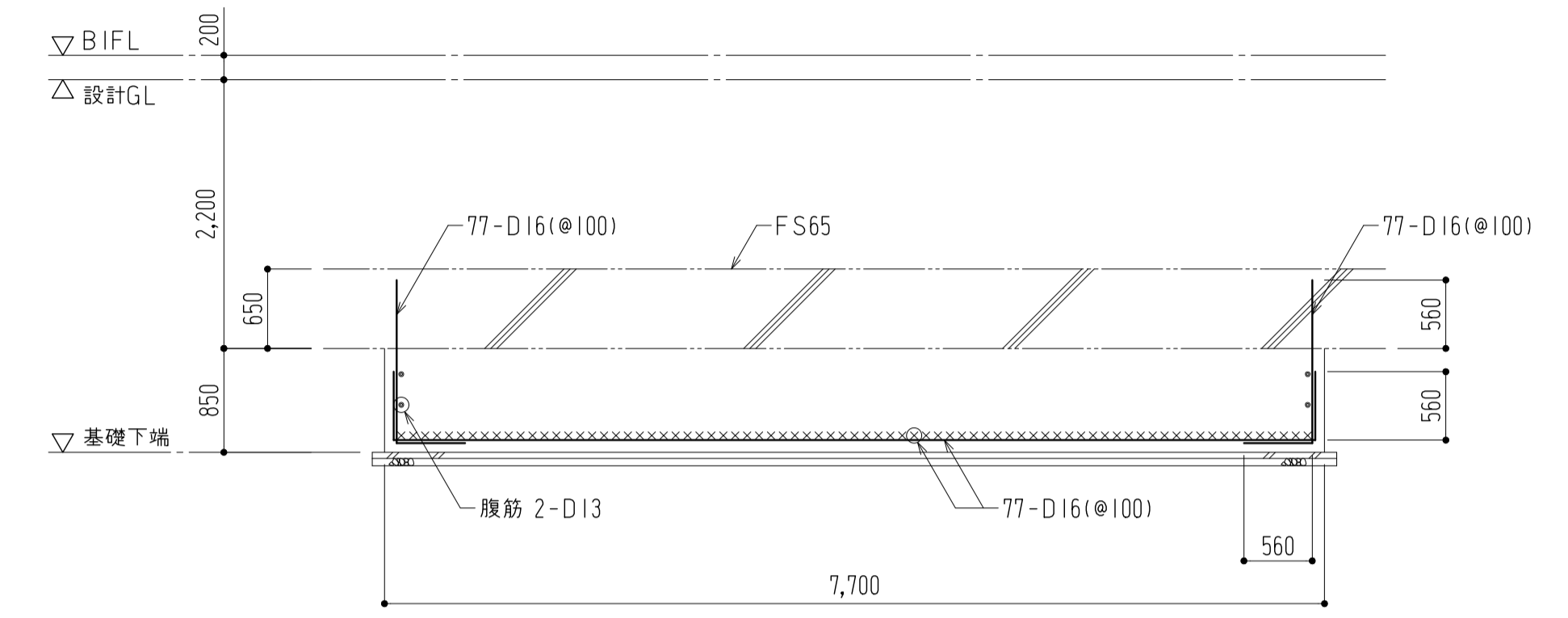
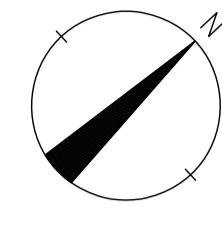
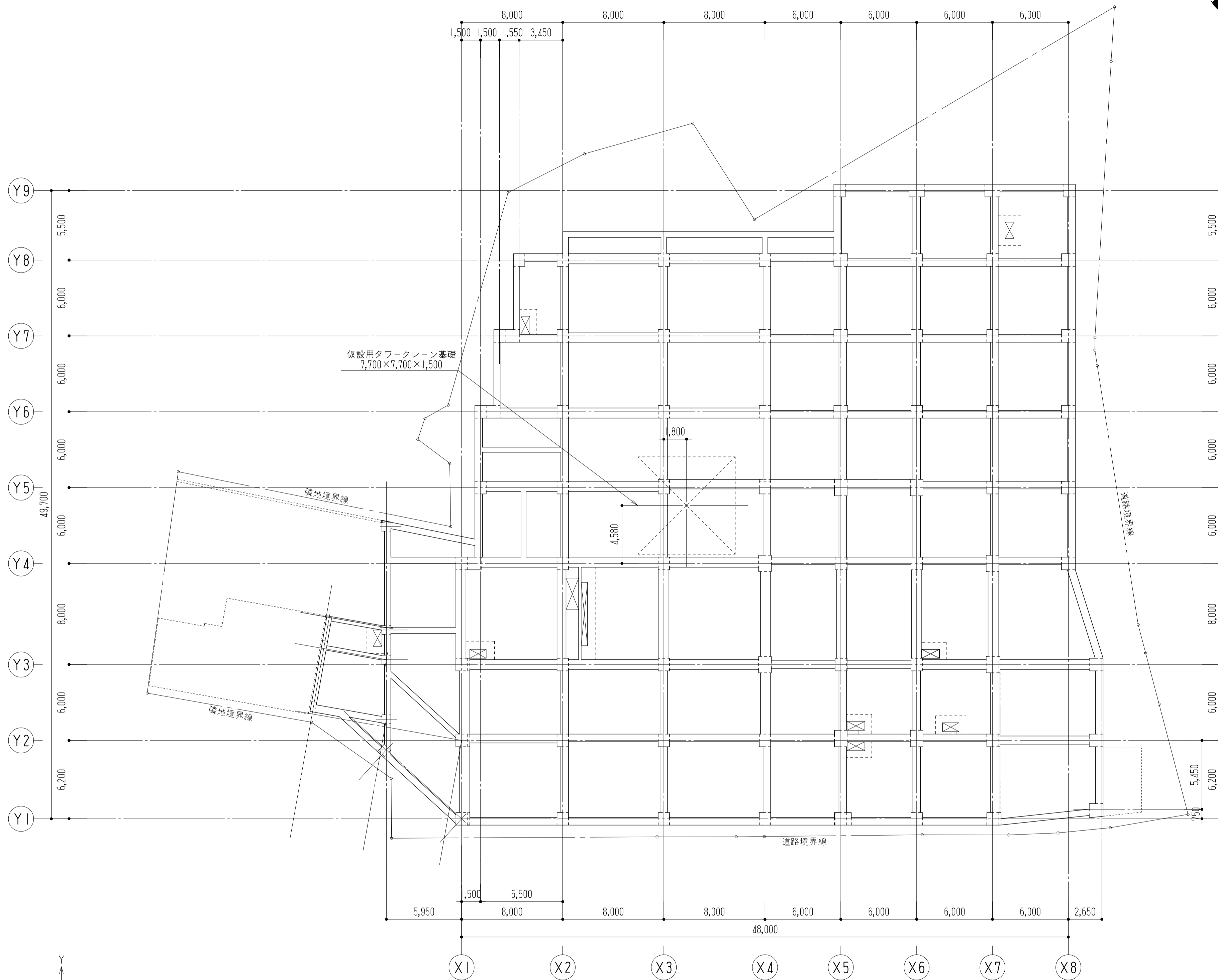
壁開口補強筋

符号	縦筋		横筋		斜筋
	H	a	W	b	
W18	H≤600	2-D13	W≤600	2-D13	2-D13
W18	H>600	2-D13	W>600	2-D13	2-D13

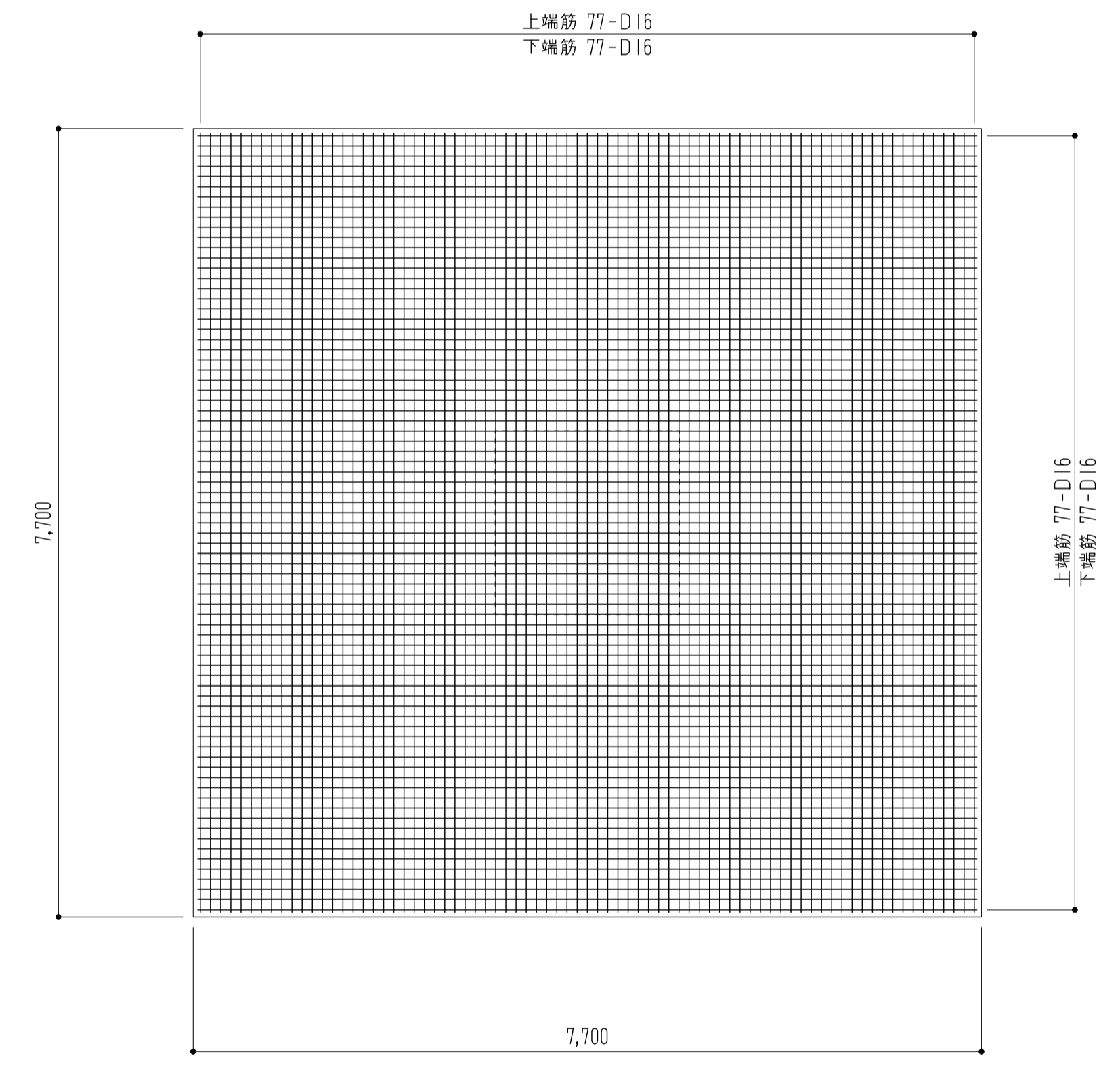
端部・交差部補強筋 (RW20, W18)



符号	段部		踊場		備考
	スラブ厚t1	段部主筋	スラブ厚t2	踊場筋 A	
階段	150	1-D13	150	D13@200	D13@200



仮設用タワークレーン基礎配筋詳細図 縮尺=1:50
(耐圧盤併用タイプ)



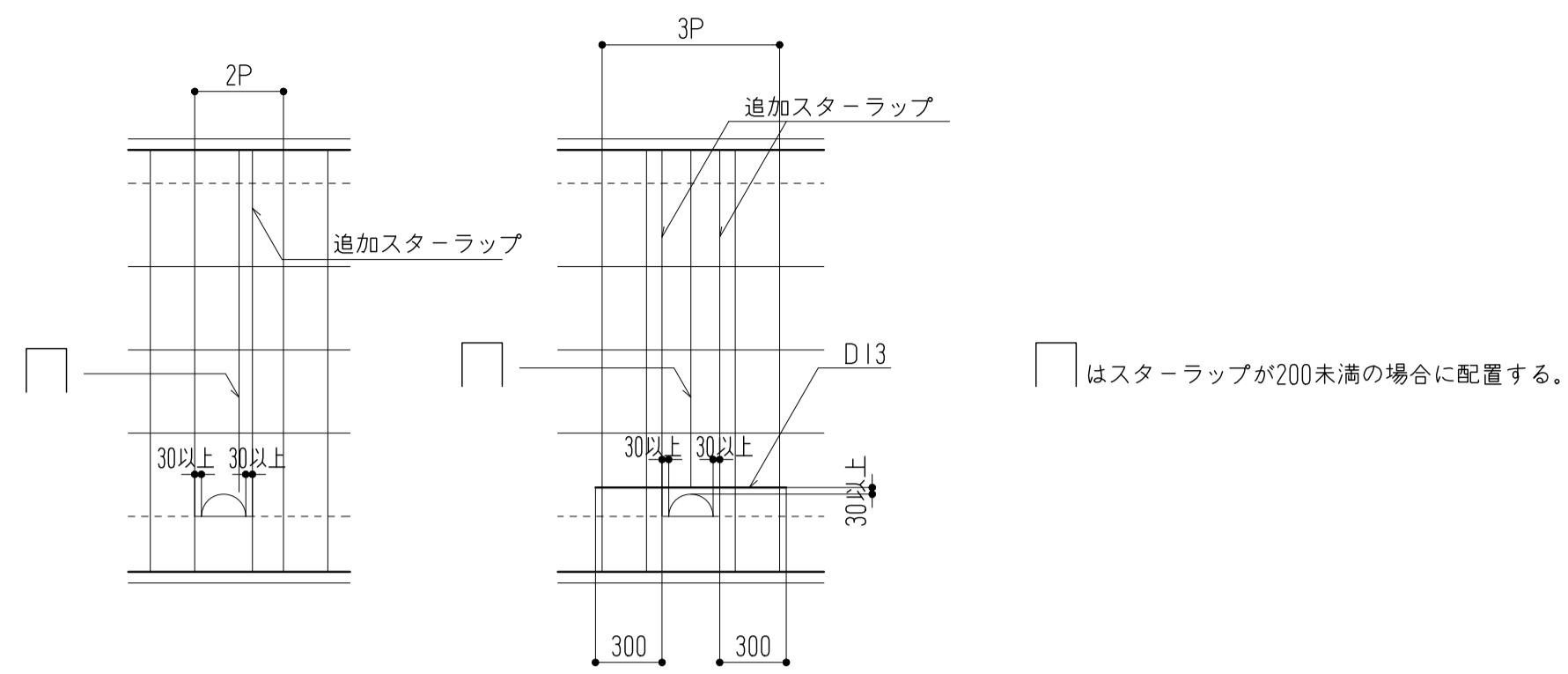
仮設用タワークレーン基礎配筋詳細図 縮尺=1:50

使用材料

普通コンクリート	FC=24 N/mm ² 以上
鉄筋	SD295A

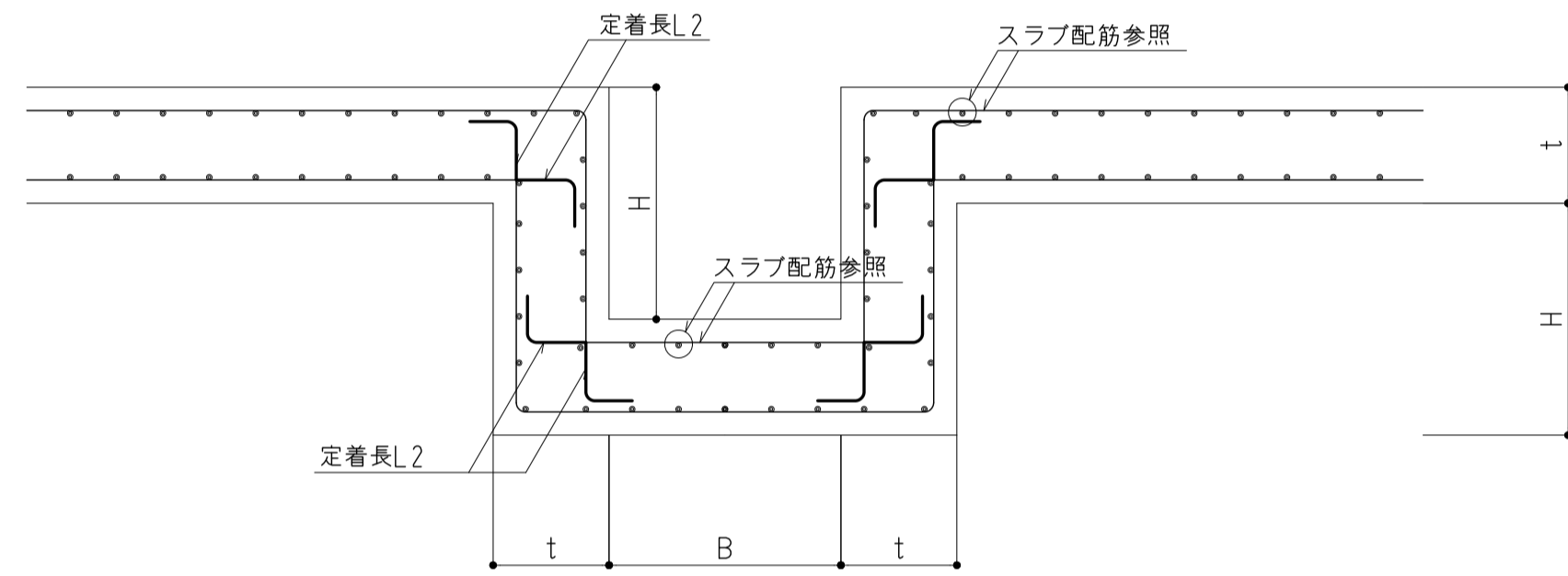
基礎伏図 縮尺=1:200(A1) 1:400(A3)

連通管



Pはスターラップのピッチ

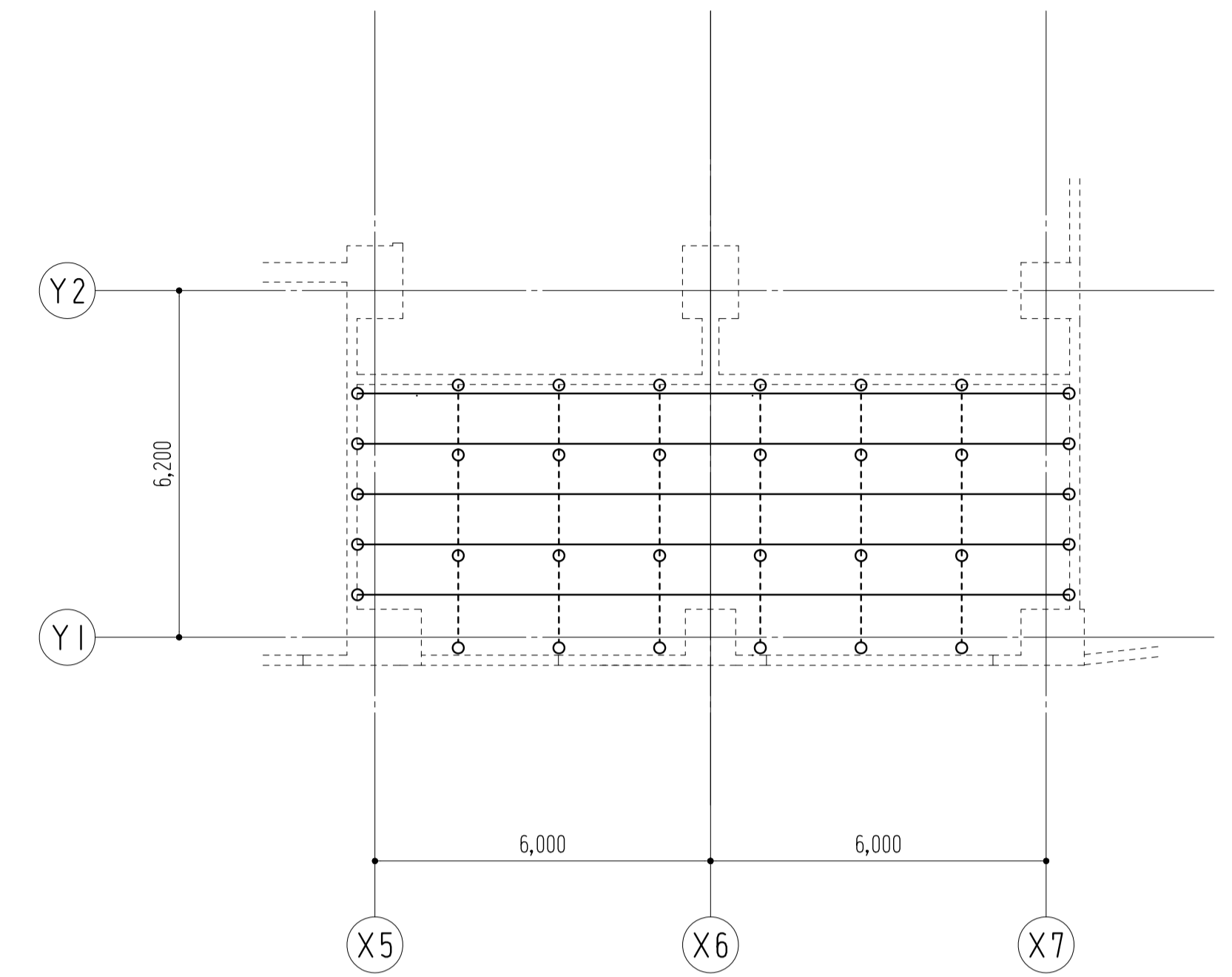
基礎スラブ釜場配筋



B,H: 建築図による。
 $B \leq 1,000$ $H \leq 1,000$
 t: 基礎スラブ厚

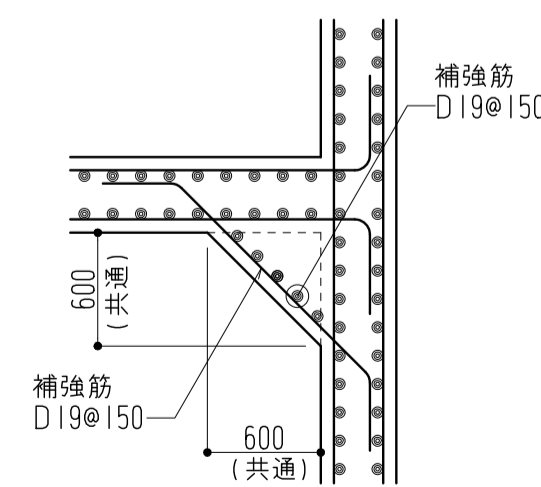
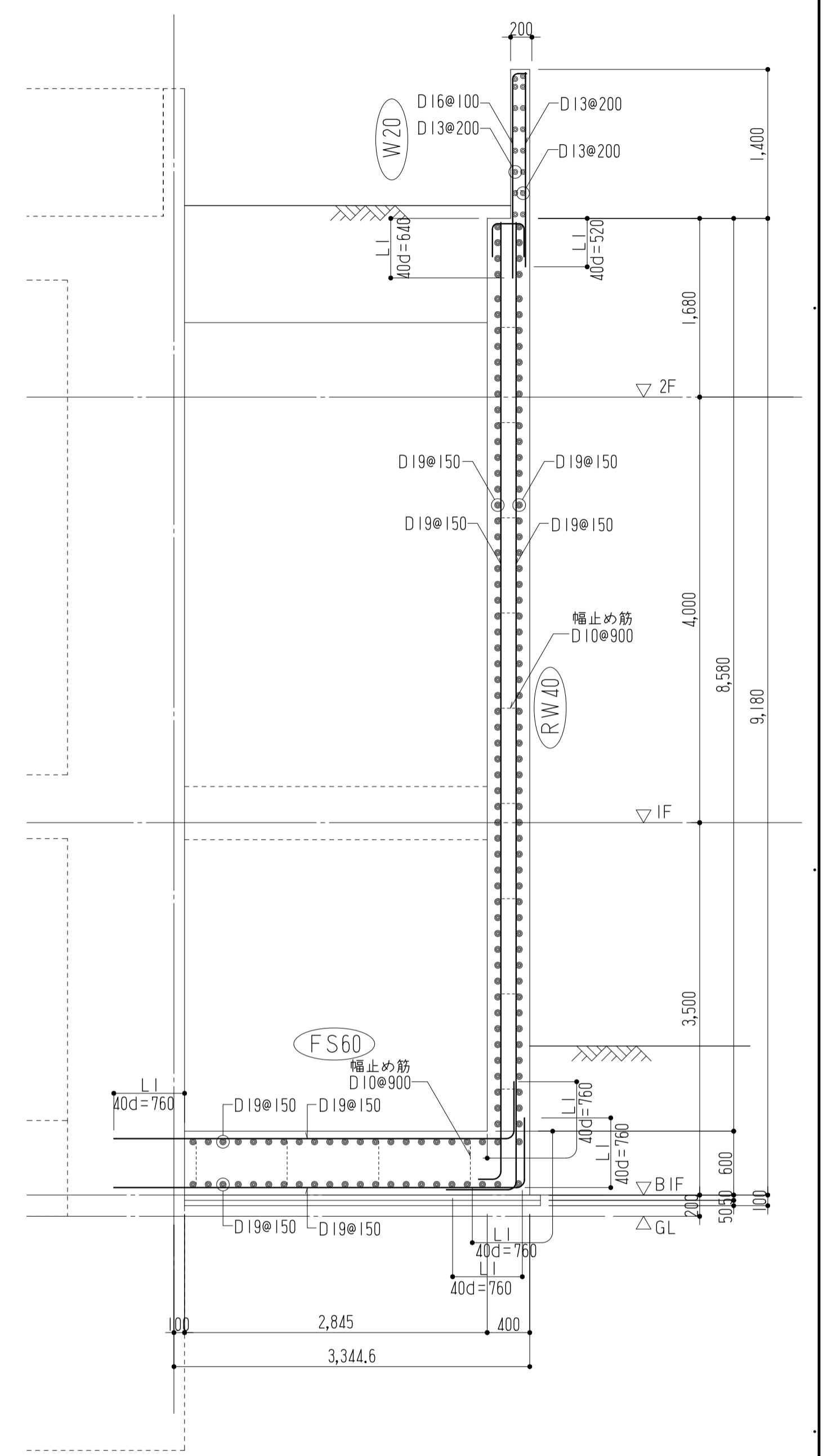
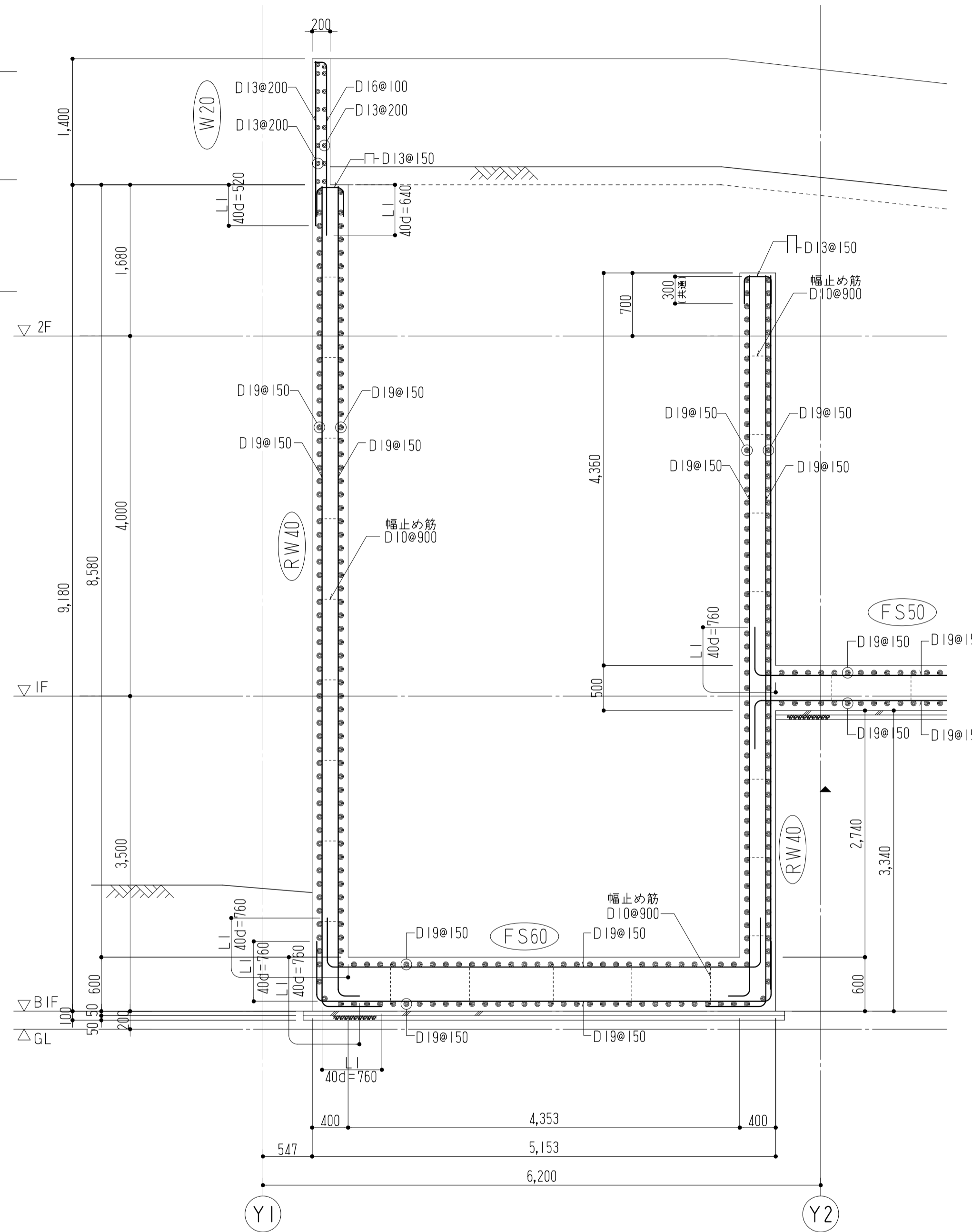
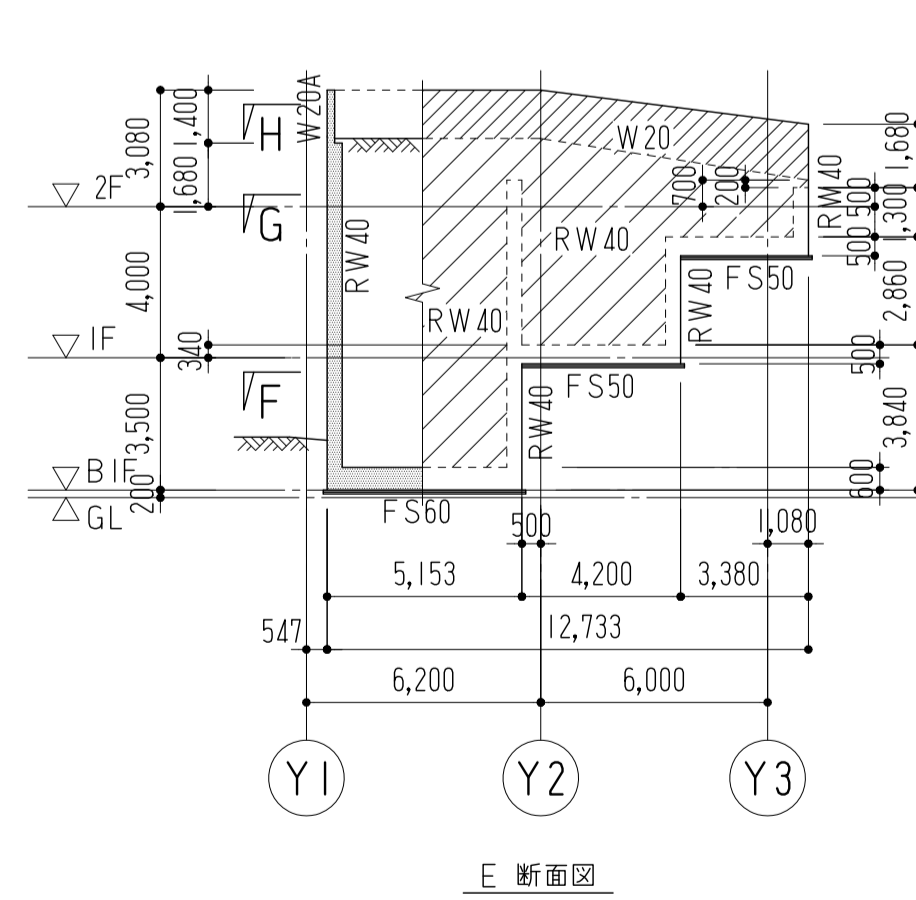
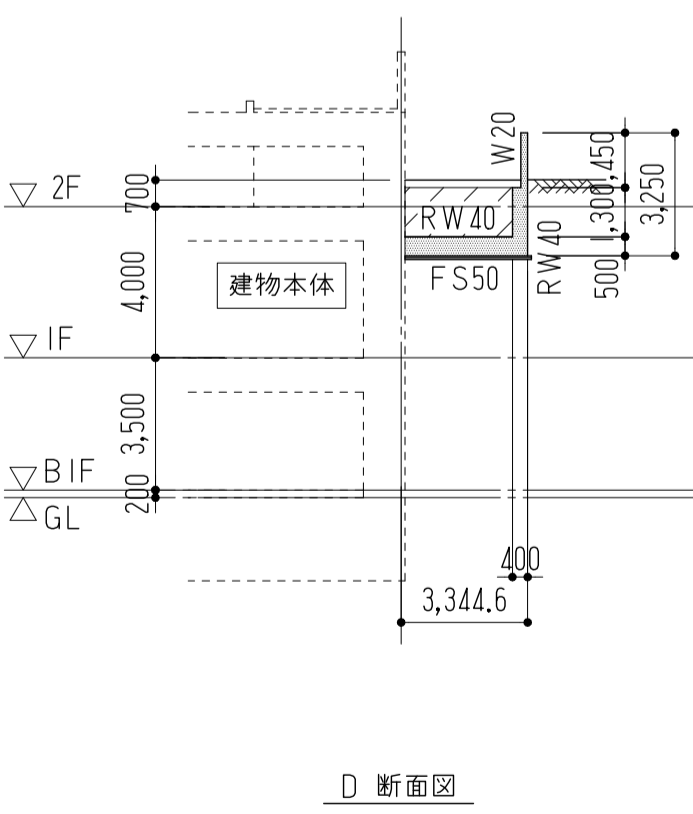
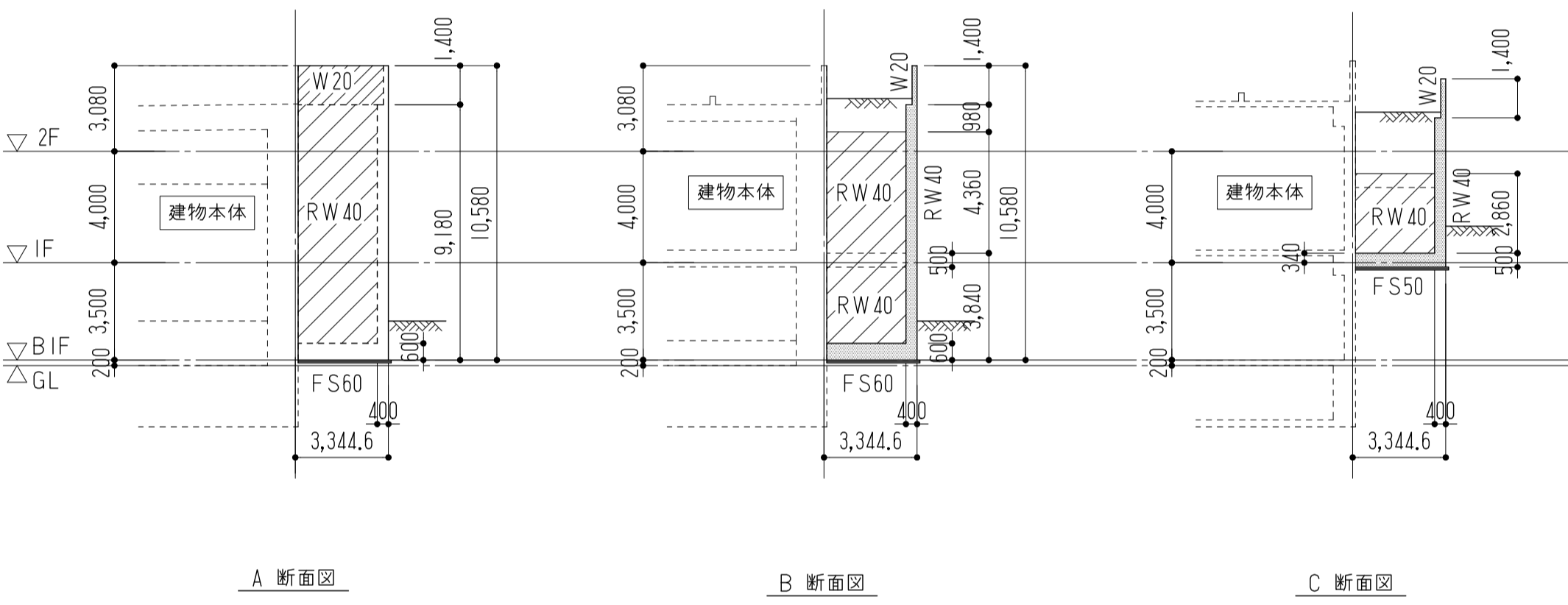
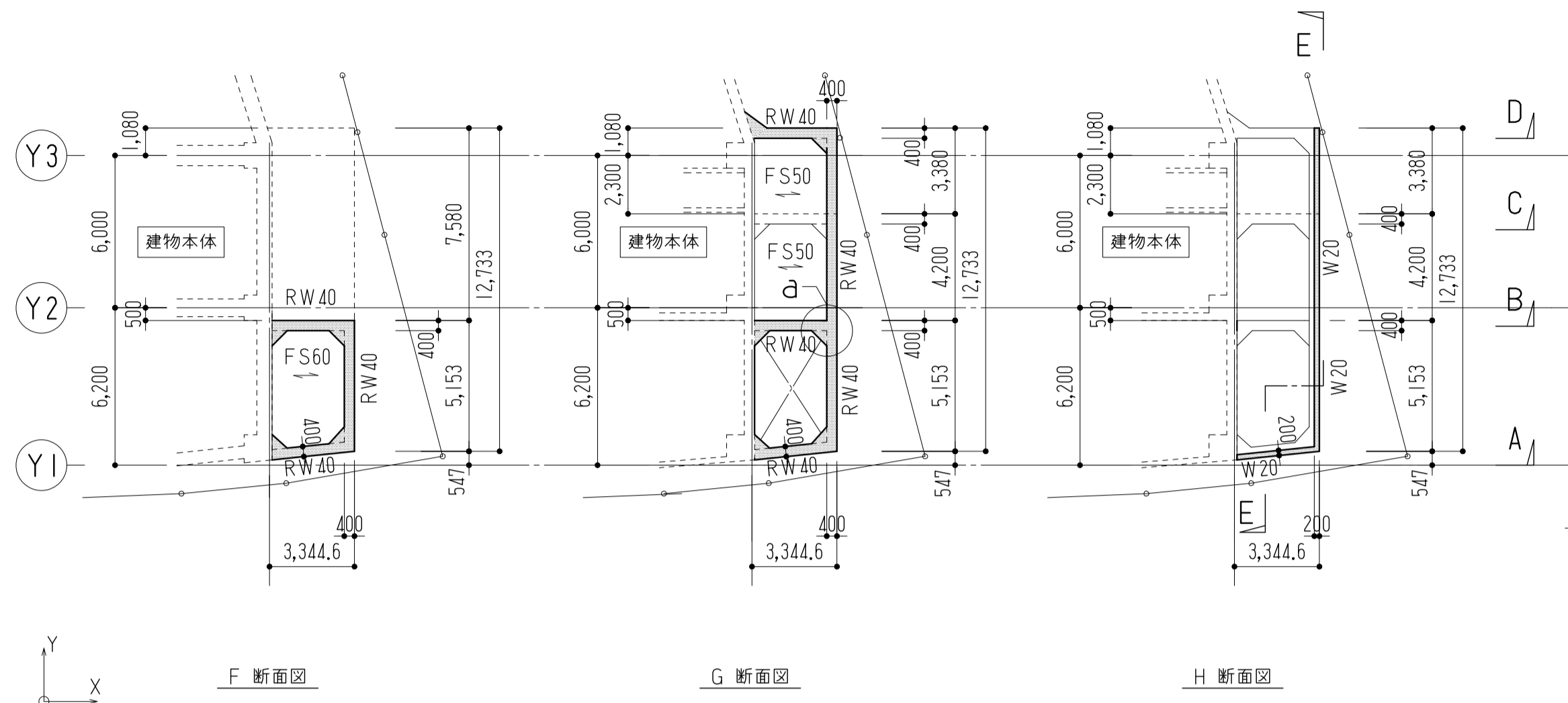
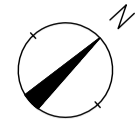
ピット釜場配筋要領図

B1階スロープ下天井補強図



スロープ下天井材補強図 縮尺=1:100(A1) 1:200(A3)

天井材補強用部材については、天井から1,500以内に設置とする。
 天井、設備受領は300N/m以内とする。
 —C-100x50x20x2.3(根木材) @900
 ○: 吊材又は躯体取り合い @1,800、@900
 吊材 L-65x65x6
 継手 1-5分又は2-5分(普通ボルト)
 - - - -C-100x50x20x2.3(大引材) @1,800
 継手 1-5分(普通ボルト)



a部 詳細図

- 共通事項) 特記なき限り
- コンクリート材質 Fc30, スラップ 18cm
 - 鉄筋材質
 - D19・・・SD345
 - D13・・・SD295A
 - D10・・・SD295A
 - 許容地耐力 200 kN/m² (長期)

3.2 構造レイヤ・線種基本

(1) 線種の定義

「構造設計図作成要領」2-1における、線の種類・太さは下記の通りとする。

線種の設定

- ・本基準共通編1.4の設定に従った上で、「実線」「破線」「一点鎖線」に該当するものを利用する。
- ・同パターンでピッチの違う線種(例えばDOTK1~3等)の使い分けは、図面としての見栄えによって判断する。
→右表のレイヤと線種の間を参考にしてもよい。

線の太さ

- ・線の太さの目安は右記とする。
(S_モノクロ100Ver01.ctbを利用した場合)

線種	色	太さ(ペン番号)
線なし	42	
細線	赤・241	1
中線	白・水色・青	2
中太線	緑	3
太線	黄	5
極太線	紫	7

(2) レイヤ

標準的な利用におけるレイヤの初期設定を下表および右表に示す。

レイヤの一覧 各図面における標準的なレイヤの利用は次ページ以降に示す。

補助線の作図 作図に必要な補助線は原則として「HOJO」レイヤ(42番色)を利用する。
→42番色はプロッターに出力されない

(3) レイヤ初期設定(標準 および一般作図線)

レイヤ名	色		PENの太さ*1	線種	用途	備考
0	7	白	2	CONTINUOUS	標準	
001	1	赤	1	CONTINUOUS	一般作図線	
002	2	黄	5	CONTINUOUS	一般作図線	
003	3	緑	3	CONTINUOUS	一般作図線	
004	4	水	2	CONTINUOUS	一般作図線	
005	5	青	2	CONTINUOUS	一般作図線	
006	6	紫	7	CONTINUOUS	一般作図線	
007	7	白	2	CONTINUOUS	一般作図線	
1CHAIN0	1	赤	1	0_CENTERK1	一般作図線	開口マーク
1CHAIN1	1	赤	1	0_CENTERK2	一般作図線	開口マーク
1CHAIN2	1	赤	1	0_CENTERK3	一般作図線	
1CHAIN3	1	赤	1	0_CENTERK4	一般作図線	
1CHAIN4	1	赤	1	0_CENTERK5	一般作図線	
2HASEN1	7	白	2	0_HIDDENK1	一般作図線	
2HASEN2	7	白	2	0_HIDDENK2	一般作図線	
2HASEN3	7	白	2	0_HIDDENK3	一般作図線	
2HASEN4	7	白	2	0_HIDDENK4	一般作図線	
2SOLID	7	白	2	CONTINUOUS	一般作図線	
2TENSEN1	7	白	2	0_DOTK1	一般作図線	
2TENSEN2	7	白	2	0_DOTK2	一般作図線	
2TENSEN3	7	白	2	0_DOTK3	一般作図線	
2WCHAIN1	7	白	2	0_PHANTOMK1	一般作図線	
2WCHAIN2	7	白	2	0_PHANTOMK2	一般作図線	
2WCHAIN3	7	白	2	0_PHANTOMK3	一般作図線	

(4) レイヤ初期設定(各要素作図用)

レイヤ名	色		PENの太さ*1	線種	用途	備考
BRACE	2	黄	5	CONTINUOUS	伏図水平ブレース	軸組図鉛直ブレース
BRACE-1	2	黄	5	0_DOTK2	鉛直ブレース	
FOUNDATION	7	白	2	0_DOTK2	基礎 スラブ有り	
FOUNDATION-1	7	白	2	CONTINUOUS	基礎 スラブ無し	
FOUNDATION-2	3	緑	3	CONTINUOUS	基礎 軸組図	
HARI	7	白	2	0_DOTK2	RC大梁	
HARI-1	7	白	2	CONTINUOUS	RC梁スラブ無し・スラブ段差	
HARI-2	3	緑	3	CONTINUOUS	S大梁	軸組図 S,RC大梁
HARI-3	3	緑	3	0_DOTK2	軸組図 RC大梁壁付	
HARI-S	7	白	2	0_DOTK2	RC小梁	
HARI-S-1	7	白	2	CONTINUOUS	RC小梁スラブ無し	
HARI-S-2	3	緑	3	CONTINUOUS	S小梁	
HASIRA	2	黄	5	CONTINUOUS	柱躯体線	
HASIRA-1	7	白	2	0_DOTK2	RC柱・SRC柱下階表示	
HASIRA-2	7	白	2	CONTINUOUS	S柱下階表示	
HASIRA-3	3	緑	3	CONTINUOUS	軸組図 S柱・RC柱	
HASIRA-4	3	緑	3	0_DOTK2	軸組図 RC柱壁付	
HATCH-1	241	241	1	CONTINUOUS	ハッチ用1	
HATCH-2	241	241	1	CONTINUOUS	ハッチ用2	
HATCH-42	42	42	-	CONTINUOUS	ハッチ用補助線	印刷されない
HIKIDASI	1	赤	1	CONTINUOUS	引き出し線	
HOJO	42	42	-	CONTINUOUS	補助線	
HOOP-ST	7	白	5	CONTINUOUS	フープ・スタラップ(RC詳細)	印刷されない
JOINT	3	緑	3	CONTINUOUS	継手	
KABE	2	黄	5	CONTINUOUS	壁断面線	
KAIDAN	4	水	2	CONTINUOUS	階段記入用	
KIJUN	1	赤	1	0_CENTERK4	通り芯	
KOSIKABE	7	白	2	CONTINUOUS	壁開口・腰壁	
KUI	7	白	2	0_DOTK2	基礎伏図等の杭躯体線	
KUI-1	2	黄(緑)	5(3)	CONTINUOUS	杭伏図の杭躯体線	
KUI-2	7	白	2	CONTINUOUS	杭伏図の杭躯体線	
KUTAI	7	白	2	CONTINUOUS	躯体線	
KUTAI-1	7	白	2	0_DOTK2	躯体線(点線)	
MAJIKIRI	2	黄	5	CONTINUOUS	間仕切壁	
MARK	7	白	2	CONTINUOUS	マーク類	
MOJI	7	白	2	CONTINUOUS	文字	
SIN-M	4	水	2	CONTINUOUS	基準枠用	
SIN-M2	7	白	2	CONTINUOUS	基準枠用	
SIZE	42	42	-	CONTINUOUS	図面外枠	印刷されない
SLAB	4	水	2	CONTINUOUS	スラブ	
SUNPO	7	白	2	CONTINUOUS	寸法線	
TEKKIN	7	白	2	CONTINUOUS	鉄筋	
TEKKIN-1	2	黄	5	CONTINUOUS	詳細図主筋	
TEKKOTU	4	水	2	CONTINUOUS	詳細図鉄骨部材1	
TEKKOTU-1	2	黄	5	CONTINUOUS	詳細図鉄骨部材2	
TEXT	7	白	2	CONTINUOUS	図面枠用文字	
TEXT-L	2	黄	5	CONTINUOUS	文字-大	
TEXT-M	3	緑	3	CONTINUOUS	文字-中	
TEXT-S	7	白	2	CONTINUOUS	文字-小	
WAKU	4	水	2	CONTINUOUS	断面表	
WAKU1	2	黄	5	CONTINUOUS	基準枠用	
WAKU2	3	緑	3	CONTINUOUS	基準枠用	
WAKU3	3	緑	3	CONTINUOUS	基準枠用	
WAKU4	7	白	2	CONTINUOUS	基準枠用	
WAKU5	2	黄	5	CONTINUOUS	基準枠用	
ZATU	7	白	2	CONTINUOUS	雑詳細用、その他	